0027903-000

337．32－G13g

銀の問題

外務省調査部第四課・編

日本国際協会

1937

ADH

東京都千代田区丸ノ内二ノ八(仲十二号館六号四一室)
芳澤中國記念事業財團
電話(28)四一〇八番

外務省調査部編纂

銀の問題

日本國際協會發行

337.32
G19g

国立国会図書館蔵書

国立国会
35.3.1
図書館

512959

はしがき

銀の問題殊に米國及び支那の銀政策が我が通商關係に至大の影響を有することは云ふまでもない。本書は外務省調査部第四課の編纂に係るものであるが必須の參考資料なるにより、茲に同調査部の同意を得て之を印刷に附し江湖に薦むることゝした。

昭和十二年一月

日本國際協會

小序

一、本調書ハ主トシテ米國ノ銀政策ニ關シテ解說ヲ試ミ併セテ銀ニ關スル概括的記述ヲ爲シ且本邦ニ密接ナル利害關係アル支那ノ銀政策ニ論及セリ

二、支那ノ通貨政策ニ關シテハ單ニ新幣制改革ノ原因及經過ヲ記述シタルニ過ギザルモ新幣制ニ對スル今後ノ我方對策ノ決定上聊カ參考ニ資セムトシタルモノナリ

三、米國銀政策ノ將來及支那ニ於ケル銀問題ハ本邦通商政策上重要按件ナルニ鑑ミ玆ニ執務上ノ參考トシテ本調書ヲ上梓スルコトトセリ

昭和十一年六月

調査部第四課

目次

第一章　銀ノ地位……一
第一款　銀ノ價値……一
第二款　貨幣トシテノ銀……五
一、西洋ニ於ケル貨幣トシテノ銀……五
二、支那ニ於ケル貨幣トシテノ銀……六
第三款　銀ノ需給關係……一四
一、銀ノ生產……一四
二、世界銀保有高……二〇
三、銀ノ消費……二〇
四、銀ノ需給高……二三
第四款　銀價變動ト其ノ影響……二六
一、銀價變動ノ原因……二六

頁

二、銀價變動ノ影響……二九
第二章　國際銀決議及協定……三三
第一款　一九三三年國際經濟會議ニ於ケル銀ニ關スル決議……三三
第二款　銀ノ任意賣却及買上ニ關スル八ケ國協定……三九
第三章　亞米利加合衆國ノ銀政策……四三
第一款　「アメリカ」合衆國ニ於ケル銀貨幣制度ノ沿革……四三
一、一七九二年貨幣法……四三
二、一八三四年法律……四三
三、一八五三年法律……四四
四、一八七三年法律……四五
五、合衆國紙幣「グリーン、バックス」……四五
六、銀　運　動……四六
七、一八七八年「ブランド、アリソン」條例……四八
八、一八九〇年「シャーマン」條例……五〇
九、一九〇〇年法律……五二
第二款　金融恐慌ト一九三四年金準備法……五四
一、金融恐慌對策……六〇
二、一九三四年金準備法……六〇
第三款　最近ニ於ケル銀立法……六三
一、一九一八年「ピットマン」條例……六九
二、一九三三年農業調整法「トマス」修正條項……六九
三、一九三四年銀購買法……七〇
四、「ルーズベルト」大統領ノ銀政策……七四
五、銀立法ノ理由……七九
第四章　支那最近ノ銀政策……八三
第一款　銀價騰貴ニ對スル國民政府ノ對策……八九
一、亞米利加政府ニ對スル抗議……八九
二、國民政府ノ國内銀政策……八九

(一) 一九三四年外國爲替管理令
(二) 同年標金取引外貨決濟禁止令
(三) 同年銀輸出稅及平衡稅
(四) 銀再輸出稅ノ減免
(五) 銀密輸出取締
(六) 一九三五年雜銀買上法令
(七) 金融委員會ノ設置
(八) 在支外國銀行ノ「モラル、サポート」
第二款 支那幣制改革……九八
一、支那金融危機對策ニ關スル本邦銀行家ノ意見……九八
二、「リースロス」氏ノ對支借款案……九九
三、幣制改革ニ關スル支那政府財政部命令……一〇〇
四、新幣制ト地方政權及香港政廳……一〇三
五、外國銀行側ノ態度竝ニ新幣制實施ニ關スル支那側措置振リ……一〇四
六、新幣制ニ關スル新聞論調……一〇九
七、結論……一一二

附錄目次

第一、金銀比較表……一一七
第二、銀價變動表……一二三
第三、世界銀產額年表……一二七
第四、世界主要銀產國國別額年表……一二九
第五、世界銀生產額各地域別表……一三三
第六、銀及他金屬ノ生產增加率比較表……一三四
第七、世界銀保有高概算表……一三七
第八、北米合衆國銀消費額最近年表……一四〇
第九、支那及印度ニ於ケル銀ノ純輸出入額年表……一四一
第十、世界銀需給高最近年表……一四四
第十一、支那外國貿易表……一四六
第十二、支那及米國ニ於ケル銀價竝ニ物價表……一五三

第十三、支那國際收支表……一五四
第十四、中華民國銀本位幣鑄造條例……一五六
第十五、一九三三年國際銀決議……一五九
第十六、一九三三年八ヶ國銀協定……一六一
第十七、一九三四年八月大統領布告……一六六
第十八、一九三四年五月大統領教書……一七三
第十九、一九三四年銀購買法……一七七
第二十、一九三四年銀ニ關スル米支兩國政府往復書翰……一八九

銀問題ニ關スル調査

第一章　銀ノ地位

第一款　銀ノ價値

銀ハ他ノ商品ト等シク一般ニ其ノ價値ハ生産條件ニ依リ決定セラレルノデアルガ銀ガ貨幣トシテ廣ク使用セラレタ時代ニ於テハ其ノ價値ハ貨幣ノ需要增減ニ依ツテ大ナル影響ヲ受ケタ、銀ガ十九世紀後半以來甚ダ低落スルニ至ツタノハ勿論銀ノ增産ニ基因スベケンモ他面世界主要國ノ銀貨廢止ニ依ル銀需要ノ大減退ニ基クコト多キモノト認メラレル

銀ハ古代ニ於テハ貴重品トシテ甚ダ貴バレタ有史以前ニハ銀ハ金ヨリモ尊重セラレタト云フ說モアツタ（註一）蓋シ古代ニ於テ銀ノ產額ハ甚ダ少カツタノミナラズ其ノ採取モ又頗ル困難ナ事業デアツタ爲メデアラウ、希臘人ガ西紀前六百年ヨリ三百年間ニ亙リ附近ノ銀鑛カラ採取セル銀額ハ約二億七千萬「オンス」ニ及ビ「アテネ」繁榮ノ基礎ヲ造ツタト云ハレテキルガ、之ヲ最近ノ世界產額ニ比スレバ僅々一ケ年ノ產銀高ニ過キナイ、羅馬時代ニハ金貨ガ貨幣トシテ主要ナ地位

ヲ占メタガ銀貨モ亦貿易上缺ク可カラザルモノデアリ當時金銀比價ハ一〇乃至一二デアッタ、中世ニ至ル迄歐洲ニ於ケル銀ノ取得ハ困難トセラレ銀ハ屢々征服掠奪ノ對象トナッタ

十四、五世紀ニ至ル迄銀ハ大體ニ於テ右羅馬時代ノ金銀比價ヲ維持シタノミナラズ當時銀缺乏ノ爲メ銀價ハ騰貴ノ傾向サヘアッタ然ルニ亞米利加大陸發見後十六世紀後半以來銀價ハ低落スルニ至ッタ卽チ當時新大陸ニ於ケル銀ノ產額ノ激增ハ歐洲金融、經濟界ニ顯著ナル影響ヲ與ヘ、金銀比價ノ不安定ハ各國貨幣界ヲ攪亂シ、物價騰貴、貿易澁滯ヲ招キテ後日各國ヲシテ金本位制ヲ採用セシムルノ動因トナッタ、十六世紀ニハ金銀比價平均一一・三デアッタガ十七世紀ニハ一四・一ニ更ニ十八世紀ニハ一五・〇トナリ一七五三年頃ニ於ケル銀ノ標準價格ハ一「オンス」ニ付六十二片デアッタ

十八世紀ヨリ十九世紀後半ニ至ル迄銀價ハ久シク六十片ヲ維持シ殊ニ一八五〇年頃ヨリ一八七〇年頃迄ハ金產額增加ノ爲メ金價下落シ金銀比價ハ平均一五・五乃至一五・七ト銀ハ一時騰貴スルニ至ッタノデアルガ一八七〇年以來歐洲諸國ノ金本位制實施ト共ニ銀價ハ俄然惡化シ一八八〇年代ニ於テ品位〇・九二五、一「オンス」最低四十一片八分ノ五、又一八九〇年代ニ於テハ最低二十二片八分ノ五ト下落シタ（註二）

今世紀ニ入リテモ右狀勢ハ繼續シタノデアッタガ一九〇九年頃ヨリ濠洲ノ「ブロークン、ヒル」附近銀山ノ產額減少ヲ初メ世界ノ優秀銀鑛ハ次第ニ採掘シ盡サレタ結果一九一四年ヨリ數年間新產額ハ減少シ銀ハ再ビ騰貴スルカニ思ハレタ、然ルニ當時新タニ應用セラレタ生產方法ハ銀鑛業ニ重大ナ革新ヲ齎ラシ卽チ右方法ニ依レバ從來ノ如ク單ニ銀鑛ノミヨリ銀ヲ採取スルニ止ラズ銀鑛ハ鉛、錫、銅、亞鉛鑛ト共ニ熔解セラレ此等鑛物ニ含有スル銀ト共ニ精鍊シ產出セラルルコトトナッタガ爲メニ銀ハ右鉛、錫、銅、亞鉛等ノ金屬生產ヲ主タル目的トスル產業ニ於テ副產物トシテ安價ニ而モ多量ニ產出セラルルニ至ッタ、右副產物トシテ生產セラルル銀ハ一九一九年度ニ於テ總生產額ノ約六〇「パーセント」ヲ占メ此ノ趨勢ハ將來モ繼續セント稱セラレ從ッテ銀ノ生產ハ此等金屬ノ價値如何ニ依ッテ著シキ影響ヲ受クルニ至リ銀生產ノ統制ハ困難トナッタ（註三）要スルニ銀ハ新大陸ノ發見以來產銀ノ增加、貨幣タル地位ノ失墜、新銀生產方法ニ基ク生產費ノ低下等ニ伴ヒ其ノ價値ハ漸次低落ノ傾向ヲ採ッタノデアル（註四）

（註一）一九二六年希臘デ發見セラレタ西紀前三千年ヨリモ古イト稱セラルル墳墓ノ中ニ王及女王ノ屍體ト共ニ素晴ラシイ浮彫ヲシタ金盃、銀「メッキ」セラレタ金盃及青銅ノ

容器、二個ノ銀ノ花瓶、及ビ外側ガ銀デ覆ハレ、金、青銅及黒銀デ鏤メラレタ五ツノ牛頭ヲ刻シタ美事ナ金盃ガアツタ、此等容器ノ構成ハ「アガサルシデス」(Agatharcides 181-145 B. C.)ノ所説タル西紀前約三千年以前ニハ金一〇「オンス」ガ銀一「オンス」ノ價値デアリ當時ノ金製品ハ銀ニテ飾ラレテキタトナス 説ヲ裏書スルモノデアル(「イー、カン」著、支那通貨論ニ引用セラレタ、「サミエル、モンターギュ」商會一九二六年度銀概論所載ニ依ル)

(註二)「オンス」トハ總テ「トロイ、オンス」ヲ意味ス

1troy ounce = 1/12th pound = 480 grains = 31. 1035 grams

(註三) 米國產銀協會發表ニ依レバ銀ヲ產出スル鑛石ト銀含有量ノ百分比ヲ左ノ如シトナシ右ノ中鉛亞鉛鑛ハ將來最モ重要性ヲ加ヘルダラウト推定シキル

銀鑛石	二六%
鉛鑛	二八%
銅鑛	二七%
銅鉛鑛、銅鉛亞鉛鑛、鉛亞鉛鑛	一八%

(註四) 附錄第一及第二、金銀比價表及銀價變動表參照

第二款 貨幣トシテノ銀

一、西洋ニ於ケル貨幣トシテノ銀

銀ハ十九世紀末葉以來貨幣トシテ占メタ重要ナ地位ヲ漸次喪失スルニ至ツタガ現在ニ於テモ貨幣制度ノ基礎トシテハ金ニ次グベキ有力ナル商品デアリ將來金ノ生產如何ニ依ツテハ再ビ貨幣トシテノ舊地位ヲ挽回スルニ至ルカモ知レズ、就中支那ハ最近銀本位制ヲ停止セルモ形式上銀貨國デアリ、又印度ハ今尙巨額ノ銀貨ヲ使用シテ居リ、且ツ米國ハ主要銀產國トシテ現ニ銀使用ニ依ル銀貨擴張政策ヲ實施シツツアルニ鑑ミ、銀ハ今後ト雖モ世界通貨及貿易上相當重要ナル地位ヲ維持スルモノト言ハザルヲ得ナイ

銀ハ羅馬帝國滅亡後金ガ漸次歐洲貨幣界ヨリ消失スルニ至ルヤ中世ヲ通ジ十三世紀半頃(一二五二年)「フロリン」金貨ノ鑄造ニ至ル迄ハ專ラ歐洲各國ノ通貨トシテ、爾後ハ金ト共ニ復本位制度ノ基礎トシテ久シキニ亙リ貨幣界ニ重要ナル貢獻ヲ爲シタ、然ルニ英國ハ一八一六年率先シテ金本位制ヲ採用シ其他ノ歐洲諸國モ十九世紀後期以來獨逸(一八七一)「スカンヂナヴィア」諸國

（一八七二）、和蘭（一八七五）等之ニ倣ヒ、佛國、白耳義、伊太利、瑞西、希臘等ノ「ラテン」貨幣同盟諸國ハ劃一的ナ品位及重量ヲ有スル本位金銀貨ヲ鑄造スルコトヲ締約シ形式上ハ復本位制ヲ維持シタリト雖モ一八七五－六年以來本位銀貨ノ鑄造ヲ停止シ事實金本位制ヲ實施スルニ至リ（註一）而シテ右風潮ハ漸次歐洲ヨリ亞米利加及東洋諸國ニ波及シ、米國ハ一九〇〇年金本位制ヲ採用シ、「メキシコ」（一九〇四）、印度（一八九三）、（註二）海峽殖民地（一九〇三）、比律賓（一九〇三）、暹羅（一九〇二）等ハ金爲替本位制ヲ施行スルコトトナリ斯クテ世界諸國ハ概ネ金本位制ヲ實施シテ銀ハ單ニ補助貨幣トシテ流通スルニ止ルノミトナツタ

二、支那ニ於ケル貨幣トシテノ銀

支那ニ於テハ古代ヨリ中世ニ至ル迄通貨トシテハ專ラ銅ヲ使用シ金、銀ハ寧ロ第二次的ノモノデアツタ、然ルニ中世ニ於テ主トシテ輸入銀條ヨリ鑄造セラレタ馬蹄銀ガ通貨トシテ流通スルニ至リ、十六世紀ニハ外國貿易ノ盛ントナルニ從ヒ各種ノ外國銀貨ガ輸入流通シ次デ十九世紀後期以來支那政府ノ鑄造セル銀弗ガ漸次支那全國ニ普及スルニ至リ銀ハ實ニ一千年ノ長キ期間支那貨幣界ニ重要缺ク可カラザル役割ヲ演ジタ

支那ニ於テ中世以來最近マデ通貨トシテ流通セル馬蹄銀ノ單位ハ兩デアル兩ハ元來重量ノ單位トシテ使用セラレタノデアツタガ同時ニ價値單位トシテモ慣用セラレタ（註三）價値單位タル兩ニモ單ニ計算上使用セラレタニ過ギナイ名目上ノモノモアルガ實際流通セル通貨ノ單位タル兩ハ馬蹄銀兩即チ Sycee tael デアツタ、兩（「サイシー、テール」）ノ品位及重量ノ決定ハ困難デアルガ大體ニ於テ品位〇、九三五四ヲ標準品位トシ之ヲ基準トシテ馬蹄銀ノ品位ヲ計算シ右品位以上ノモノニハ相當ノ「プレミアム」ヲ附シタ、重量ニ關シテハ上海兩（價値ノ兩）一〇〇兩ノ通貨ハ漕平兩（重量ノ兩、卽五六五・六五「グレイン」）八〇兩ニ等シイトセラレタ從ツテ上海兩ノ貨幣價値ハ $\frac{9354}{9800}$=v.916.666 卽チ理論的ニ云ヘバ品位〇・九一六三分ノ二、重量五六五・六五「グレイン」ニ相當スルノデアルガ實際ニハ古キ慣習ニ依リ上海兩一兩ハ品位〇・九三五四、重量五六五・六五「グレイン」ノ價値トシテ取引セラレタ、但シ現實ニ流通セル上海馬蹄銀ハ品位〇・九八〇ニ近カツタ（註四）斯ク價値單位タル兩ハ同時ニ種々ノ重量ノ單位デアツタカラ其ノ純銀分ノ測定ハ困難デアツテケレドモ實際ニ於テ馬蹄銀ハ豫メ其ノ純分ヲ測定計算セラレ之ヲ表示シテ比較的正確ナ價値ニ依リ流通シタ

外國銀弗（Foreign silver dollar）ハ十六世紀ニ初メテ支那ニ輸入セラレテヨリ久シキ間通貨トシテ馬蹄銀ト共ニ一般ニ廣ク流通シ一時ハ市場ノ建値モ外國銀弗ニヨリ爲サルルニ至ツタ、右銀弗

中最モ廣ク流通シタモノハ西班牙ノ「カロラス」弗、「メキシコ」弗及英國弗デアッタ（註五）

支那銀元ハ一八八九年廣東造幣廠ニ於テ初メテ鑄造セラレ翌一八九〇年市場ニ現ハレタ續イテ各省ニ於ケル造幣廠ハ之ニ倣ヒ北京政府ノ許可ヲ得テ續々銀元ヲ鑄造シタノデアルガ之等銀元ハ重量品位ニ於テ區々タルモノデアッタカラ清國政府ハ全國ニ亙ル劃一的鑄貨ヲ鑄造スル爲メ一九一〇年標準銀元鑄造ニ關スル法律ヲ公布シ貨幣ノ標準單位ヲ元トシテ之ヲ以テ無制限法貨トナシ一元ハ重量庫平〇・七二兩、品位〇・九〇〇ト規定シ同年七月ヨリ右本位貨幣ノ鑄造ヲ開始シ市場ニ流通セシメタノデアッタガ間モナク民國革命トナリテ新ニ民國政府ノ國幣條例ノ制定ヲ見ルニ至ッタ總テ敍上舊銀元ノ鑄造高ハ約二億八千六百萬元ト稱セラル

民國三年（一九一四年）二月公布ノ國幣條例ニ依レバ國幣ノ鑄造及發行ハ政府ノ專權ニ屬シ新貨幣ノ標準單位ヲ元トシ之ヲ無制限法貨トス一元ハ品位〇・九〇〇、重量〇・七二庫平兩即チ純銀〇・六四八兩（二三・九七七九五〇四八「グラム」）トス右標準銀元（所謂袁世凱銀元）ハ一九二七年以來國民政府ノ命ニ依リ銀貨表面袁世凱ノ像ガ孫文ノ像ニ代ヘラレテ繼續鑄造セラレ、「メキシコ」弗其他ノ外國銀弗ノミナラズ舊銀元ニ代リテ普ネク全國ニ流通シ一九三三年廢兩改元直前ニ於ケル支那ニ於ケル銀貨流通高ノ約七〇「パーセント」ヲ占メ殘リ三〇「パーセント」ガ舊銀

元、馬蹄銀及補助銀貨デアッタ（註六）蓋シ國民政府ガ永年ニ亙リ慣行セラレタ貨幣單位タル兩ヲ廢止スルノ基礎ヲ形成セルモノハ此ノ銀元デアッタ

一九三〇年五月國民政府ハ支那通貨ノ劃一ヲ計ラン爲メ外國銀貨ノ輸入ヲ禁止スルニ至ッタガ既ニ外國通貨ハ銀元ニ驅逐セラレ其流通高ハ微々タルモノデアリ（註七）從來モ其ノ輸入ハ流通ノ目的デナク鑄潰ノ爲メニ過ギナカッタ

一九三三年三月八日國民政府ハ銀本位幣鑄造條例（註八）ヲ制定公布シタ右條例ニ依レバ銀本位幣ヲ元トシ之ヲ無制限法貨トシ、自由鑄造ヲ許可ス、此ノ標準銀元（Standead silver dollar）ハ重量二六・六九七一「グラム」、銀八八、銅一二即チ純銀二三・四九三四四八「グラム」ヲ含有ス、右貨幣鑄造ハ中央造幣廠ノ專權トス、中央造幣廠ハ本位貨幣ト共ニ廠條（Mint bar）ヲ鑄造スルコトヲ得、右廠條ハ甲、乙二種トシ甲種ハ重量 二三四九四三・四八「グラム」品位千分ノ九九九トシ、乙種ハ重量 二六六九七・一「グラム」、銀八八 銅一二ニシテ銀本位幣一千元ニ相當ス、右廠條ハ本位幣ト相當額ニ照應シテ交換ス、舊銀元ニシテ原形ヲ保ツモノハ同額ノ本位幣ニ交換スルコトヲ得ベキ趣旨ノ規定ヲ設ケタ（註九）

越エテ三月九日上海海關ハ同日以後標準銀元ハ海關兩ニ代リ基準單位タルベク兩者ノ換算率ハ海

關兩一兩ハ標準銀元 一・五五八元トスベキ旨告示シタガ四月五日付財政部ハ廢兩改元令ヲ公布實施シタ、爾來支那ニ於テ貨幣標準單位トシテノ兩ハ廢止セラレ總テ標準銀元ヲ以テ之ニ代ルコトトナツタ（註一〇）

右ト同時ニ貨幣ヲ保護スル趣旨ニテ馬蹄銀其他ノ外國銀條ニ對シ從價二・四分ノ一「バーセント」（卽チ新銀元鑄造料ニ相當ス）ノ輸出稅ヲ課シ銀元及廠條ニ對シテハ之ヲ免除スルコトトナツタ。尙標準銀元ト上海兩トノ換算率ハ一元ハ上海兩 〇・七一五ト公定セラレタ敍上ノ如ク一九三五年十一月國民政府ノ幣制改革ニ至ル迄支那ハ劃一的銀本位制度ヲ實施シ上海中央造幣廠ハ一九三三年三月一日以來新銀元ノ鑄造發行ヲ開始シタ

（註一）「ラテン」同盟條約（Latin Convention）ハ一九二〇年廢棄セラレタ

（註二） 一九二七年ノ印度貨幣通貨法ニ依リ印度ハ金地金本位制ヲ採用シ、一九三一年九月英國ノ金本位制離脫ニ倣ヒ之ヲ停止シタガ「ルーピー」ハ依然磅ニ連結セシメ一「ルーピー」ハ一志六片ノ法定比率ヲ維持セシムルコトトシタ

（註三） 重量單位トシテノ主ナル兩

廣東兩（廣平 Canton Tael）

一九四四年支那政府ハ海關稅ノ支拂ニ際シ外國通貨ヲ受取ル基準タルベキ爲替相場ヲ定メタ際、新「ルーピー」貨二十個ヲ廣東兩六・二〇三ノ重量ニ等シキコトヲ確メタ卽二十「ルーピー」ノ重量ハ三六〇〇「トロイ・グレイン」デアツタカラ廣東兩ハ五八〇・〇三六「グレイン」ニ等シイ實際ニ於テ廣東兩ハ五八〇「トロイ・グレイン」又ハ三七・五八「グラム」トシテ計算セラル卽一・二〇八三分ノ一「オンス」トス廣東兩ハ銀條ヲ計ルニ一般ニ使用セラレタ

漕平兩（上海兩 Chauping or Tsaoping tael）

漕平兩一〇二・五兩ハ廣東兩一〇〇兩ノ重量ニ等シイ卽チ漕平兩一兩ハ五六五・六五「トロイ・グレイン」又ハ三六・六四「グラム」トス

漕平兩ハ馬蹄銀及金ヲ計ル爲ニ用ヒラレタ

庫平兩（K'uping tael）

清朝時代稅關ノ課稅ノ基準トシテ採用セラレタガ民國ニ至ツテ廢止セラレタ庫平兩ハ品位一〇〇〇重量五七五・八「グレイン」又ハ三七・三〇一「グラム」ト定メラレタ

海關兩（Haikwan tael）

支那海關ガ課稅ノ基準トシテ採用シタ名目上ノ價値單位デアッテ實際ノ支拂ハ海關ノ定ムル換算率ニ基キ通貨ヲ以テ爲サレタ。海關兩ハ品位一、〇〇〇 重量五八三・三〇「グレイン」デアッタ。海關兩一〇〇兩ハ常ニ上海兩（價値單位）一一一・四〇ニ等シカッタ。一九三〇年一月十五日ノ財政部令ニ依リ同年二月一日以後ハ輸入稅ニ關シテハ海關兩ハ廢止セラレ海關金單位（Customs Gold Unit）ヲ以テ基準トシタ。金單位ハ〇・八〇二五金圓ニ相當シ純金〇・六〇一八六六瓦ヲ含ム。金單位ハ通貨ニ換算セラレテ支拂フヲ得ベク、換算率ハ隨時公定セラルルコトトナッタ。海關兩ハ三月十五日迄ハ一海關兩ハ一・五〇金單位トシテ又三月十六日以後ハ一・七五金單位ト定メラレタ。一九三三年三月九日以後ハ廢兩改元ニ基キ總テ海關兩ハ廢止セラレ銀元ヲ以テ之ニ代ヘタ

（註四）天津兩（「サイシー」）ハ品位〇・九九六、重量五五七・七「グレイン」、漢口兩（「サイシー」）ハ品位〇・九六七、重量五五四・七「グレイン」デアッタ

（註五）流通セル外國銀弗ノ種類

「カロラス」弗（本洋 Carolus dollar, Spanish dollar）「チリー」弗、「ボリビア」弗、「ペルー」弗、「ニカラグア」弗、「メキシコ」弗（墨銀、鷹洋 Mexican dollar）「アメリカ」貿易弗、「サイゴン、ピアストル」(Saigon Piaster) 日本銀圓、英國弗（香港弗、站人洋、杖洋）

（註六）「イー・カーン」著支那通貨論ニ依レバ一九三三年末ニ於ケル支那ノ銀貨鑄造額左ノ通リ右ハ最低ノ數字デアリ又鑄潰サレタ銀元ト支那ニ流通スル外國銀弗ヲ含ンデナイ故實際流通スル銀貨ハ右合計數ヨリモ恐ラク著シク莫大ナモノデアラウト述ベテキル

舊銀元	鑄造額	二八六、三五一、四一三元
民國銀元	同	一、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇元
補助銀貨（小洋）	同	六五〇、〇〇〇、〇〇〇元
	（市場價値	五二〇、〇〇〇、〇〇〇元）
合計額		二、二〇六、三五一、四一三元

尙 China Year Book (1934) ニ依レバ支那銀弗（一九三一年末流通高）及馬蹄銀（一九三三年末全國「ストック」）約左ノ通リ

支那銀弗最少額　一、六二七、二二五、〇〇〇元

（註七）一九三一年末外國銀弗推定流通額ハ八千萬弗デアツタ（上海銀行「ストック」一四三、〇〇〇、〇〇〇）

（駐八）附錄第十四、銀本位幣鑄造條例參照

（註九）右廠條ハ主トシテ地方的並ニ國際的決濟用ノ便益ニ出デタモノデ專ラ銀行間ニ使用セラル

（註一〇）但シ輸入稅評價ノ基準タル海關金單位ヲ除ク

第三款　銀ノ需給關係

一、銀ノ生產

(一)　新大陸發見前ノ世界銀產額ハ極メテ小額デ其後ノ產額ニ比スレバ問題トスルニ足リナイ。米國商務省鑛務局發表ノ統計ニ依レバ一四九三年ヨリ一九二七年ニ至ル四百三十五年間ノ世界銀產額ハ約百四十三億五千七百萬「オンス」デ同期間ニ於ケル金生產高ノ約十四倍ニ相當シ而シテ右ノ中約八〇「パーセント」ハ米大陸ニ於テ生產セラレタ、之ヲ年度別ニ見レバ十九世紀最後ノ四半期即チ一八七一年以後銀產額ハ激增シテ逐年增加シ更ニ二十世紀當初ニ於テ著シク增加シテ爾後一進一退ノ經路ヲ經テ一九一三年ニ最高額タル二億二千七百五十萬「オンス」ニ達シタ、然ルニ優秀銀坑ガ漸次採掘シ盡サレタ爲メ翌一九一四年ニハ著シク其ノ產額ヲ減少シ以後數年間ハ減產繼續ノ狀態デアツタガ恰モ新發明ノ生產方法ニ依リ銀鑛以外ノ卑金屬鑛ヨリ銀ヲ多量ニ生產スルヲ得ルニ至ツタ結果再ビ銀產額ハ增加シ一九二九年ノ世界好況時ニ於テ其ノ年額ハ現在ニ至ル迄ノ最高記錄タル二億六千九十萬「オンス」ニ達シタ、一九三〇年以來ハ世界不況ト銀價低落トニ影響セラレ產額ハ減少シタガ一九三四年ニハ國際銀協定ト米國ノ銀政策ニ基キ銀價騰貴ノ爲メ稍增加スルニ至ツタ。最近十ケ年間ニ於ケル平均年額ハ約二億二千四百四十一萬八千（二二四、四一八、〇〇〇）「オンス」トナツテキル（註一）

(二)　一四九二年ヨリ一九二七年ニ至ル期間ニ於ケル銀產額ノ約十四倍デアツタガ逐年ノ兩者增產率ヲ比較セバ銀產額ハ金ノ夫レヨリ必ズシモ多クナイ、卽チ一四九三年ヨリ一八〇〇年ニ至ル期間ニ於テハ銀產額ハ頓ニ增加シ其ノ增產率ハ金ヲ遙カニ凌駕シタノデアツテ之銀價低落ノ原因ヲ爲シタノデアルガ一八〇一年ヨリ一九二七年ニ於テハ金ノ增產率ハ寧ロ銀ヨリモ多カツタ、之銀價ガ十九世紀ニ至ル迄久シキニ亘リ金銀比價一對十六ヲ維持シタ理

由デアッテ、十九世紀以後ノ銀價低落ノ原因ハ之ヲ生產ノ增加ニ歸スベキニ非ズシテ消費方面タル貨幣需要ノ激減ニ歸スベキデアル。詳言セバ、米大陸發見後十六世紀前半ニ於テハ金銀產額ハ殆ド匹行シタノデアッタガ同後半期後俄然銀產額ハ激增シ一八四〇年ニ至ル迄銀產額ハ價値ニ於テ常ニ金產額ヨリモ多額ニ生產セラレタ、卽一五四五年ヨリ一八四〇年ニ至ル二百九十五年間ニ於ケル金銀年平均產額ハ價格ニ於テ金二七・四六ニ對シ銀七二・五四ノ率デアッタ、然ルニ十九世紀後半以來ハ金ノ平均年產額ハ價格ニ於テ概ネ銀ノ夫レニ比較シテ多額デアッテ一八四一年ヨリ一九一五年ニ至ル七十五年間ニ於ケル金平均年產額ハ價格ニ於テ六五・八四、銀ハ三四・一六ノ割合デアッタ、右ノ如キ現象ハ十六世紀後半以後ニ於ケル銀價ノ低落ヲ招クト共ニ金銀比價ノ變動ヲ頻般ナラシメ爲メニ銀ノ貨幣トシテノ機能ヲ著シク阻害スルニ至ッタ。而シテ十九世紀中葉以來ノ金產增ハ各國ヲシテ金本位制ヲ採用スルニ便ナラシメ斯クテ銀ハ本位貨タルノ資格ヲ失墜シタ結果銀產額ノ增加率ハ比較的少ナカッタニ拘ラズ銀價ノ下落ヲ見ルニ至ッタ（註二）

(三) 最近ノ銀產額ヲ國別ニ見レバ主要銀產國ハ「メキシコ」、北米合衆國、加奈陀、祕露、濠洲、「ビルマ」、「ボリビア」、日本等デアル。一九二六年ヨリ一九三五年ニ至ル十ケ年間ニ於ケル世界產額ノ約六〇・一「パーセント」ハ「メキシコ」及北米合衆國ノ占ムル處トナッテキル（註三）

(イ) 北米合衆國

米國ハ最近ニ於テ銀產國トシテハ「メキシコ」ニ次グモノデアルガ右地位ハ一八六〇年以來ノコトデ夫レ以前ノ產額ハ小額デアッタ、合衆國ニ於ケル最近ノ主要銀生產州ハ「アリゾナ」、「コロラード」、「アイダホ」、「モンタナ」、「ネヴアダ」、「テクサス」、「ユター」、「ニウ・メキシコ」等デアッテ此等諸州ハ全產額ノ殆ド九〇「パーセント」ヲ占メテキル（註四）

(ロ) 「メキシコ」

「メキシコ」ハ亞米利加發見以來最大ノ銀產國デアリ其ノ產額ハ最近ニ於テモ世界產額ノ四一「パーセント」以上ニ及ンデキル

(ハ) 南亞米利加

南「アメリカ」ハ全體トシテハ最近ニ於テモ世界銀產額ノ約一〇「パーセント」ヲ占メ米國ニ次グモノデアル、南米ハ新大陸發見後一七〇〇年ニ至ル迄ハ世界最大ノ銀生產地タル地位ヲ占メタガ十八世紀以後ハ「メキシコ」ニ凌駕セラレ一八七〇年頃ヨリハ米國ニ及バザルニ

至ッタ。南米ニ於ケル主要銀産國ハ「ボリビア」、智利、祕露デアッタガ今世紀ニ入リ「ボリビア」、智利ノ産額減少シ現在ハ祕露ガ主要産國デアッテ一九二七年ニハ一八、二九五、四〇〇「オンス」ニ及ビ世界産額ノ七・二九「パーセント」ヲ占メタガ一九三三年ニハ六、七六〇、五〇〇「オンス」ニ減ジタ

(ハ) 加奈陀院

加奈陀ハ一八六六年以前ニハ銀ヲ生産シナカッタ、一九〇四年「コバルト」銀山(Cobalt)ガ發見セラレ加奈陀産銀ノ大部分ヲ生産スルニ至ッタ。現在ニ於テ加奈陀ハ世界第三位ノ銀産國デ年額千六百萬「オンス」以上ニ及ンデキル

(ニ) 濠洲

濠洲モ又一八六一年以後初メテ銀産國トナッタ。其ノ銀産地方ハ主トシテ「ニウ・サウス・ウエールズ」州ニ於ケル「ブロークン・ヒル」(Broken Hill)銀山デ、一八九一年ヨリ一八九五年ニ亘リ最モ活躍シ同期間ニ於ケル濠洲ノ銀産額ハ世界銀産額ノ九・三九「パーセント」ヲ占メ米國、「メキシコ」、「ボリビア」ニ次グ主要銀産國デアッタガ同銀山ガ一九〇九年頃ヨリ銀産額激減スルニ至ッテカラハ産額漸次減少シ一九二六年ニハ其ノ産額千八十萬「オンス」

(世界産額ノ四・二五「パーセント」)一九二七年ニハ六百八十八萬七千「オンス」ニ減ジタ、最近ハ約千萬「オンス」ヲ生産シ加奈陀ニ次ギ第四位ヲ占メテキル

(ホ) 其他ノ諸國

歐洲ニ於ケル現在ノ銀産額ハ微々タルモノデ其ノ生産地ハ「ボヘミア」、「オーストリア」、「ハンガリー」、獨逸、西班牙等デアルガ歐洲全體トシテノ年額モ僅々五百乃至七百萬「オンス」ニ過ギナイ、亞細亞ニ於ケル主要銀産國ハ「ビルマ」及日本デアルガ「ビルマ」最近ノ年産額ハ五百乃至七百萬「ファイン・オンス」トナッテキル。本邦ニ於ケル最近ノ年産額ハ約五百五十萬「オンス」デ世界産額ノ約二「パーセント」ヲ占メテキル(註五)

要之ニ最近十ケ年ノ統計ニ依リ銀生産額ヲ國別ニ比較セバ「メキシコ」、(四一・〇四「パーセント」)、南米(九・六九「パーセント」)、加奈陀(九・三八「パーセント」)、米國(一九・〇七「パーセント」)ノ割合トナルノデアルガ銀産額ニ對スル各國ノ勢力ヲ比較スルニハ右ノ數字丈デハ十分デナイ、更ニ銀生産ニ投下セル各國ノ資本關係ヲ檢スルコトガ必要デアル。卽チ米國ハ自國ノミナラズ祕露、智利、「ボリビア」等ノ南米諸國並ニ墨西哥ニ於ケル銀鑛業ノ大部分ヲ英國ハ加奈陀、濠洲、「ビルマ」等ノ銀鑛業ヲ資本的

ニ支配シテキルカラ此ノ見地ヨリ銀生産ニ對スル各國勢力ヲ比較セバ米國ハ世界銀生産ノ六六乃至七二「パーセント」ヲ、英國ハ一一乃至二一「パーセント」ヲ支配セルヲ見ル（註六）

二、世界銀保有高

一四九三年以來一九三五年ニ至ル世界銀生産高ハ約百六十億「オンス」ニ及ンデキルガ此ノ巨額ノ銀モ銀鍍金、流通銀貨ノ損耗、埋沒ニ依ル銀ノ貯藏等ニ依リ現在世界カラ喪失セルモノモ甚ダ多イデアラウ。一九三四年末ニ於ケル世界銀保有高ヲ推算セバ印度四十五億、支那十五億、米國十二億、其他諸國二十四億デ之ニ新產銀ヲ加算セバ約九十八億「オンス」デアルガ右ハ單ニ推算ニ止リ實際ハ右ヨリ巨額ナモノト想像セラレ兎モ角最少額百億「オンス」ニ上ルデアラウ

右ノ如ク印度ハ世界銀保有高ノ約四十四「パーセント」ヲ占メ之ニ次デ支那米國ハ通算シテ三十「パーセント」ヲ占メテキル。米國ガ世界產銀ノ約七十「パーセント」ヲ支配シテ斷然生產ニ於テ優越的地位ニ在ルニ拘ラズ銀價ノ決定ニ對シテハ印度、支那及英國ガ重大ナ勢力ヲ有シ單リ米國ノミガ好ク銀價ノ低落ヲ支フルコトハ困難ナルヲ見ルノデアツテ殊ニ之ヲ消費方面ニ於テ見レバ明カデアラウ（註八）

三、銀ノ消費

銀ハ鑄貨用トシテ亦美術工藝用トシテ或ハ化學及「フイルム」工業用トシテ消費セラレル、從來ハ大部分貨幣用トシテ使用セラレタノデアツタガ銀本位貨ノ廢止及各國補助銀貨ノ品位低下ニ依リ此ノ方面ノ銀ノ消費ハ漸減スルニ至ツタ。之ヲ消費國別ニ見レバ印度及支那ハ最大消費國デアツタ。印度及支那ニ於テハ貨幣トシテ亦埋藏用トシテ多額ノ銀ガ消費セラレタノデアツタガ最近ニ於テハ兩國ノ消費額ハ激減シ殊ニ一九三四年以來支那ハ銀供給國タル地位ニ變ジタ

一九三三年以後銀ノ最大需要國ハ米國デアル米國ハ國際協定ニ基ク買上ト一九三四年ノ銀立法ノ結果多額ノ銀ヲ保有スルコトトナツタ米國政府ハ一九三四年ニハ三億一千七百萬、一九三五年ニハ五億四千三百萬「オンス」ノ銀ヲ國內及海外市場ニ於テ買上ゲタガ銀立法ニ依レバ尙十億七千五百萬「オンス」ノ銀ヲ取得スルヲ要スルト云フカラ今後米國銀政策ニ變更ナキ限リ米國ノ銀需要ハ尙二ケ年ハ繼續スルデアラウ、然ルニ右ノ如キ銀政策ヲ別トシテ米國ニ於ケル國內消費ノ狀態ヲ見ルニ一九二三年ヨリ一九三三年ニ至ル十ケ年間ノ統計ニ依レバ其ノ消費年額ハ平均三千六百萬「オンス」卽同期間ニ於ケル新產銀平均年額ノ約一五・二二「パーセント」ニ過ギナイ（註八）

右ハ大部分美術工藝用トシテ使用セラレルノデアル

美術工藝用トシテノ銀ノ消費ハ最近大體年五千萬「オンス」見當ニ一定シテキルガ過半ハ米國ニ於テ消費セラレテキル要之印度及支那ニ於ケル消費ハ久シク世界消費額ノ過半ヲ占メタノデアツタガ一九三一年以來ハ兩國ノ消費激減シ之ヲ通算スルモ同年度ニ於テハ世界消費額ノ約四四・九「パーセント」、一九三二年ニハ二五・一「パーセント」ニ過ギナイ、而シテ印度ハ一九三二年支那ハ一九三四年以來ハ却ツテ銀供給國タル地位ニ轉倒スルニ至ツタ（**註九**）

右ノ如キ大消費國タル印度及支那ニ於ケル銀消費ノ消長ハ銀價ニ對シ重大ナル影響ヲ及ボスモノト見ナケレバナラヌ

四、銀ノ需給高

最近ニ於ケル銀ノ需給狀態ヲ見レバ大體需給一致シテ居ルノデアルガ之ハ銀貨ノ將來ニ對シ重要ナ事デハナイ卽前述ノ如ク最大消費國タル印度及支那ニ於テハ一九三一年以來銀消費ノ大激減ヲ見ルニ至ツタノデアツテ右消費減ハ新生產高ノ減少ニ依ツテ需給ノ均衡ヲ見テキルニ過ギヌ他方一九三四年以後ハ銀國際協定ニ依ル印度政府ノ賣控ヘト米國政府ノ銀立法ニ基ク巨額ノ銀買上ニ依ツテ需給ノ均衡ヲ見テキルト云フテ差支ナイ斯ルガ故ニ銀ノ需要狀態ハ其ノ生產方面ニ於テハ銀ガ大部分副業トシテ生產セラルル關係上其ノ統制ハ困難ト見ネバナラヌカラ天然的ニ銀產額ガ著シキ減少ヲ見サル限リ其ノ需給關係ノ均衡ハ消費方面ノ增加ニ之ヲ期待セネバナラヌ。然ルニ現在ハ米國ノ人爲的銀價吊上ニ依リ僅カニ銀貨ノ下落ヲ維持シテキル狀態デアルカラ近ク銀消費ニ關シ國際協定ノ締結ヲ見ザル限リ銀價ノ將來ハ樂觀ヲ許サナイデアロウ（**註一〇**）

（**註一**）附錄第三　世界銀產額年表參照

（**註二**）附錄第六　銀及他金屬ノ生產增加率比較表參照

（**註三**）附錄第四　世界主要銀產國國別年額表參照

（**註四**）北米合衆國主要銀產洲（單位フアイン、オンス）

州名	一九一七年	一九二六年	一九三二年
「アリゾナ」	六、九六二、〇〇〇	七、五一六、〇〇〇	一、九七五、〇〇〇
「コロラード」	七、二九一、五〇〇	五、〇三七、六〇〇	一、七八六、七〇〇
「アイダホ」	一一、四〇二、五〇〇	七、五六三、六〇〇	六、七三三、八〇〇
「モンタナ」	一四、五五五、〇〇〇	一一、九七四、三〇〇	一、三四七、九〇〇
「ネヴダ」	一一、二一七、七〇〇	六、四五〇、二〇〇	一、二一八、六〇〇
「テクサス」	五八七、九〇〇	四六三、六〇〇	七、八一五、九〇〇

「ユタ」	一三、三六一、〇〇〇	一九、九三六、〇〇〇	一八、〇〇〇
「ニウ・メキシコ」	一、五三五、八〇〇	四九六、六〇〇	九、〇〇〇
通計	六六、九一三、七〇〇	五九、四三七、九〇〇	二〇、九〇四、九〇〇
合衆國合計	七一、七三六、三八一	六二、六七二、九五三	二三、八三二、〇〇〇

（註五）一九三五年度（Japan Year Book 1935）統計ニ依レバ本邦ノ銀産額左ノ如シ

年度	額（瓦）	價格（圓）
一九三一年	一七三、七六五、二〇五	三、五九八、七〇九
一九三二年	一六三、六二五、三五八	五、三八六、八四九
一九三三年	一八五、六一〇、二五九	八、〇三七、二七七

尙大藏省發表ノ統計ニ依レバ日本（朝鮮、臺灣及南洋ヲ含マズ）ノ銀貨及銀地金輸出入ハ左ノ如クナッテキル（單位圓）

年次	輸出	輸入	輸出超過額
一九三三年	七、六八二、二四八	一二四、七八〇	七、五五七、四六八
一九三四年	一三、九二三、八三八	三三一、一一二	一三、五六二、七二六

一九三五年　二二五、四〇四、五〇六　六九、八四二　二二五、三三四、六六四

（註六）米國鑛業研究所調査ノ一九二九年世界銀産業統計ニ依レバ左ノ如シ（單位「パーセントトン」）

國名	世界銀採掘高ニ對スル各國採掘高割合	世界銀精錬高ニ對スル各國精錬高ノ割合
米國	六六・〇	七二・七
英國	二一・六	一一・四
獨逸	二・一	一〇・一
佛蘭西	一・九	二・五
日本	二・〇	一・八
墨西哥	一・五	—

（註七）附錄第七、世界銀保有高概算表參照

（註八）附錄第八、北米合衆國銀消費額最近年表參照

（註九）附錄第九、支那及印度ニ於ケル銀ノ純輸出入額年表參照

（註一〇）附錄第十、世界銀需給高最近年表參照

第四款　銀價變動ト其ノ影響

一、銀價變動ノ原因

亞米利加發見後十六世紀後期ニ至ル迄ハ和蘭、西班牙等ノ東洋貿易ニ依ル銀ノ需要、金ノ供給ニ依リ歐洲ニ於ケル金銀比價ハ差シタル影響ヲ受ケナカツタノデアルガ十六世紀末ヨリ銀產激增ノ結果銀貨ヲ以テ測ラレタ穀物其他ノ商品ハ騰貴シ、金銀比價ノ變動常ナク貨幣ノ不安定ハ歐洲經濟界ヲ混亂ニ陷ラシメタ。十七世紀ニ於ケル金銀平均比價ハ一四・一デアツタガ當時銀價ガ幾何ナリシヤハ正確ナ統計ニ乏シイ、同世紀初頭ニ於テ英國ニ於テハ六十二片和蘭ニ於テハ六四片デアツタ爲メ英國市場カラ銀貨ハ盛ンニ消失スルニ至ツタト云フ。十八世紀ニ於テハ金銀平均比價ハ一五・〇デアリ、同世紀中葉ニ於ケル葡萄牙ニ於ケル銀價ハ一「オンス」ニ付キ六十二片ニ相當シタト云フガ故ニ十九世紀ニ至ル迄久シキ間銀價ハ大體六十片以上ヲ維持シタモノト思ハレル。一八三三年以來銀價ノ統計ガ得ラレルノデアガ（註一）右ニ依レバ同年度ニ於ケル銀ノ平均價格ハ標準銀一「オンス」ニ付五十九片十六分ノ九デアリ一「ファイン・オンス」ニ付一・二九七弗デアツタ其後一八七〇年ニ至ル迄銀價ハ殆六十片ヲ維持シタノデアツタガ一八七二年ニ至リ五十片臺ニ一八八四年ニハ遂ニ四十片臺ニ墜落シタ之ハ一八七一年ニ於ケル獨逸帝國ノ金本位制採用ヲ初メトシ歐洲諸國ニ於ケル銀本位貨ノ廢止ニ基因スルモノデアル、次デ一八九四年ニハ最低二十七片ニ下落シタ、此ノ大暴落ノ原因ハ一八九三年ニ於ケル印度ノ銀自由鑄造ノ停止ト米國ニ於ケル「シヤーマン」條例ノ廢止ニ基ク而シテ一九〇二年ニハ銀價ハ最低二十一片十六分ノ十一ニ下落シタ、右ハ主トシテ拳匪ノ亂ニ影響セラタル支那ノ消費減ト見ラレテキル

其後一九一五年ニ至ル迄銀價ハ大體二十片臺ノ低イ平準ニ止マツタノデアルガ此等ハ各國ニ於ケル銀貨ノ廢止乃至貶下ガ銀貨ノ將來ニ悲觀的影響ヲ與ヘタ爲メデアツタ

世界大戰前ノ銀價ハ平均二十七片十六分ノ九デアツテ未ダ低迷ノ域ヲ脫シナカツタガ、一九一六年以來漸次騰貴シ一九二〇年ニハ最高八十九片二分ノ一、平均六十一片二分ノ一ト云フ記錄的ナ高價ニ昇ツタ、此ハ交戰國ニ於テ物資ノ巨額ノ增加ニ伴ヒ銀貨鑄造用トシテ銀需要ガ激增シタルト他方支那及印度ニ於ケル莫大ナ輸入增加ニ基クモノデアル然ルニ翌一九二一年ニハ戰後ノ不景氣ニ依ル一般物價ノ下落ニ伴ヒ銀價モ下落シタルト歐洲諸國ガ鑄貨用銀ヲ輸出シ且銀貨ノ品位ヲ引下ケ剩餘銀ヲ賣却スルニ至ツタ爲メ銀價ハ同年平均三十六片八分ノ七ニ低落シタ、然シ一方支那及印度ニ於ケル貿易ノ活況ニ依リ依然タル巨額ノ銀輸入ガアツタノデ一九二五年ニ至ル迄三十

片以上ノ大戰前ニ比シ比較的高イ平準ヲ維持シテキタ、然ルニ一九二七年三月ニ成立シタ印度通貨法ニ基キ印度政府ハ「ルーピー」ノ法定比率ヲ一志六片ト定メ（註二）政府保有銀貨ヲ十年間ニ二億三千萬留比ニ減少シ六億二千萬留比ノ剩餘銀ヲ處分スルコトトナリ又政府ガ流通銀貨ヲ取得セル場合ニハ之ニ應ジテ處分セラルベキ銀ハ更ニ增額セラルル事トナツタ

右決定ハ一九二六年八月ニ發表セラレタノデアルガ直チニ銀價ニ影響シテ銀價ハ二十四片八分ノ一ニ下落スルニ至ツタ。爾後銀ハ低落ノ一途ニ向ヒ殊ニ一九三〇年以來世界不景氣ニ伴ヒ銀價著シク下落シ一九三一年ニハ十二片ノ最低記銀ヲ見タ一九三三年七月ニハ倫敦銀協定ガ調印セラレ銀價ハ稍恢復シ一九三三年末ニ於ケル米國政府ノ國內銀買上決定並ニ一九三四年五月ノ米國銀購買法ニ依ル巨額ノ銀買上決定ノ結果銀價ハ漸次騰貴シ一九三五年六月ニハ三十一片四分ノ一ニ上騰シタ、然シ同年十一月支那ノ銀本位離脫ハ再ビ銀價ニ惡影響ヲ及ボシ次デ米國政府ノ海外銀買上中止ハ倫敦銀市場ヲ混亂ニ陷ラシメ同年末ニハ二十二片二分ノ一ニ下落シ本年一月末ニハ銀塊相場ハ一「オンス」ニ付十九片十六分ノ一ニ低落スルニ至ツタ

要之世界大戰後ニ於ケル銀價低落ノ原因トシテハ一般物價ノ低落ト等シク世界不景氣ニ依ル銀需要ノ減退ト見ネバナラヌガ他方ニ於テ印度及支那等ニ於ケル過剩銀ノ處分ヲ見逃スコトハ出來ナ

銀價ガ將來更ニ下落スルヤ否ヤハ米國ノ銀政策ト支那ノ保有銀賣却如何ニ依ルベク假令米國ガ銀買上政策ヲ繼續スルトシテモ今後一、二年ノ問題デアツテ銀價ノ騰貴及安定ハ結局ハ世界景氣ノ恢復ト供給制限及需要增進ニ關スル國際協定トニ俟タネバナラヌ

二、銀價ノ變動ノ影響

銀價ノ變動ハ第一ニ銀生產者ニ影響スベキモ銀產額ハ他ノ重要商品ニ比シテ甚ダ輕微デアルカラ右ハ差シテ重要ナモノデナイ（註三）

第二ニ墨西哥ノ如ク良質ノ補助銀貨ヲ使用スル國及ビ印度ノ如キ巨額ノ銀保有國ニ影響スベク、印度ノ如キハ世界大戰當時ノ銀價騰貴ニ依リ「ルーピー」貨ハ鑄潰サレテ盛ンニ支那等ニ輸出セラレ政府ハ一九一七年及一九一八年ニ銀ノ輸出ヲ禁止シ又一九一六年ヨリ一九二〇年ニ亘ル會計年度ニ於テ三億三千五百五十萬「オンス」ヲ一般市場ニ於テ又一九一九年ヨリ二〇年ノ會計年度ニ至ル期間ニ於テ米國政府カラ「ピットマン」條例ニ基キ一億九千七百三十萬「オンス」ノ銀ヲ購入スルニ至ツタ、然モ印度ノ爲替相場ハ一志四片ナル法定比率ヲ離レ一九一九年ニハ最高二志四片四分ノ三最低一志六片トナリ印度ノ金爲替本位制ハ一時動搖スルニ至ツタノデアツタガ政府ハ

金融中心地向「ルーピー」爲替相場ノ引上ニ依リテ之ヲ阻止スルヲ得タノデアツタ、第三ニ最モ重大ナル影響ヲ受クルハ最大ノ銀本位國タル支那デアル、印度ノ如キ巨額ノ銀貨使用國ニ於テモ貨幣制度ノ基礎トシテ金ヲ採用セル國ニ於テハ其ノ影響ハ支那ニ比スレバ比較的少ナイ、支那ニ於テハ支那自身ノミナラズ之ト密接重要ナル貿易關係ヲ有スル本邦ニ對シテモ著シイ影響ヲ及ボスノデアツテ況ンヤ支那ハ國內產銀ニ乏シク銀ノ供給ハ殆ンド之ヲ外國カラ求メナケレバナラヌ立場ニ在ルニ於テオヤ

銀價ノ高低何レガ支那ニ取リ利益ナリヤ否ヤハ議論アルモ概シテ云ヘバ安キ銀ハ支那ニ於テ貨幣價値ノ下落ヲ來シ高キ銀ハ之ト反對ノ現象ヲ來ス、從ツテ前者ノ場合ハ物價ノ騰貴ヲ後者ノ場合ニハ物價下落ノ傾向ヲ伴フ、但シ貨幣價値ガ物價ト同一率ニ於テ上下スル場合ニハ何等ノ影響ヲ齎ラスコトハナイ卽チ銀價ノ高低率ト物價ノ騰落率トニ開キアル場合ニハ銀本位國ニ於テハ「インフレーション」又ハ「デフレーション」ト同樣ノ效果ヲ惹起スルニ至ル一九二九年ヨリ一九三二年ニ亘リ紐育ニ於ケル銀價ハ常ニ物價ヨリ以下ニ下落シタ(駐四)、之ガ爲メ支那ニ於ケル物價ハ一九三二年ニ至ル迄徐々ニ騰貴シ支那ハ一九二九年以來ノ世界不況ノ打擊ヲ蒙ルコト少ナカツタ然ルニ一九三二年以後ハ世界不景氣ト諸國ノ金本位離脫ノ影響ヲ受ケ支那ニ於ケル物價モ下落ノ傾向ヲ取ツタニ反シ紐育ニ於ケル銀價ハ一九三二年以來騰貴スルニ至ツタ爲メ物價ハ益々下落シ一九三三年以後支那ハ漸次「デフレーション」ノ慘害ヲ蒙ルニ至ツタ(註五)亦、銀價ノ騰貴ハ支那ニ於ケル輸入ヲ增進シ銀價ノ下落ハ輸出ヲ增進セシムルノ傾向ヲ生ズル等要スルニ銀價ノ變動ハ支那ノ貨幣價値ノ騰落ヲ齎ラシ引イテ其ノ外國貿易ニ影響スルノデアルカラ銀價ノ間斷ナキ變動ハ通貨ノ不安定ト同ジク支那ニ及ボス惡影響從ツテ之ト緊密ナ關係ニアル日本ノ蒙ル損害ハ蓋シ甚大ナルモノデアラウ

(註一) 附錄第二參照

(註二) 從來ハ法定比率一志四片デアツタガ世界大戰ニ依ル銀價高騰ノ結果留比貨ハ動搖スルニ至ツタ、然シ「ルーピー」ノ地金ハ一八三五年以來不變ノ儘デアリ少トモ當時五十億留比ハ鑄造セラレテキタト見ラレルノデ此ノ成分ヲ變更スルコトハ危險ナル爲メ英國政府ハ倫敦其他金融中心地向ノ「クロス、レート」ヲ上昇セシムルコトヲ決定シ一九二〇年ニハ最高二志九、二分ノ一片ニ迄引上ゲタ

(註三) 米國商務省發表ニ依レバ米國ニ於ケル重要鑛產物年額左ノ通リ (單位千弗)

年次	金	銀	銅	鉛	鐵鑛	鉄	鐵	亞鉛	石油	石炭
一九二九年	四五、六五一	三二、六八八	三五三、五〇四	八四、七三五	一九七、一四九	七三一、八五八	八〇、八〇二	一、二八〇、四二七	一、三三八、四三四	

一九三〇年	四七、二四八	一九、五三八	一八一、二七一	五七、三七四	一四五、六一九	五一二、一六五	四九、六七九	一、〇七〇、二〇〇	一、一五〇、〇五七
一九三一年	四九、五二九	八、九七〇	九四、八八七	二八、八七九	八〇、九一二	二八五、一四七	二二、一九二	五五〇、六三〇	八八五、二五〇
一九三二年	五一、八三六	六、八八八	三四、〇七三	一五、三二〇	二三、八三〇	一二六、〇三三	一三、三一二	六八〇、〇〇〇	六二九、〇五二

（註四）米國ニ於ケル銀價ト一般物價トノ比較

年次	銀價指數	重要商品相場指數
一九二六年	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九二七年	九〇・八	九八・一
一九二八年	九三・七	一〇二・〇
一九二九年	八五・四	九七・三
一九三〇年	六一・六	八二・五
一九三一年	四六・五	六七・三
一九三二年	四一・四	五四・五

（註五）附錄第十二米國及支那ニ於ケル銀價竝ニ物價表

第二章　國際銀決議及協定

第一款　一九三三年國際經濟會議ニ於ケル銀ニ關スル決議

六十四箇國代表列席ノ下ニ一九三三年六月十二日ヨリ倫敦ニ開催セラレ同年七月二十七日ヲ以テ無期休會セラレタル國際經濟會議ニ於テ銀問題ニ關スル決議案採擇セラレタガ他方右決議案ニ基キ主要生產國及保有國間ニ所謂銀ニ關スル八ケ國協定ノ締結ヲ見ルニ至ツタ

一、銀ニ關スル決議

六月二十日米國代表「ピットマン」氏ハ財政第二分科會ニ一箇ノ決議案ヲ提出シタガ右決議案中ノ銀ニ關スル部分ノ要旨ハ左ノ如キモノデアツタ

(一)　主要銀生產國及大銀保有國又ハ使用國ハ世界市場ニ於ケル銀ノ任意賣却ヲ制限スル目的ヲ以テ協定ヲ爲スベシ

(二)　各國ハ今後補助貨幣ノ品位引下ヲ爲サザルコトヲ約ス

(三)　各國ハ豫算問題ノ許ス限リ補助銀貨ヲ改鑄シ品位ヲ少クトモ千分ノ八百ニ引上グルコトヲ約ス

(四) 各國ハ中央銀行ニ對シ其ノ金屬準備ノ八〇「パーセント」ヲ金ヲ以テ二〇「パーセント」ヲ選擇的ニ金若クハ銀ヲ以テ保有スベキコトヲ協定スルコトヲ勸告スベシ但シ銀ガ一般物價水準ニ相當スル價格トシテ同意セラルベキ價格以下ニテ取得シ得ベキ場合ニ限ル又各國政府ハ關係法律ヲ此ノ趣旨ニ從ヒ改正スルコトニ同意ス

財政第二分科會ハ右決議案中銀ニ關スル部分ヲ討議スル爲メ銀小委員會ヲ設置シ米、英、和蘭、伊、「メキシコ」、加奈陀、印度、支那、日本、西班牙、「ボリビア」及祕露諸國代表ヲ委員トシ、米代表「ピットマン」ヲ議長トシタ、銀小委員會ハ六月二十一日開會シ米國提案ヲ討議ノ基礎ト爲スコトニ決定シタ、而シテ其後ノ會合及私的會談ノ結果「ピットマン」ハ最後ノ修正案ヲ七月十九日ノ小委員會ニ提出シ右ト同時ニ伊太利ハ對案ヲ提出シタ、右兩案ハ共ニ各國ニ對スル勸告ノ形式ヲ採ツテキタガ同委員會ハ伊太利案ヲ可決シ七月二十日ノ財政第二分科會ハ更ニ之ヲ採擇スルニ至ツタ右銀決議ノ要旨左ノ通リ（註一）

(一) 銀價格ノ變動ヲ緩和スル爲メ主要產銀國及最大銀保有乃至使用國ノ間ニ一ノ協定ヲ得ルニ努ムベキコト及右協定ニ參加セザル諸國ハ銀市場ニ著シキ影響ヲ及ボスベキ措置ヲ差シ控フベキコト

(二) 本會議參加國政府ハ今後其ノ銀貨ノ品位千分ノ八百未滿ヘノ貶下ヲ包含スル新立法手段ヲ差控フベキコト

(三) 右諸國政府ハ豫算上及地方的諸事情ノ許ス限リ銀硬貨ヲ以テ小額紙幣ニ代フルコト

(四) 右(二)及(三)ノ規定ハ(一)ニ勸告セラレ居ル協定ガ一九三四年四月一日前ニ效力ヲ生ゼザル場合ハ同期日ニ失效スベク且如何ナル場合ニモ一九三八年一月一日以後ニ效力ヲ存續セズ

(五) 但シ諸國政府ハ其ノ銀貨幣ニ關シ銀貨ノ銀分ノ地金價格ガ其ノ名目又ハ「パリティー」價值ヲ越エテ騰貴セルノ理由ニ基ク銀貨ノ逃匿又ハ鑄潰シヲ防止スル爲メ必要ナリト思惟スル如何ナル措置ヲモ採リ得ヘシ

二、右決議ニ關スル各國ノ態度

右銀決議採擇ニ關聯シ諸國代表ノ爲シタル議論ノ要旨ヲ摘記セバ左ノ通リデアツタ

米國側ノ議論ハ「ピットマン」ガ前記決議案提出理由ノ說明中ニ盡サレテキルガ之ニ依レバ(一)米國ノ提案ハ複本位制ノ復活ヲ目的トスルモノデナイ(二)銀使用國ノ購買力ヲ增加スルコトヲ目的トスルモノデアツテ卽チ銀使用國ノ購買力ガ銀貨ノ低落ニ

因リ著シク減少サレタコトハ米國ノ對支貿易ノ變遷ヲ見ルモ明カデアリ銀使用國ノ購買力ヲ增加スルコトハ獨リ銀使用國ノ爲ノミナラズ世界ノ繁榮ノ爲メ必要デアルガ他方ニ於テ金ノ不足ガ現在ノ財界ノ不況ノ一因タルコトモ否ムベカラザル事實デアルガ故ニ米國提案ハ複本位制ノ復活ヲ目的トスルモノデナイガ銀ヲ以テ金ノ補充トシ通貨ヲ金屬的基礎ノ上ニ引戻スノ必要アリト爲スモノデアル、而シテ過去ノ統計ニ依レバ銀生產額ハ左シタル變動ナキニ拘ラズ銀價ノ低落甚シキモノアリ之ガ原因トシテハ銀ノ通貨廢止ニ因ル銀貨ノ鑄潰シ純分引下及印度ニ於ケル巨額ノ手持銀ノ在在ヲ擧ゲネバナラヌ、殊ニ印度政府ガ巨額ノ手持銀ヲ時期及價格ノ如何ヲ問ハズ處分シ得ル地位ニ在ルコトハ銀價ニ對スル一大脅威デアル故ニ銀價引上ノ爲メニハ銀ノ供給ヲ銀鑛供給ニ制限シ、中央銀行準備中ニ銀ヲ包含セシムルコト及補助貨ノ鑄造竝ニ銀價ノ品位引上ヲ爲スコトヲ必要トス、銀價ヲ如何ナル點ニ於テ安定セシムルヤノ問題ニ付テハ未ダ確定案ヲ有セズト述ベ特ニ印度政府ガ銀供給制限ノ協定ニ參加スルノ必要ヲ强調シ同時ニ米國政府ハ銀供給制限ノ爲メ餘剩銀ノ買上ヲ爲スモ吝ナラザル意嚮アル旨ヲ言明シタ

「メキシコ」代表ハ右米國代表意見ニ贊シ銀ガ一個ノ商品トシテ一般物價ト共ニ下落セルコトヲ認ムルモ之ト同時ニ銀價下落ノ特殊原因トシテ通貨廢止等ノ政府的措置存ズルコトヲ忘ルベカラザル旨ヲ述ベ銀價引上安定ノ爲メ協力スベキコトヲ言明シ「ボリビア」及祕露代表又米國代表ノ意見ニ贊シ

支那代表ハ同國ニ於テハ金本位ヲ樹立セントスル意嚮ヲ有スルモ金ノ缺乏ニ因リ此ノ目的ヲ達スルヲ得ズ止ムナク銀ノ基礎ニ止ツテヰルガ銀價ノ動搖下落ニ依テ同國ノ貿易阻害セラルルコト尠カラズ支那ニトリ第一ニ望マシキハ銀價ノ安定デアツテ之ニ付テハ充分講究セラレンコトヲ望ムト述ベタ

英國、印度及加奈陀代表ハ何レモ銀ノ下落ヲ一ノ商品トシテノ下落ト見、其ノ原因ヲ財界ノ不況ニ歸シ、支那貿易減少ノ如キモ之ヲ原因トスルモノナルガ故本問題ハ結局金ノ問題ナリトスル立場ヲ採リ、米國案ノ如ク銀ノ貨幣用需要ヲ增加スルモ之ニ依ル增加ノ程度ハ僅少ニシテ大ナル效果ナイデアラウ又供給ヲ制限セントセバ生產者ト生產國政府トノ間ニ或種ノ協定ヲ必要トスルモ斯カル協定ノ實現ハ困難デアラウトテ米國代表ノ意見ヲ反駁シ米國案ニ付テハ多大ノ希望ヲ有シナイガ物價引上ノ意味ニ於テ贊成スル旨ヲ陳述シ、印度代表ハ賣却制限ニハ印度ハ保有銀ノ賣出ニ依テ他國ノ利益ヲ害スル意志ナキガ故印度ノ利益ガ留保セラルル限リ或程度迄贊成スベキ意嚮ヲ表明シタ

七月十三日ノ銀小委員會ノ會合ニ於テハ米國決議案ニ對スル修正案ノ討議ヲナシタガ其ノ席上「スペイン」代表ハ同國ハ將來金本位ヲ採用スル積リデアルガ右採用ノ場合現在ノ無制限法貨タル千分ノ九百位ノ銀價（五「ペセタ」銀價）ヲ貶下セズ其儘存置スルコトハ不可能ナルト同時ニ現ニ流通セル約十億「ペセタ」ニ達スル銀貨ヲ保持スルコト亦不可能ナルガ故ニ之ヲ流通ヨリ引上ゲ倫敦市場ニ於テ賣却スルノ外ナカルベシト述ベ

和蘭代表ハ右修正案ガ贊成國ヲ法律的ニ拘束スル性質ノモノ卽チ同國議會ニ之ニ關スル法律案提出ノ要アル性質ノモノトセバ同國內ニ直チニ銀反對運動ノ擡頭ヲ見テ結局決議案ノ目的トスル所ヲ達セザルニ至ルベシト述ベ、加奈陀代表ハ各國ガ若シ和蘭ノ如ク任意賣却防止及買上ニ關スル協定成立ヲ條件トシテ右修正案ヲ採擇スルガ如キ場合ハ他方亦右協定ノ成立ハ不可能ナラント述ベタ

日本代表ハ修正案ガ各國政府ヲ拘束スルモノトセバ一種ノ條約トナリ日本ニ於テハ批准ヲ要スルコトトナルガ右ガ單ナル勸告トスレバ全體ニ亘リ字句ノ修正ヲ要ス又銀塊相場ガ著シク昂騰又ハ爲替相場ガ著シク低落シタ場合ニハ品位引下ヲ爲スコトヲ得ルモノト諒解ス又鑄潰シニ關スル部分ハ之ヲ抹殺スルヲ可トスト述ベ、右ニ對シ「ピットマン」ハ決議修正案ガ勸告ナルコトヲ確認シ且右日本代表ノ說明ニ對シテモ委員會ノ諒解ヲ得タ

伊國代表ハ本邦代表ノ見解ヲ支持シ修正案ノ形式ヲ「サジェスチョン」ノ形式トスルヲ可トスト述ベタガ右ニ對シ「ピットマン」ハ銀協定國以外ノ諸國ガ協力セザレバ銀供給制限ニ關スル努力ヲ水泡ニ歸スベキ旨ヲ述ベテ特ニ四年間銀ノ賣却ヲ差控ヘンコトヲ希望シタ

第二款　銀ノ任意賣却及買上ニ關スル八ケ國協定

前記第一款所述ノ財政第二分科會ハ「ピットマン」決議案(一)ノ銀ノ任意賣却防止及買上ニ關スル銀生產國及銀保有國間ノ協定實現ノ可能性アリヤ若シアリトセバ其ノ協定如何ヲ研究スル爲メ銀生產國タル米國、加奈陀、「メキシコ」、祕露及「ボリビア」竝ニ銀保有國タル印度、支那及西班牙代表ヨリ成ル特別委員會ヲ設置シ右委員會ノ會合及私的會談ニ於テ協議セル結果協定案作成セラレ右ハ本邦代表ニモ送附セラレタ、右ニ依レバ協定參加國ハ印、支、西、加、濠洲、米、墨、祕露及「ボリビア」ノ外本邦ヲモ含ムモノニシテ本邦政府ハ協定存續中銀ヲ賣却セザルベク且協定參加諸國ノ鑛產額中合計三千五百萬「ファイン、オンス」ノ銀買入義務ニ對シ本邦政府モ又三七六、四八六「オンス」ノ銀買入割當額ヲ豫定セラレテ居タ、然ルニ七月二十日本邦代表部ハ米國

代表部ニ對シ本邦政府トシテ協定ノ成立ハ至極結構ト認ムルモ本邦ハ極メテ小額ノ產銀國ニ過ギザルガ故之ニ參加セズトモ協定ノ成立ニ何等影響ナカルベシト思惟スルヲ以テ本邦ヲ除外シテ他ノ關係國間ニ協議ヲ進メラレンコトヲ希望シ米國側モ本邦ノ地位ヲ諒解シテ本邦ハ協定ニ參加スルニ至ラナカツタガ、「ボリビア」モ亦參加セズ、結局右協定ハ七月二十二日米、加、濠、墨、「ペルー」、支、印及西ノ八ケ國間ニ署名セラレタ、其ノ要旨左ノ通リデアル（註二）

(一) (イ) 印度政府ハ一九三四年一月一日ニ初マル四ケ年ノ期間中一億四千萬「オンス」ヲリモ多量ノ銀ヲ賣却セザルベク且各曆年中ノ平均賣却量ハ三千五百萬「オンス」ヲ基礎トシ一ケ年ニ於ケル最大限賣却量ヲ五千萬「オンス」トス但シ (ロ) 米國政府ニ戰債支拂トシテ讓渡スルノ目的ヲ以テ協定ノ日付以後印度政府ガ何レカノ政府ニ對シ銀ヲ賣却シタル場合ニハ該銀ハ本協定ノ範圍ヨリ除外セラルヘク、尤モ (ハ) 上記 (イ) 及 (ロ) ニ依ル賣却銀ノ合計量ガ一億七千五百萬「オンス」ニ上ル場合ニハ協定當事國ノ義務ハ終了スベシ

(二) 濠、加、米、墨及「ペルー」ノ諸政府ハ本協定ノ存續期間中銀ヲ賣却セザルベク且一九三四年曆年ニ初マル四ケ年ノ期間中各曆年ニ於ケル右諸國ノ銀產額ヨリ三千五百萬「オンス」ノ銀ヲ買入ルルカ其他ノ方法ニ依リ市場ヨリ撤回スベク右割當額ハ協定ニ依リ決定スベシ

(三) 上記 (二) ノ規定ニ依リ買入レ又ハ撤回セラレタル銀ハ通貨ノ目的ノ爲メ（鑄貨若クハ準備）之ヲ使用スルカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ前記四ケ年ノ期間中之ヲ賣却ヨリ保留スベシ

(四) 支那政府ハ上記四ケ年ノ期間中鑄潰貨幣ヨリ生ズル銀ノ賣却ヲ行ハズ

(五) 西班牙政府ハ前記四ケ年ノ期間中二千萬「オンス」ヨリモ多量ノ銀ヲ賣却セザルベク且各曆年ノ平均賣却量ハ五百萬「オンス」ヲ基礎トシ一ケ年ニ於ケル最大限賣却量ヲ七百萬「オンス」トス

(六) 本協定ハ關係諸國政府ノ批准ヲ條件トス、批准書ハ遲クモ一九三四年四月一日迄ニ米國政府ニ寄託スベシ

右協定ハ當事各國ノ批准ヲ了シ實施セラルルニ至ツタガ（註三）、右協定ニ依ル銀買入割當額ハ其後左ノ如ク決定セラレタ（單位「オンス」）

米國	二四、四二一、四一〇
濠洲	六五二、三五五
加奈陀	一、六七一、八〇二
墨西哥	七、一五九、一〇八

合　計　　一、〇九五、三二五
　　三五、〇〇〇、〇〇〇

（註一）　附錄第十五、國際銀決議參照

（註二）　附錄第十六、八ケ國銀協定參照

（註三）　支那ハ右協定ニ依リ鑄潰貨幣ヨリ生ズル銀ノ賣却ヲ行ハザルコトヲ約セルモ元來同國ハ貿易決濟ノ爲メ銀ヲ輸出セナケレバナラヌカラ、銀「ストック」ノ賣却ニ依ルモノカ或ハ貿易決濟ノ爲メニスルモノカハ實際上區別シ得ナイ、從ツテ支那ノ義務ハ殆ド意味ナシト評セラレタ而シテ支那ハ後述ノ如ク一九三五年十一月銀本位制ヲ離脫シタガ之ニ依リ支那ハ右協定ノ義務ヲ事實上免ガルルニ至ツタト見ル者モアル

第三章　亞米利加合衆國ノ銀政策

第一款　「アメリカ」合衆國ニ於ケル銀貨幣制度ノ沿革

一、一七九二年貨幣法

米國獨立前後ニ於テハ英本國ノ貨幣制度タル銀本位制ヲ施行シテキタノデアルガ實際一般ニ流通シテキタ貨幣ハ主トシテ西班牙ノ「ピアストル」銀貨デ其他佛蘭西、葡萄牙等ノ外國貨幣モ總テ右「ピアストル」銀貨ヲ標準トシテ價値ヲ定メラレ市場ニ流通シテキタ斯ル混沌タル貨幣制度ノ統一ヲ計ル爲メ合衆國政府ハ時ノ大藏長官「アレキサンダー、ハミルトン」ノ建言ニ基イテ一七九二年四月米國最初ノ貨幣法ヲ制定實施スルニ至ツタ

右法律ハ金銀複本位制ヲ採用セルモノデアツテ弗ヲ以テ價値ノ單位トシ銀貨一弗ノ總量四一六「グレイン」、品位八九二・四分ノ三純銀量三七一・二五「グレイン」トシ、右貨幣ニ對シ一對一五ノ法定比價ヲ以テ金貨ヲ鑄造シ、金弗ノ品位ヲ九一六・三分ノ二、重量二七・〇「グレイン」トシ金ノ純量ヲ二四・七五「グレイン」トシタ。貨幣ノ算則ハ十進一位ノ方式ニ依リ右兩本位貨ニ對シテハ自由鑄造ヲ許シ鑄造料ヲ賦課セザルコトトシタ

本法ニ基キ一七九四年弗銀貨、其ノ翌年「イーグル」金貨鑄造セラレタガ本法實施ノ當初金銀市場比價ハ殆ド一五・三七デ法定比價ト著シイ相違ハナカツタガ銀ハ次第ニ低落シテ一八一〇年前後ニハ一六ニ近ヅキ金貨ハ漸次流通市場ヨリ影ヲ沒スルニ至ツタノデ政府ハ一八〇六年一時銀ノ自由鑄造ヲ停止スルコトトナツタ

二、一八三四年法律

玆ニ於テ複本位制ヲ維持センガ爲メニハ金銀比價ヲ改定セザル可カラザル事態トナリ合衆國政府ハ一八三四年六月法律ヲ以テ金銀比價ヲ市場比價ニ接近セル一對一六・〇〇二トシタ卽チ銀弗ノ量目及純分ハ之ヲ維持セルモ金貨ノ品位及重量ヲ改メ金弗ノ品位約・九〇〇、重量二五・八「グレイン」純金量ヲ二三・二「グレイン」ニ減ズルコトトナツタ然ルニ當時佛蘭西ニ於ケル複本位制ノ法定比價ハ一ト一五・五デアツタガ爲メ其後一八三七年一月法律ヲ以テ再ビ右ヲ改メ銀弗貨ノ純分ハ依然三七一・二五「グレイン」トセルモ其ノ品位ヲ〇・九〇〇、重量ヲ四一二・五「グレイン」ニ改定シ金弗ノ品位〇・九〇〇、重量二五・八「グレイン」トシテ法定比價ヲ一對一五・九八八トシタ後ニ金銀比價一對十六ト概稱セルハ卽チ之ヲ指スモノデアル

一八三七年法律實施後モ市場比價ハ一五・七ナリシ爲メ同年末頃ヨリ金貨ノ流入增加スルト共ニ銀貨ハ次第ニ海外ニ流出スルニ至リ殊ニ一八五〇年濠洲及「カリフオルニア」ニ於ケル金鑛ノ發見以來此ノ趨勢ヲ助長シ銀貨ノ一弗ハ金貨ノ一・〇四弗トナルニ至ツタ

三、一八五三年法律

從來合衆國ニ於テハ本位銀貨ト補助銀貨トノ純分ニ區別ナク一律本位弗ノ純量三七一・二五「グレイン」ヲ採用セル爲メ右ノ如キ銀價騰貴ノ結果ハ補助銀貨ノ流出ヲモ招クニ至ツタノデ合衆國政府ハ一八五三年二月法律ヲ以テ補助銀貨卽チ額面半弗以下ノ銀貨ノ純量ヲ一弗ニ付キ三四五「グレイン」ニ低減シタル爲メ補助銀貨ノ流出ハ自然停止スルニ至ツタ、他方本位銀貨ノ鑄造ハ需要額ヲ越エテ之ヲ爲サザルコトトシタノデアルガ銀本位貨ノ鑄造ヲ申出ヅルモノ無ク本位銀貨ハ一八三七年以來事實殆ド市場ニ流通シナカツタ

四、一八七三年法律

前記ノ如ク金產額ノ增加ニ基キ金ハ銀ニ對シ其ノ市場比價ハ法定比價以下ニ下落シタノデ金貨流入、銀貨流出ヲ招來シ合衆國ニ於テハ一八三七年以來事實金本位國タルノ觀ヲ呈スルニ至ツタノデアル一八七三年二月及六月ノ法律ハ右狀態ヲ確認スルニ至ツタ卽チ右ニ依レバ(一)本位銀貨ノ

鑄造ヲ中止シ (二) 銀貨ノ強制通用力ヲ五弗ニ制限シ (三) 金貨ノ鑄造料ヲ五百分ノ一トナシ次イデ之ヲ廢止シ (四) 價値單位タル金弗ノ品位〇・九〇〇、重量ヲ二五・八「グレイン」トナシタ

右ノ結果銀貨ハ本位貨幣タルノ資格ヲ失ヒ法律上金本位制實施セラルルニ至ツタノデアルガ當時合衆國ニ於テ正貨ハ影ヲ潛メ專ラ流通セルハ「グリーンバックス」(Greenbacks) ナル不換紙幣及國立銀行券デアツタ (註一)

五、合衆國紙幣 (「グリーンバックス」)

南北戰爭 (一八六一—一八六五) 當時合衆國ハ法律上複本位制ヲ採用シテキタノデアルガ銀弗ハ一八三七年以來殆ンド流通セズ金貨ハ一八五〇年頃ニ於ケル「カリフォルニア」及濠洲ニ於ケル金產出ニ依リ市場ニ流通シタノデアルガ通貨ノ大半ハ各洲ニ於ケル洲立銀行券デアツタ。然ルニ一八六一年末以來政府ハ事實正貨支拂ヲ停止シタガ爲メ金貨ハ流通市場ヲ去リ新タニ發行セラレタ「グリーンバック」及國立銀行券及從來ノ洲立銀行券ガ專ラ流通シタ。合衆國紙幣 (United States Note) 卽チ「グリーンバック」ナル不換紙幣ハ一八六二年二月初メテ合衆國政府ニ依リ戰費ニ供スル爲メ主トシテ關稅ヲ擔保トシテ發行セラレ合計四億五千萬弗ニ上リ中四億三千百萬弗ハ市場ニ流通スルニ至ツタ。政府ハ「グリーンバック」ヲ以テ合衆國ニ於ケル法貨ト爲シタカラ

國立銀行券其他一切ノ通貨ハ右紙幣ヲ標準トシテ價値ノ騰落ヲ見、金ハ商品トシテ右紙幣ニヨリ評價セラルルニ至ツタ。一八六四年ニハ金一弗ノ價値ハ紙幣二弗ヲ超過シ其ノ騰貴最モ著シク卸賣物價ハ之ニ次デ騰貴シタ (註二)

戰爭終了直後米國ニ於ケル流通貨幣 (無價値トナツタ南方聯邦政府ノ發行セシ紙幣及「カリフォルニア」地方ニ於ケル多少ノ金貨ヲ除ク) ハ大體「グリーンバックス」(四三一、〇〇〇、〇〇〇) 補助紙幣 (一五、〇〇〇、〇〇〇)(註三) 洲立銀行券 (一四六、〇〇〇、〇〇〇) 國立銀行券 (一三、〇〇〇、〇〇〇)(註四) 合計七億三千五百萬弗 (七三五、〇〇〇、〇〇〇) 其他少額ノ補助貨幣デアツタガ右通貨ハ總テ「グリーンバックス」ニ對シテ「バリティー」ヲ維持シテキタ、從テ戰後ニ於ケル通貨問題ハ此等ノ通貨ヲ正貨トノ「バリティー」ニ回復スルコトニアツタ。玆ニ於テ一八六五年十二月大藏長官ハ「グリーンバックス」ト金貨トノ「バリティー」ヲ回復スル目的ヲ以テ通貨收縮ノ必要ヲ强調スル處アツタガ通貨膨脹論者ハ極力之ニ反對シ玆ニ涯ナクモ「グリーンバックス」ノ回收ヲ續リ一八七九年ノ法律ニ依ル兌換實施ニ至ル迄烈シキ政治的論爭ヲ捲キ起スニ至ツタノデアル

政府ノ聲明セル右通貨收縮方針ハ一般市場ニ反映シ一八六六年以來物價ハ漸次下落スルニ至ツタ

ノデアルガ政府ハ先ヅ一八七三年法律ヲ以テ前記金本位制ヲ實施シ次デ一八七五年一月ニハ金兌換法（Resumption Act）ヲ制定シタ

右兌換法ニ依レバ（一）大藏省ハ剩餘收入及國債ノ賣却ニ依リ其ノ金準備ヲ增加シテ紙幣ヲ兌換スベキコト（二）尤モ回收セル紙幣ハ之ヲ燒却セズ再ビ發行スベキコト（三）兌換開始ノ期日ハ一八七九年一月一日トナスコト等ヲ規定シタ大藏長官ハ右法律ニ基キ着々金準備ヲ增加シ一八七九年一月一日ニハ既ニ一億三千三百萬弗ニ上ツタ。紙幣ハ漸次騰貴シテ一八七一年ニハ金弗ニ對シ一・一二弗トナリ一八七八年十二月中旬ニハ殆ド「パー」トナツタ從ツテ金兌換開始ノ時ニ於テモ之ヲ申出ヅルモノ少ク財界ハ極メテ平穩デアツタ

然シ乍ラ他方「インフレーショニスト」ハ銀論者ト結合シテ議會ノ勢力ヲ得、一八七八年三月ノ法律ニ依リ「グリーンバックス」ヲ當時ノ流通額タル三億四千六百六十餘萬弗迄發行セシムル事ニ成功シ爾來一九三三年米國ノ金本位離脫ニ至ル迄「グリーンバックス」ハ市場ニ於テ殆ド右ト同額ノ流通ヲ見タノデアル（註五）

六、銀　運　動

合衆國政府ノ通貨收縮方針ハ最初議會及一般ノ支持ヲ得タノデアツタガ右ニ反對スル通貨膨脹論者ハ一八七三年ノ恐慌以來漸次勢力ヲ增シ一八七五年金兌換法ノ制定ニ際シテハ强硬ニ反對シ遂ニ「グリーンバックス」黨（註六）ナル政黨ヲ組織シ右法律ノ廢止、國立銀行券ノ廢止及合衆國紙幣ノ發行ヲ主唱シタ

恰モ、一八七〇年以來獨逸、和蘭等歐洲諸國ノ金本位制實施及ビ「ラテン」同盟諸國ノ銀貨鑄造制限ハ當時米國ニ於ケル銀產額ノ增加ト相俟ッテ銀論者ノ頭ヲ惱マシツツアッタ、蓋シ一八三七年以來久シキ期間合衆國通貨ヨリ殆ド影ヲ沒シタ銀弗ノ價値ハ一八七四年ニ至リ初メテ銀塊ヨリモ高廻ルニ至リ其後引キ續キ銀塊ハ低落シタ

狼狽セル銀鑛業者ハ銀塊ヲ一對一六ノ比價（卽一八三七年以來一八七三年銀ノ自由鑄造ヲ禁止スルニ至ル迄ノ法定比價）ヲ以テ銀貨ニ鑄造スベキコトヲ要求シテ盛ンニ活躍シ始メタ

右銀論者ハ「グリーンバックス」黨及其他ノ通貨膨脹論者ヲ動カシ漸次議會ニ勢力ヲ得テ一八七六年頃ヨリ銀ノ自由鑄造ヲ主張シテ遂ニ一八七八年ノ「ブランド・アリソン」條例（Bland-Allison Act）及ビ一八九〇年ノ「シャーマン」條例（Sherman Act）ヲ制定セシムルニ至ッタ

元來米國ニ於ケル人口稠密ナラズ未ダ充分發達セザル南部及西部農業諸洲ニ於テハ信用制度モ完備セズ資本ノ供給モ滿足デナカツタカラ自然安價ナル貨幣ヲ要求シ「インフレーション」ニ傾イ

タ南北戰爭以前ニ於テハ州立銀行券ヲ濫發シタガ聯邦政府ガ一八六三年國立銀行制度ヲ設立シテ同銀行券ノ發行ニ依リ州立銀行券ノ發行ヲ抑壓スルニ至ツタカラ此等諸州ハ國立銀行ノ發券ヲ以テ貨幣ヲ私人ノ獨占ニ委スルモノト非難シ之ニ代リ政府紙幣タル「グリーンバックス」ノ發行ヲ要求シタノデアツタガ、彼等ノ通貨論ハ寧ロ地方的利益ニ偏シタモノデアツタ。而シテ銀論者ノ主張スル銀ノ自由鑄造ハ主トシテ此等ノ地方ニ於テ十九世紀後半以來頓ニ隆盛トナツタ銀鑛業者ノ利益ヲ主眼トシタモノデアツタガ銀論者ハ右通貨膨脹論者ヲ動カシテ共ニ銀自由鑄造ヲ主張セシムルニ至ツタ然ルニ彼等ハ南北戰爭以來此等地方ヲ强固ナル地盤トスル民主黨デアツタカラ自然銀論者ハ民主黨ノ勢力ヲ背景トシテ一八七八年以來聯邦議會ニ於テ盛ンニ活躍シテ黨派的感情ニ支配セラレタ銀立法ヲ制定セシムルニ至リ一八九〇年頃ハ銀論者ノ勢力ハ最モ增大シタノデアツタガ一八九三年ノ恐慌以來一般國民ノ不信ヲ買ヒ一八九六年ノ大統領選擧ニ於テ慘敗ヲ喫シテ其ノ勢力失墜シ金本位制ハ輿論トナツテ爾來世界大戰ニ至ル迄再ビ銀運動ノ擡頭ヲ見ナカツタ

（註七）

七、一八七八年「ブランド・アリソン」條例

一八七八年二月制定セラレタ「ブランド・アリソン」條例ニ依レバ

(一) 大藏長官ハ每月二百萬弗以上四百萬弗以下ノ銀地金ヲ購入スベク（買上價格純銀三七一・二五「グレイン」ニ付キ一弗以下トス）

右購入代金支拂ノ爲メ證券（Treasury Note）ヲ發行ス

(二) 合衆國造幣局ヲシテ右購入銀地金中ヨリ一八九一年七月一日ニ至ル迄每月二百萬「オンス」ヲ一八七三年一月ノ法律ニ從ヒ重量四一二・五「グレイン」純量三七一・二五「グレイン」ヲ有スル弗貨ニ鑄造セシメ之ヲ以テ無制限法貨トス

(三) 大統領ハ直チニ「ラテン」同盟諸國其他ノ歐洲諸國ヲ勸誘シテ列國復本位制採用ノ爲メ盡力スベキコト

等ヲ規定シタ右ハ明カニ金本位論者ノ敗北ヲ意味スルモノデハアルガ未ダ銀ノ自由鑄造ヲ認メズ從ツテ完全ナル復本位制ヲ採用スルニ至ラナカツタ、蓋シ右條例ニ依レバ金銀法定比價ハ殆ホ一對一六デアルガ當時市場比價ハ一對一八デアリ獨リ合衆國ガ右法定比價ヲ以テ復本位制ヲ採用スルガ如キハ直チニ金ノ流出、銀ノ橫溢ヲ招キ事情許シ難キモノアツタカラ銀論者モ之ヲ容認スルノ止ムナキニ至ツタノデアラウ然シ銀論者ハ勿論右ヲ以テ滿足セズ更ニ國際會議ノ開催ニ依リ復本位制ノ實施ニ努力セントシタ外其後更ニ廣汎ナル銀立法ヲ劃策スルニ至ツタノデアル、右條例

ハ銀論者ガ世界ノ大勢ニ抗シ獨力合衆國ノ法律ニ依リ銀價ノ吊上ヲ計ラント企圖セル最初ノ計劃トシテ注意スベキデアラウ右法律ハ一八九〇年「シャーマン」條例ノ制定ヲ見ルマデ存續シ之ニ基キ合衆國政府ガ購入セル銀ノ總額ハ一八九〇年迄ノ期間ニ合計二億九千百萬（二九一、〇〇〇、〇〇〇）「オンス」デアリ又同期間ニ於ケル其ノ銀貨鑄造高ハ三億七千八百萬弗ニ及ンダ

八、一八九〇年「シャーマン」條例

前記「ブランド」條例實施後モ銀ハ尚下落ノ趨向ヲ止メナカツタカラ銀論者ハ再ビ銀ノ自由鑄造ヲ要求シテ止マズ遂ニ更ニ廣範ナル復本位制ヲ施行セシムルニ至ツタ右「ブランド」條例ニ代ルベキ所謂「シャーマン」條例ガ之デアツタ。

一八九〇年七月法律ノ規定ノ趣旨ハ左ノ通リ

(一) 大藏省ハ銀ノ市場價格一「オンス」ニ付キ百二十仙●〇二九（一二〇●〇二九仙）ナル限リ市價ヲ以テ毎月四百五十萬「オンス」（四、五〇〇、〇〇〇）ヲ最高トシテ銀地金ヲ購入ス

(二) 大藏省ハ右買上銀地金ニ對シ一弗乃至三十弗ノ證券ヲ發行シコノ證券ハ無制限法貨トシ且之ニ對シ大藏長官ハ所有者ノ請求ニ依リ金貨（一對一六ノ比率）又ハ銀貨ヲ以テ兌換シ且ツ右銀地金ヲ以テ銀行準備金ニ充當スルコトヲ得

(三) 一八七八年「ブランド」條例ニ依ル銀貨鑄造ハ右證券ノ安全ヲ計ル爲メ必要ト認メザル限リ之ヲ停止ス

(四) 合衆國政府ハ金銀兩貨ノ間ニ何等輕重ヲ置カズ右ハ「ブランド」條例ヨリモ更ニ一步ヲ進メ卽チ毎月最高四百五十萬「オンス」ニ至ル迄銀買上ノ範圍ヲ擴張スルニ至ツタノミナラズ大藏省證券ニ對シ一對十六ノ比價ヲ以テ金銀貨何レニモ兌換シ得ルコトトシタ爲メニ外國ニ於テハ亞米利加ガ銀ノ自由鑄造ヲ許シ以テ完全ナル複本位制ヲ採用スルニ至ルナキヤヲ危虞シテ投資家ハ金ノ流出ヲ開始シ國內ニ於テモ一般ニ金兌換ヲ請求スルモノ多ク爲ニ政府ノ金準備ハ一八九三年七月ニハ最低保障ト認メラレタ一億弗ヲ割ルニ至ツタ他方印度ノ銀貨自由鑄造ノ中止ニ依ル銀價ノ暴落ト米國ニ於ケル同年ノ經濟恐慌ハ甚シク銀貨ノ信用ヲ失墜セシメ遂ニ同年十一月一日右條例ハ廢セラレタ右條例ガ廢止セラルル迄ニ之ニ基キ發行セラレタ銀證券ハ約一五五、九三一、〇〇〇弗デアツテ、政府ノ銀購入額ハ一六九、〇〇〇、〇〇〇「オンス」ニ達シタ。

「シャーマン」條例モ亦「ブランド」條例ト同ジク銀論者ガ不自然ニ銀貨ノ吊上ヲ計ラントシタモノデ多分ニ黨派的傾向ニ影響セラレタモノト見ラレテキル然レバ一八九六年ノ大統領選擧ニ民主

黨ハ「プライアン」ヲ候補トシテ銀自由鑄造ヲ政綱トシテ共和黨ノ「マツキンレイ」ト爭ツタノデアルガ慘敗ニ終リ遂ニ一九〇〇年三月十四日法律ニ依リ金本位制ハ確立セラレタ爾來銀論者ノ勢力ハ失墜シ一九〇四年並ニ一九〇七年ノ恐慌ヲ通ジ又一九一三年ニ於ケル聯邦準備銀行制度(註八)ノ設立ニ際シテモ銀運動ハ再起スルニ至ラナカツタ

八、一九〇〇年三月法律

右法律ハ一九三三年三月合衆國ガ金兌換ヲ停止スルニ至ル迄米國貨幣制度ノ基礎タリシモノニシテ右ニ依レバ

(一) 品位千分ノ九百、重量二五・八「グレイン」ノ金弗ヲ以テ價値ノ標準單位トス合衆國ノ發行又ハ鑄造セル總テノ貨幣ハ此ノ標準ト均等ノ價値ヲ維持セシムルコトヲ以テ大藏長官ノ責務トス

(二) 合衆國紙幣及一八九〇年法律ニ依ル大藏省證券(Treasury Notes)ハ右本位金貨ヲ以テ兌換ス

(三) 右兌換ヲ迅速ナラシムル爲メ大藏長官ハ一億五千萬弗ノ金貨及金地金ヲ準備金トシ金庫ニ別勘定トシテ保有スルコトヲ要シ、右準備金ハ紙幣償還ノ目的ニノミ使用スルコトヲ要ス

(四) 一九九〇年「シヤーマン」條例ニヨリ購入セラレタル銀ハ一般ノ需要ニ應ズルニ必要ナル額面ノ補助銀貨ニ鑄造セラレ同條例ニ依ル大藏省證券償還ノ爲メ使用セラル但右發行總額ハ一億弗ヲ超過スベカラズ(註九)

(五) 大藏長官ハ額面二十弗以上ノ金貨ノ預託ヲ受ケ之ニ對シ十弗以上ノ券面ヲ有スル金券ヲ發行スルコトヲ得、但シ前記(三)金準備ガ一億弗以下ニ減少シ居ル期間ハ右金券ノ發行ハ之ヲ停止スルヲ要ス

(註一) 一八七五年一月ノ法律ニ依リ私人ニシテ銀地金ヲ造幣局ニ納入スル時ハ東洋貿易ノ用ニ供スル爲メ量目四二〇「グレイン」品位九〇〇ノ銀貨ヲ鑄造シ得ルコトトシタ、一七九二年貨幣法實施以來本位銀貨ノ鑄造額ハ僅カニ八、〇三一、二三八弗ナリシト云フ

(註二) 金ノ最高價格ハ一八六四年七月金一弗ハ紙幣二・八五弗トナツタ、又一八六〇年ヲ一〇〇トセバ卸賣物價ハ一八六五年ニ一八五、小賣物價ハ一八六六年ニ一八〇ニ騰貴シ賃銀ハ最モ遲レテ一八七六年ニ一六八ニ上ツタ

(註三) 國立銀行ハ一八六三年二月ノ國立銀行條例(National Bank Act)ニ依リ創設セラ

レ合衆國政府ノ監督下ニアリ其ノ設立ニハ所在地ノ人口三千人以下ハ二萬五千弗、六千人以下ハ五萬弗、五萬人以上ハ二十萬弗ノ資本金ヲ以テ監督官廳ノ認可ヲ必要トス。一九三二年合衆國ニ於ケル國立銀行數ハ六千百五十（六、一五〇）デアリ資產總額二百二十三億六千七百萬弗（二二、三六七、〇〇〇、〇〇〇）デアッタ。國立銀行券ハ合衆國政府ト發券銀行兩者共同ノ債務デアッテ發券銀行ハ合衆國々庫ニ準備トシテ同額ノ政府公債及合法ノ貨幣ヲ供託スル外兌換準備金トシテ發券額ノ五「パーセント」ノ合法ノ貨幣ヲ準備スルヲ要ス右國立銀行券ハ一九三三年末ニハ合衆國通貨ノ殆ド六分ノ一デアッタガ金本位離脫後ハ兌換停止トナッタ

（註四）　州立銀行ハ各州ノ法律ニ依リ設立セラレ各州政府ノ監督下ニ在リ從ッテ資本金其他ノ設立認可條件モ各州ニ依リ區々タルモノアリ、合衆國ニ於ケル銀行中最多數ヲ占ムルモノハ此ノ銀行デアッテ一九二一年ニハ一八、八〇〇以上ニ及ンダ然シ資本總額ニ於テハ到底國立銀行ノ比デナイ。一九二九年ノ恐慌以來破產セルモノ最モ多キハ此ノ銀行デ其數モ著シク減少スルニ至ッタ

國立銀行設置以前ニ於テハ銀行業務ハ主トシテ各州ニ委セラレ合衆國政府ハ之ニ關與スルコト少ナカッタ、然シ州立銀行券ノ發行ニ關シテハ合衆國政府ガ貨幣鑄造ニ關スル專權ヲ有スルガ故ニ州法ニ基ク州立銀行ノ發券ハ果シテ憲法上違法ナルヤ否ヤニ付キ問題トナリ大審院ハ一八三七年之ヲ以テ違憲ニ非ズトノ判決ヲ下シタガ爲メ州立銀行ニシテ發券スルモノ漸次多キヲ加ヘ殊ニ農業地方タル西南部諸州ハ之ヲ濫用シ其ノ弊害甚シカッタカラ合衆國政府ハ通貨ノ安全ト統一ノ爲メ漸次之ニ關與スルニ至リ先ッ一八四六年ニハ各州ニ獨立ノ國庫支店ヲ設置シテ政府資金ヲ各州立銀行ニ預金セズ又稅金其他一切ノ政府支拂ハ正貨ヲ以テ爲スコトトシタ。一八六一年末ニハ正貨支拂ヲ一時停止シ「グリーンバックス」紙幣ヲ發行シタガ一八六三年國立銀行設置ト共ニ州立銀行ノ發券ヲ抑壓シ國立銀行券ニ對シテハ一「パーセント」ノ發行稅ヲ課シタルニ對シ州立銀行券ニハ一〇「パーセント」ヲ課シタ爲メ後者ハ次第ニ驅逐セラレタ

（註五）　一九三三年三月以來ノ立法ニ於テ合衆國紙幣ハ金兌換ヲ停止セラレ政府ハ事實三十億弗ニ達スル合衆國紙幣ヲ發行スル權限ヲ與ヘラレタ

（註六）「グリーンバックス」黨（Greenback or National Party, later Greenback Labor Party）ハ一八七五年ノ選擧ニハ主トシテ南部及西部ニ於テ約百萬ノ投票ヲ得タガ一八

八二年ノ大統領選擧ニハ僅カニ十七萬五千ノ投票ヲ得タニ過ギナイ

（註七）銀論者ノ勢力ハ一九〇〇年ニ至ル迄米國上院ヲ支配シタ

（註八）聯邦準備制度ハ一九一三年十二月二十三日ノ法律（The Federal Reserve Act）ニ依リ設定セラレタモノデアルガ其ノ要旨ハ全國ヲ十二ノ準備區ニ分チ各區ニ準備銀行ヲ置キ區内ノ諸銀行ハ之ニ加盟スルコトヲ得、但シ國立銀行ハ强制的ニ加盟スルヲ要ス、十二ノ準備銀行ヲ統轄スル爲メ中央ニハ八名ノ委員（大藏長官及通貨管理官ハ職權上委員トナリ他ノ六名ハ大統領ガ上院ノ勸告及同意ヲ得テ任命ス）ヨリ成ル準備局アリ

加盟銀行ハ何レモ其ノ預金債務ニ對シ一定割合以上ノ準備金ヲ所屬準備銀行ニ預託スルヲ要ス其ノ割合ハ要求預金（demand deposits）ニ付テハ中央準備市ニ於テハ一三「パーセント」以上、準備市ニ於テハ一〇「パーセント」以上其他ノ準備區ニ於テハ七「パーセント」以上、又期限付預金（time deposits）ニ對シテハ一率三「パーセント」以上トス

聯邦準備券（Federal Reserve Note）ハ聯邦準備局ガ準備銀行ヲ通ジテ發行スルモノデ聯邦準備銀行及合衆國政府ノ債務デアル右ハ總テ金ニ兌換セラレ各準備銀行ハ其ノ發行セル準備券ニ對シ少クトモ四〇「パーセント」ニ相當スル金準備ヲ爲スヲ要シ金準備ガ右標準以下トナレバ準備局ハ發行準備券ニ對シ累進稅ヲ附加シテ銀行ハ右稅ヲ加盟銀行ニ對スル割引率ニ附加シ以テ貸出ヲ牽制シテ右標準以上ノ準備券ノ流通ヲ抑壓シテ金融ヲ調節スル仕組デアッタ

聯邦準備銀行券（Federal Reserve Bank Note）、準備銀行ハ政府公債ヲ擔保トシテ同額ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

右銀行券ハ國立銀行券ト同樣ノ條件ヲ以テ發行セラレ兌換セラル

一九二九年ノ統計ニ依レバ米國ニ於ケル二萬七千ノ銀行中聯邦準備銀行ニ加盟セルモノ其ノ三分ノ一而シテ全國銀行資產ノ三分ノ二ヲ占メタト云フ、又聯邦準備券ハ一九三三年末ニ於テ合衆國通貨ノ半バ以上ヲ占メタガ同年ノ立法ニ依リ金兌換ハ停止セラレ且準備保障ハ薄弱トセラレタ、聯邦準備銀行券ハ一九三三年二月末ニハ其ノ流通高三百萬弗ヲ超過シナカッタガ同年三月ノ立法ニ依リ其ノ發行保障ノ擔保物ハ或種有價證券ニ迄擴大セラレ且金兌換ハ停止セラレテ其ノ發行高ハ激增シ同年十一月末ニハ流通總額二億六百萬弗ニ上ッタ

（註九）一九〇三年ニハ右發行額制限ハ撤廢セラレタ

第二款　金融恐慌對策

一、金融恐慌ト一九三四年金準備法

一九三三年二月「ミシガン」「メリーランド」ニ端ヲ發シタ米國金融恐慌ハ全國ニ波及シ三月四日ニハ遂ニ全國ノ銀行ハ休業スルニ至リ茲ニ於テ四日「ルーズベルト」大統領ハ就任ノ辭ニ於テ米國ニ於ケル暗澹タル現下ノ經濟狀態ヲ述ベ其ノ具體的政策トシテ(一)政府ノ戰時措置ニ倣ヘル失業救濟ノ實行、農產物價格ノ引上ゲ、交通通信機關ノ統制(二)銀行、信用及投資ノ嚴重ナル管理及投機ノ絕滅ヲ期スルト共ニ Adequate and sound currency ノ維持(三)緊急ナル事態ニ應ズル爲メニハ議會ニ對シ外敵侵入ノ場合ニ匹敵スベキ廣汎ナル權限ノ賦與ヲ求ムルコト等ヲ述ブル處アッタ、大統領ハ先ヅ緊急措置トシテ六日ノ大統領布告ヲ以テ一九一七年ノ對敵通商法（Trading with Enemy Act）ニ基キ三月六日ヨリ九日ニ至ル期間全國銀行ノ休業ヲ命ジ右期間ニ於テ銀行ガ金銀貨、金銀塊又ハ通貨ノ支拂、輸出、イーアマーク」、引出シ、移轉又ハ退藏ヲ爲スコト及預金ノ支拂、貸出シ又ハ割引、外國爲替ノ取引、外國ヘノ信用移轉等ノ業務ヲ爲スコトヲ禁止スル

ニ至ッタノデアルガ三月九日制定ノ緊急銀行救濟法ハ之ヲ確認シ卽チ(一)大統領ガ從來又ハ今後前記對敵通商法ニ基キ採ル可キ措置ヲ確認シ(二)同時ニ右對敵通商法ヲ修正シテ國家緊急ノ場合大統領ハ外國爲替ノ取引、信用移轉及支拂ヲ制限禁止シ、及金銀貨、金銀塊又ハ通貨ノ輸出、退藏、鑄潰又ハ「イーヤマーク」ヲ禁止スルコトヲ得ルコトト爲シ(三)聯邦準備法ヲ修正シテ米國通貨制度ヲ保護スルニ必要ナル場合大藏長官ハ個人、組合、會社及團體ニ對シ其ノ所有スル金貨、金塊又金證券ヲ同額ノ他ノ通貨ニ引換ヘテ政府ニ支拂ヒ又引渡スコトヲ要求シ得ベキ事トシ(四)緊急ノ場合ニハ聯邦準備制度ノ加盟銀行ハ大統領ノ認可ヲ經テ大藏長官ノ規定セル制限取締ノ範圍以外ニ何等ノ銀行業務ヲ營ムコトヲ得ザルベキ旨ヲ規定スルコトトナッタ。次テ大統領ハ三月十日布告ヲ以テ前記六日布告ノ效力ヲ無期限ニ延期スルト共ニ銀行開業ノ許可ヲ與フベキ旨ヲ聲明シタガ更ニ大藏長官ハ之ヲ敷衍シ銀行ノ開業ヲ許可スベキモ前記大統領布告ハ依然效力ヲ存續シ銀行ハ許可アル場合ノ外金貨、金地金又ハ金證券ノ輸出ヲ爲スベカラズ、通貨ノ退藏又ハ不必要ナル引出ニ應ズ可カラズ亦金貨及金證券ノ拂出ヲ爲スベカラザル旨ヲ指摘シタ。銀行ハ漸次開業許可ノ申請ヲ爲シ三月末ニハ金融恐慌モ一先ヅ鎭靜スルニ至ッタノデアルガ四月五日大統領ハ行政命令ヲ以テ緊急事態ハ依然存續ストナシ米國內ニ在ル金貨、金塊及金證券ノ退藏ハ許可

アル場合ノ外之ヲ禁止シタ

右ノ如キ大統領ノ措置ハ緊急事態ニ處スル一時的ノモノト一般ニ考ヘラレ從ッテ事態收拾ト共ニ再ビ金本位制ニ復歸スルモノト期待セラレタノデアッテ 大統領ノ 就任演說ニ於テモ「アデクウェイト、エンド、サウンド、カーレンシイー」ノ政策ヲ維持スベキ旨ヲ述ベタノデアッタガ其後大統領ノ周圍並ニ議會ニ於テ「インフレーション」ヲ主張セルモノアリ 政府ハ右健全通貨ヨリ漸次「インフレーション」ノ政策ニ傾クニ至ッタ。四月二十日大統領ハ行政命令ヲ以テ (一) 外國勘定「イーヤマーク」、金貨、金地金又ハ金證券ノ輸出ヲ禁ズ 但シ大藏長官ハ裁量ニ依リ 金貨及金塊ニシテ外國政府、外國中央銀行又ハ國際決濟銀行ノ爲メニ「イーヤマーク」又ハ預託セラレ居ルモノ及大統領ガ公益上必要ト認ムル取引ニ用ヒラルルモノノ輸出ヲ許可スル「ライセンス」ヲ發スルコトヲ得 (二) 大藏長官ハ外國爲替取引、外國ヘノ信用移轉及外國ヘノ通貨輸出ヲ管理又ハ禁止スルコトヲ得 (三) 三月十日ノ大統領布告中ニ含マレタル外國爲替取引ニ關スル規定ハ完全ニ效力ヲ持續ス (四) 金貨、金塊又ハ金證券ノ所持シ若シクハ之等ヲ準備銀行ニ引渡セルモノハ「ライセンス」ヲ受クルコトヲ得ベキ旨ヲ規定シタ

右ニ關シ大統領ハ十九日新聞記者會見ニ於テ弗貨安全ノ爲メ政府ガ特ニ金ヲ輸出スル措置ヲ採ラザルコトヲ言明シ大藏長官ハ右ヲ以テ米國ガ眞ノ意味ニ於ケル金本位離脫ヲ決定セルモノナリト說明シタ右ノ如ク米國ハ三月六日以來金本位制ヲ停止スルニ至ッタノデアルガ其後聯邦準備法ノ改正（註一）、農業調整法、金約款ノ廢止（註二）、金準備法等ノ實施ニ依リ米國ノ貨幣制度ハ重大ナル修正ヲ加ヘラルルニ至ッタノデアル

二、一九三四年一月金準備法

一九三四年一月三十日制定ノ金準備法(Gold Reserve Act) ニ依レバ

(一) 金兌換停止

一切ノ合衆國通貨ハ法律ニ依リ定メラレタル場合ノ外ハ金ヲ以テ兌換セラルルコト無シ但シ聯邦準備銀行所有ノ金券ハ大藏長官ノ裁量ニ依リ國際貸借ノ決濟又ハ總テノ種類ノ合衆國通貨ノ均等ナル購買力ヲ維持スルニ必要ナリト認ムル時期及額ニ於テ兌換セラルルコトヲ得

(二) 金自由鑄造ノ廢止

金ノ自由鑄造ヲ廢止シ合衆國內ニ於ケル現存金貨ハ總テ之ヲ回收シ金貨ノ流通ヲ禁止ス

(三) 金弗平價切下

元來金弗ノ純分切下ニ關シテハ大統領ハ一九三三年五月十二日農業調整法ニ依リ平價ノ五〇

「バーセント」ノ範圍內ニ於テ其ノ權限ヲ與ヘラレタノデアルガ、本準備法ハ更ニ之ヲ修正シ大統領ハ一九〇〇年三月ノ法律ニ規定セル品位十分ノ九、重量二五・八「グレイン」ヨリ成ル金單位ヲ切下ゲ右重量ノ六〇乃至五〇「バーセント」ノ範圍內ニ於テ新單位ヲ決定スルノ權限ヲ與ヘラレタ、大統領ハ一九三四年一月三十一日布告ヲ以テ最近外國貨幣ノ價値下落ガ米國ノ外國貿易ニ惡影響ヲ及ボシ且經濟的非常時ノ爲メ信用ノ擴張ヲ計ルノ必要ナルコト明カトナレルヲ以テ右權限ニ基キ金弗ヲ新ニ品位十分ノ九、重量一五、二十一分ノ五「グレイン」ニ確定シ卽時效力ヲ發生セシムベキ旨ヲ公布シタ。卽チ新金弗ノ舊金弗ニ對スル純金分ノ割合ハ舊金弗ノ五九・〇六二三八四%强ニ相當シタ、右切下ニ依ル政府ノ利益金ハ約二十七億九千三百萬弗ト見積ラレ其ノ中二十億弗ハ之ヲ爲替安定資金トシテ利用スルコトヲ得ルコトトシタ

(四) 金買上、賣却及國有

大統領ハ一九三三年十月二十二日ノ「ラヂオ」放送ニ於テ「吾人ガ物價水準（一九二六年度ヲ指スルモノト推セラル）ヲ恢復シタル場合ニハ吾人ハ弗ヲ確定維持シ以テ將來其ノ購買力及負債支拂能力ヲ變動セシメザル樣努力スルデアラウ、、、、、、弗ハ今ヤ國際貿易ノ偶發事件、他國ノ國內政策及他ノ大陸ノ政治的不安ニ依リ影響セラルルコト餘リニ大キイ、故ニ米國ハ自ラ弗ノ金價値ノ管理ヲ確實ニ掌握セネバナラヌ、右ハ弗價ノ不安ガ吾人ノ終局ノ目的タル物價恢復ノ繼續ヲ挫折セシムルコトヲ阻止センガ爲必要デアル、此ノ目的ニ副フベキ更ニ有效ナル手段トシテ余ハ米國ニ於テ政府ノ金市場ヲ設定セントスル、、、、、、余ハ金融復興局ニ對シ大統領及大藏長官ト協議ノ上決定スル價格ヲ以テ合衆國內新產金ヲ買上グベキ權限ヲ附與セントスルノデアルガ右目的ノ爲メ更ニ必要ナレバ何時ニテモ世界市場ニ於テモ亦吾人ハ金ヲ賣買スルデアラウ」云々ト述ベタ斯クテ金融復興局ハ十月二十五日ヨリ復興債券ヲ交付シテ國內產金ヲ買上ゲ又同月二十九日ヨリ復興局ノ爲メニ紐育聯邦準備銀行ガ海外市場ニ於テ之ヲ買上グルニ至ツタガ本法ハ右大統領ノ方針ヲ左ノ如ク確定スルニ至ツタ（註三）

(イ) 大藏長官ハ大統領ノ裁可ヲ經テ交易上最モ有利ナル條件ノ下ニ國ノ內外ニ於テ金ヲ購買シ並ニ通貨ヲ金弗ト「パリテイ」ヲ維持セシムルニ必要ナル程度ニ限リ國ノ內外ニ於テ金ヲ賣却スルコトヲ得

(ロ) 大藏長官ハ工業及工藝用金、國際決濟ノ爲メ聯邦準備銀行ノ必要トスル金、其他法律ノ趣旨ニ違反セザル目的ニ使用セラルル金ノ取得、保持移轉ニ關シ大統領ノ裁可ヲ維テ施行規則ヲ制定スルコトヲ得

(ハ) 本法並ニ施行細則ニ違反シ獲得、保持、移轉セラレタル金ハ政府ニ依リ沒收セラル

(ニ) 弗ノ金純分ノ增減ヨリ生ジタル利益又ハ損失ハ政府ニ歸ス

(ホ) 聯邦準備銀行所有ノ金貨、金塊ハ金券ト引換ニ一切國庫ニ回收セラレ、聯邦準備銀行ハ其ノ預金並ニ銀行券發行準備トシテ金券ヲ使用ス

(五) 公債發行增額

「セカンド、リバティー、ボンド、アクト」ヲ修正シ右法律ニ基ク公債發行額ヲ七十五億弗ヨリ百億弗ニ增加ス

(六) 銀ニ關スル條項

農業調整法第三部ヲ修正シ大統領ニ對シ

(イ) 確定比率ヲ以テ銀ヲ無制限ニ鑄造スルノ權能ニ加ヘ、通貨鑄造ノ爲メ銀ヲ提出シタルモノニハ「スタンダード、シルヴア、ダラー」ノ代リニ銀證券ヲ交付シ外國產ノ銀ニ對シテハ國內產ノ銀ニ對スルト異ナル鑄造料及手數料ヲ定メ

(ロ) 銀證券兌換ノ爲メ「スタンダード、シルヴア、ダラー」或ハ補助貨ヲ鑄造シ

(ハ)(ニ) 「ゴールド、ダラー」ノ「ウエイト」變更セラレタル場合右ニ應ジ「シルヴア、ダラー」ノ「ウエイト」ヲ變更シ且補助貨幣ノ「パリテイ」ヲ設定スル等ノ權限ヲ與フ

(註一) 一九三三年三月九日ノ緊急銀行救濟法ハ左ノ通リ聯邦準備法ヲ改正シタ (一) 準備銀行ハ (イ) 合衆國公債又ハ (ロ) 其他ノ手形、小切手爲替小切手、銀行小切手等ヲ政府ニ預託シテ銀行券ヲ發行シ得ベク發行額ハ (イ) ノ場合ニハ預託公債額面ト同額 (ロ) ノ場合ニハ預託債券見積額ノ九〇「パーセント」以下タルベク而シテ右銀行券ハ發券準備銀行ノ債務トス (二) 例外緊急ノ事態ニ於テ加盟銀行ガ適當ナル資金ヲ得ベキ適格資產ヲ所有セザル場合ニハ準備銀行ハ準備局ノ定ムル規則ニ從ヒ此等加盟銀行ニ對シ其ノ確實ト認メタル擔保ヲ以テ其ノ期限付又ハ要求拂「ノート」ニ對シ資金ヲ前貸スルコトヲ得 (四) 金國有ニ關スル聯邦準備法ノ修正規定ハ本文記載ノ通リトス

(註二) 一九三三年六月議會ハ債務支拂ニ關スル共同決議案ヲ通過シ五日大統領ノ裁可ヲ經タルガ右ニ依レバ

(一) 債務支拂ニ關シ將來金貨或ハ特定ノ貨幣ニ依リ支拂ヲ爲ス可キ契約ノ締結ヲ禁ズ

(二) 現存債務中其ノ支拂ニ關シ金約款 (gold clause) ヲ有スルモノハ公債ト私債トヲ問ハズ支拂期日ニ於ケル法定貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フコトヲ得

(三) 農業調整法第三部（「トマス」修正條項）ヲ修正シ、過去ニ於テ鑄造或ハ發行セラレ或ハ將來鑄造發行セラル可キ總テノ鑄貨及通貨（聯邦準備券、聯邦準備銀行券、國立銀行券ヲ含ム）ハ一切ノ債務及稅金ノ支拂ニ關シ法定貨幣トス金貨ニシテ通用最低量目以下ニ低下セルモノハ現實ノ價値ニ從ヒ法定貨幣トス

(二) 金約款ノ廢止ハ米國ノ各種公私債券ハ金約款卽チ債券面ニ金貨又ハ金券ヲ以テ額面記載ノ金額ノ支拂ヲ爲スベキ旨ノ契約アルニ拘ラズ平價切下後ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ受ケルコトヲ意味スルモノデアルガ債權者側ヨリ右議會ノ立法ハ違憲ナリトシテ米國大審院ノ判決ヲ求メタ、若シ右立法ガ違憲ナリトセバ各種債券額面總計約一千億弗ハ一千六百九十億弗ノ通貨ヲ以テ支拂ハザル可カラザルコトトナリ蓋シ米國ノミナラズ世界經濟界ニ影響スル處甚大ナルモノアッタ然ルニ大審院ハ一九三五年二月十八日右ニ對スル判決ニ於テ

(イ) 私債權ニ付テハ議會ノ措置ヲ合法ト認定シ

(ロ) 政府發行ノ公債及大藏省證券ニ付テハ其ノ中自由公債ニ關シテハ議會ノ措置ハ之ヲ不法ト爲シタルモ右債權者側ノ損害賠償要求ハ「コート、オブ、クレイムズ」(Court of Claims) ノ管轄スル所ニシテ其ノ以外ニ於テハ聯邦政府ノ同意ナクシテ訴追スルコトヲ得ズ而モ債權者ガ現實ニ損害ヲ受ケ居レリト認メ難キカ故ニ「コート、オブ、クレームズ」ハ右訴訟ヲ受理スルノ權限ナシト斷ジテ事實上右債權全部ハ現在ノ通貨ヲ以テ支拂ヘバ足リ舊弗ヲ以テ支拂フノ必要ナキニ至ッタ。

（註二） 政府ノ金買入價格ハ純金一「トロイ、オンス」ニ付三十五弗トシ其レヨリ四分ノ一「バーセント」ヲ控除シ（三十四弗九十一仙四分ノ一）更ニ造幣手數料ヲ控除セル價格（但シ大藏長官ハ右買上價格ヲ變更シ得）トナシ亦賣却價格ハ三十五弗八仙四分ノ三トシタ

第三款 最近ニ於ケル銀立法

一、一九一八年「ピットマン」條例

一九一七年米國ノ世界大戰參加ト共ニ銀價ハ急激ニ上向シタガ一九一八年四月「ピットマン」ニヨリ上院ニ提出セラレタ所謂「ピットマン」條例ハ同月二十三日ニ法律トナッタ右ニ依レバ合衆國ノ金準備ヲ保存シ、合衆國ニ不利ナル貿易差額ヲ銀ニテ決濟シ、補助貨ノ鑄造及ビ商業上ノ使用ノ爲メ銀ヲ供給シ、合衆國ノ敵國トノ交戰スル外國政府ヲ援助シ、而シテ右目的ヲ以テ銀價

ヲ安定シ其ノ生產ヲ刺戟センガ爲メ合衆國政府ハ銀證券ノ準備トシテ保有シタ約四億六千萬弗ノ銀貨中三億五千萬弗ヲ鑄潰シテ之ヲ賣却スル權限ヲ與ヘラレ、ソノ賣却價格ハ一「オンス」一弗以上トナシタ。右權限ニ基キ政府ハ二億「オンス」ノ銀ヲ英國ニ賣却シタノデアツタガ之ハ戰後政府ニヨリ再ビ買上ゲ補充セラレタ

二、一九三三年五月農業調整法中「トマス」修正條項

一九三三年五月十二日農業救濟ヲ目的トスル所謂農業調整法（Agricultural Adjustment Act）ハ大統領ノ裁可ヲ得テ法律トナツタガ右ニ關聯シ議會ニ於テ銀論者ハ再ビ勢力ヲ得テ遂ニ「トマス」修正條項ナルモノヲ右法律中ニ挿入制定セシムルニ至ツタ

銀論者ハ農業救濟ニハ是非トモ通貨ノ膨脹ヲ必要トストノ諸論漸ク議會ニ於テ勢力ヲ得ルニ致ルヤ巧ニ活躍シテ「ホイーラー」(Wheeler) ハ金銀比價一對一六ヲ以テ銀貨ノ自由鑄造ヲ許シ複本位制ヲ採用スベシトノ案ヲ前記農業法ニ對スル修正案トシテ上院ニ提出スルニ至ツタ。而シテ右修正案討議ニ於テ「ホイーラー」ハ通貨膨脹ハ世界ノ貨幣ヲ二倍ニシ物價ヲ二倍ニシ世界人口ノ約五割ニ達スル銀使用國民ノ購買力ヲ四倍トシ二年ヲ出デズシテ農耕地ノ價格ヲ四倍ニ騰貴セシムベシト論ジ更ニ英國ハ磅ノミナラズ弗ノ相場迄モ左右シ居ル現狀ナルガ英國ハ米國ヲシテ金本位ニ

止ラシメ爲替下落ニ因ル貿易上ノ利益ヲ獲得セントスル魂膽ナリト攻擊シタ然シ右「ホイラー」案ハ上院ニ於テ十七日四十三對三十三票ヲ以テ否決セラルルニ至ツタガ其ノ反對投票者中ニハ大統領ガ近ク開催セラルル可キ世界經濟會議ニ於テ銀問題ニ關シ何等カノ措置ヲ講スヘキヲ期待シ暫ラク大統領ノ爲ス處ヲ見タル上ニテ態度ヲ決セントノ見解ヲ持シタモノ尠クナカツタ。玆ニ於テ大統領ハ「トマス」ト談合ノ上行政部ノ意ヲ含メ議會ニ於ケル無謀ナル通貨膨脹論者ヲ抑フル爲メ「トマス」ヲシテ四月二十日農業調整法案修正ノ形式ヲ以テ上院ニ所謂「トマス」修正案ヲ呈出セシムルニ至ツタト云フ。右修正案ニ依レバ (一) 聯邦準備銀行ヲシテ政府ノ債務證券及政府ガ主タル株主タル會社ノ證券ニ關シ、「オープン、マーケット、オペレイション」ヲ行ハシメ且ツ大藏省其他政府證券ヲ總額三十億弗迄買上ケ一定期間之ヲ保管セシムルコト (二) 右不成功ノ場合ニハ一八六二年二月法律ニ基キ合衆國紙幣ヲ總額三十億弗迄發行スルコト但右發行ハ政府ノ債務支拂又ハ政府公債買上ノ爲ニノミ之ヲ爲スコトノ範圍內ニ於テ切下ケ得ルコト (四) 外國債務支拂ニ對シ總額一億弗（銀ノ價格ハ時價ニ依リ一「オンス」五十仙以下トス）迄法律制定後一ケ年間ヲ限リ銀ヲ以テ受領シ得ルコト等ノ權限ヲ大統領ニ附與セントスルニアツタ

然ルニ右「トマス」修正案ニ對シテハ共和黨ハ反對ノ意嚮ヲ聲明シ財界ニ於テモ贊否分レ政府部内ニ於テモ「ハル」「グラス」等ハ餘リ贊成シナカツタト云ハレテキルガ右法案審議ニ際シ上院銀行貨幣委員會ニ於テハ議論大ニ沸騰シ特ニ弗ノ金純分切下ニ反對スル論極メテ有力ナリシモ委員會ハ不當ナル通貨膨脹論ヲ阻止スル意味ヲ以テ(一)聯邦準備局ハ大藏長官ノ許可ヲ以テ準備銀行ニ依ル不當貸付膨脹ヲ阻止スルコト(二)準備局ハ大統領ノ裁可ヲ得テ緊急狀態繼續期間中預金ニ對スル準備「バランス」ノ增減ヲ規定スルコトヲ得トノ條項ヲ追加セルニ止メ右「トマス」原案ヲ通過方上院ニ報告シタ然ルニ銀論者ハ之ヲ以テ尙手緩シトシ(一)金銀比價ヲ定メテ銀ノ自由鑄造ヲ許可シ(二)外債支拂受領額ヲ銀二億弗ニ增額スルノ權限ヲ大統領ニ附與セントスル修正案ヲ提議シ結局右修正ヲ追加セル前記「トマス」修正案ハ四月二十八日六十四對二十一票ニテ上院ヲ通過シ五月三日三百七對八十六票ヲ以テ下院ヲ通過シタ次テ五月十二日大統領ハ右「トマス」修正案ヲ含ム農業調整法案ヲ裁可スルニ至ツタノデアルガ同法第三部所謂「トマス」修正條項ノ規定ニ依レバ

(甲) 大統領ハ調査ノ結果(イ)外國貨幣ノ下落ニ依リ米國ノ外國貿易カ惡影響ヲ受クルコト(ロ)國内ニ於ケル通貨ノ「バリテイ」ヲ調整維持スルニ必要ナルコト(ハ)經濟的緊急狀態發生シ信用ノ擴張ヲ必要トスルコト前記何レカヲ認メタル場合ニハ

(一) 聯邦準備銀行ヲシテ「オープン、マーケット、オペレーション」ニ依リ總額三十億弗ノ信用擴張ヲ行ハシムルコトヲ得

(二) 若シ右信用擴張ニ依ルモ目的ヲ達セス或ハ他ノ理由ニ依リ他ノ方法ヲ必要トスル場合ニハ

(イ) 合衆國紙幣(「ユーナイテッド、ステーツ、ノート」)ヲ總額三十億弗迄發行セシムルコトヲ得但右發行ハ政府ノ支拂或ハ政府公債買入ノ場合ノミニ限ル

(ロ) 大統領布告ニヨリ新ニ「ゴールド、ダラー」ノ重量ヲ決定シ且ツ「ゴールド、ダラー」ト「シルヴア、ダラー」ノ比價ヲ確定シ、金銀兩貨幣ノ自由鑄造ヲ許可スルコトヲ得、但シ金弗ノ重量ハ現在ノ五十「バーセント」以下ニ切下クルコトヲ得ス

(乙) 外國ノ對米債務支拂

本法成立後六ケ月以内ニ於テ外國ノ對米債務ノ支拂ノ際銀ニ依ル支拂ヲ受納スルコトヲ得但銀一「オンス」五十仙以下ノ價格ニテ總額二億弗迄トス右ニ依リ得タル銀ヲ基礎トシテ銀證券ヲ

發行シ或ハ「シルヴア、ダラー」ヲ鑄造シ政府ノ債務支拂ノ場合ニ使用スルモノトス

三、一九三四年銀購買法

(一) 一九三三年十二月大統領布告ニ依ル國內產銀買上

大統領ハ前記農業調整法ニ基キ (イ) 金銀法定比價ヲ確定シテ銀貨ノ自由鑄造ヲ爲スコト及 (ロ) 外債支拂二億弗ヲ銀ヲ以テ受領スルヲ得ルコトノ銀ニ關スル權限ヲ附與セラレタノデアツテ右 (ロ) ノ權限ニ依リ大統領ハ銀ニ依ル戰債支拂ヲ許可シタル結果英國ヨリ一九三三年六月十五日期限ノ戰債支拂額中一千萬弗約二千二百萬「オンス」ノ銀地金ヲ國庫ニ取得スルコトトナツタカ右條項ハ所定ノ期間經過ト共ニ效力ヲ失フニ至ツタ但シ大統領ハ右 (イ) ノ權限ハ之ヲ行使セズ同年六月倫敦經濟會議ニ於ケル銀國際協定ノ締結ニ努力シタノデアルガ同會議ニ於テ調印セラレタル八ケ國銀協定ヲ同年十二月二十一日批准シ同日左ノ如キ布告ヲ發シタ卽大統領ハ前記 (イ) ノ權限ニ基キ且倫敦經濟會議ニ於テ調印セラレタル國際銀協定ヲ實施スル爲メ大藏省ノ定ムル規則ニ從ヒ造幣局ヲシテ同日以後合衆國ニ於テ天然ノ鑛山ヨリ採掘セラレタル一切ノ銀ヲ買上ケシムルコトトシ其ノ買上價格ハ一「オンス」一弗二十九仙（一・二九）トシタ但シ造幣局長ハ所有者ノ自發的承諾ヲ得テ鑄造料其他ノ手數料トシテ右買上銀ヨリ五〇「バーセント」ヲ差引キ之ヲ國庫ニ保留スヘク從ツテ實際ニ產銀者ニ支拂フヘキ銀ノ價格ハ一「オンス」ニ付六十四仙二分ノ一ノ通貨（金ニ換算セハ約四十仙トス）トシタ（註一）造幣局長ハ買上ケタル銀ヲ保留セル五〇「バーセント」ヲ除キ總テ之ヲ標準銀弗ニ鑄造シ其ノ鑄造セル銀弗若クハ同額ノ他ノ通貨ヲ右一「オンス」六十四仙二分ノ一ノ割ニテ買上銀ニ對シ交付スルコトトシ國庫ニ保留セル他ノ五〇「バーセント」ノ銀ハ合衆國貨幣ニ鑄造セラルル場合ヲ除キ一九三七年十二月三十一日以前（右布告有效期間）他ニ處分セラルルコトナシト定メタ右ノ結果合衆國政府ハ一九三七年末迄四年間年々最低約二千四百四十萬「オンス」（倫敦協定ニ基ク米國政府買入額卽チ一九三二年合衆國產銀ニ略ボ相當セル額）ノ銀ヲ買上グルコトトナツタノデアルガ「ハンデー、ハーマン」商會ノ調査ニ依レバ政府買上國內產銀ハ一九三四、五年度ニ於テ夫々二千百四十萬「オンス」及三千七百九十萬「オンス」デアツタ

(二) 一九三四年六月銀購買法ニ基ク國內及國外銀買上

大統領ハ一九三三年農業調整法及一九三四年金準備法ニ基キ新ニ金弗ノ重量ヲ決定シ金銀比價ヲ確定シテ金銀貨ノ自由鑄造ヲ許可シ同時ニ銀弗ノ重量ヲ金弗ト同一割合ヲ以テ新ニ決定スルコトノ權限ヲ附與セラレタノデアツタガ一九三四年一月金弗ノ切下ヲ斷行スルニ至ツタ然シ銀

ニ關シテハ前記國際協定ヲ批准シテ國內產銀買上ヲ實行セルニ止リ未ダ廣汎ナル範圍ニ於ケル銀貨幣ノ使用ヲ採用スルニ至ラナカツタ玆ニ於テ一九三四年春ノ議會ニ於テ銀論者ハ更ニ廣範圍ノ銀立法ヲ劃策スルニ至リ(イ)農產物ト銀トノ交換ヲ骨子トスル案(ロ)金銀比價ガ一對十六ニ達スル迄十五億「オンス」ヲ限度トシテ銀買上ヲナスヘキ案(ハ)銀國有ヲ實施シ銀價ガ一「オンス」ニ付一弗二十九仙ニ至ルカ若クハ物價ガ一九二六年ノ水準ニ回復スル迄每月五十萬「オンス」ノ銀買上ヲ爲スヘキ案等種々ノ銀使用擴張案ヲ議會ニ提出シタ依テ「ルーズヴェルト」大統領ハ銀論者ヲ中心トスル急激ナル通貨膨脹論ヲ牽制スル爲メ遂ニ協議ノ結果妥協案ヲ得テ同年五月二十二日左ノ趣旨ヲ含ム銀立法ヲ勸告スル敎書ヲ議會ニ送附スルニ至ツタ（註二）

(イ) 合衆國貨幣準備ノ貨幣價値ノ四分ノ一ヲ銀ニ四分ノ三ヲ金ニテ保有維持スルヲ以テ究極ノ目的トシテ其ノ保有銀ヲ增加スルコト

(ロ) 大統領ハ右目的ヲ達スルニ必要ナル銀ノ買入ヲ爲スヘキ權限ヲ與ヘラルヘキコト

(ハ) 大統領ハ必要アラバ銀ノ國有ヲ決定シ其ノ輸出入其他ノ取引ヲ制限スヘキ權限ヲ與ヘラルヘキコト

右ノ結果六月十三日銀購買法ハ議會ヲ通過シ同十九日大統領ノ裁可ヲ得タ(註三)、同法ニ依レバ

(イ) 金銀貨幣準備ノ四分ノ一ヲ貨幣價値トシテノ銀ヲ以テ保有スルコト

(ロ) 大藏長官ハ米國ノ直接債務、通貨又ハ國庫資金ヲ以テ國ノ內外ニ於テ銀ヲ買入ルルコト但シ貨幣價値ヨリ高キ價格又ハ貨幣價値ニ於テ保有銀ガ金銀準備ノ四分ノ一以上トナレル場合ニハ右買入ヲ爲スベカラズ又一九三四年五月一日合衆國內ニ現存セル銀ハ一「オンス」ニ付五十仙以上ニテ買入ルル可カラザルコト

(ハ) 銀ノ市價ガ貨幣價値ヲ超過スルカ又ハ銀準備ノ貨幣價値ガ金銀準備ノ夫レノ四分ノ一以上ニ達セル場合大藏長官ハ大統領ノ裁可ヲ經テ銀ヲ國ノ內外ニ於テ賣却スルコトヲ得

(ニ) 大藏長官ハ購買セル銀ニ對シ夫レト同價額ノ銀證券ヲ發行スベシ、從來發行セラレ又今後發行セラレ且流通セル一切ノ銀證券ニ對シテ貨幣價値ニ於テ右額面ト同價値ノ銀地金及標準銀弗ヲ擔保トシテ國庫ニ保有スベシ、一切ノ銀證券ハ法貨タルヘク要求ニ依リ標準銀弗ト兌換セラレ、大藏長官ハ右兌換ニ應ズル爲メ銀弗ノ鑄造ヲ爲スコトヲ得

(ホ) 大藏長官ハ必要ト認メタル場合大統領ノ裁可ヲ經テ銀ノ獲得、輸出入、運搬ヲ調査、制限乃至禁止スルコトヲ得

(ヘ) 大統領ハ貨幣價値ヲ統制スル爲メ必要ト認メタル場合ニハ銀國有ノ命令ヲ發スルコトヲ

得、右ニ依リ引渡サレタル銀ハ大統領ノ決定ニ從ヒ銀弗ニ鑄造セラルルカ又ハ貨幣準備ニ充當セラルヘク、右引渡サレタ銀ニ對シテハ其ノ貨幣價値ヨリ大統領ノ承認ヲ經テ大藏長官ノ決定スヘキ鑄造料其他ノ手數料ヲ差引キタル上之ニ相當スル銀弗又ハ其ノ他ノ通貨ヲ交付スベシ

(ト) 凡テ銀ノ取引ニ於テ銀ノ取引價格ガ原價及一般ニ承認セラルル諸經費ヲ超過スル場合ニハ其ノ超過額ノ五〇「パーセント」ヲ稅トシテ徵收ス

(チ) 本法ニ於テ貨幣價値トハ現ニ標準銀弗及金弗中ニ含マレタル量ニ相當スル銀又ハ金ノ額ヲ一弗トシ之ヲ基礎トシテ計算セラレタル價値ヲ意味ス（註四）

(四) 一九三四年大統領布告ニ依ル銀國有

大統領ハ右銀購買法ヲ實施スル爲メ同年八月九日大統領布告及行政命令ヲ發布シタ（註五）

(イ) 命令實施期日タル同日九日國內現存銀ハ總テ同日後九十日以內ニ造幣局ニ引渡スヘシ但銀貨、銀製品、外國政府、外國中央銀行又ハ國際決濟銀行所有ノ銀其他「ライセンス」ニ依リ所有ヲ認可セラレタル銀ハ此ノ限ニ非ズ

(ロ) 政府ハ徵收セル銀ヲ標準銀弗ニ鑄造シ又ハ貨幣準備トシテ保有スヘク右銀ニ對シ一「フアイン・オンス」ニ付貨幣價値一弗二十九仙ヨリ銀貨其他ノ手數料トシテ六十一「パーセント」二十五分ノ八ヲ控除セル價格卽五〇仙ノ割合ニテ標準銀弗又ハ銀券若クハ其他ノ通貨ヲ交付ス

(ハ) 一九三三年十二月大統領布告ニ規定セル天然鑛ヨリ採掘セル國內產銀ハ依然右ノ通用ヲ受ク（卽從前通リ一「オンス」ニ付六十四仙ニテ買上グ）

(ニ) 大藏長官ハ本布告ニ基キ施行細則ヲ八月十七日公告シ合衆國內ニ於ケル銀ノ所有、取得、管理、處分ニ關スル報告ヲ要求シ、又「ライセンス」ニ依ラザル銀ノ（銀貨ヲ除ク）輸出ヲ禁止シタ

四、「ルーズヴエルト」大統領ノ銀政策

以上敍ヘタ處ヲ概觀スレバ米國ハ法律上ハ金銀比價ヲ確定シ銀貨ノ自由鑄造ヲ許シ以テ複本位制ヲ實施スルノ權限ヲ大統領ニ附與シタリト雖モ右ハ大統領ノ任意ニ委シタニ止リ之ヲ實施スルト否トハ一ニ大統領ノ法律內ノ權限ニ在リ米國ニ於テハ通貨管理ノ下ニ金貨ノ兌換及流通ハ禁止セラレテ居リ事實流通セル貨幣ハ銀貨及銀券、紙幣及銀行券デアルガ確定比價ヲ以テ無制限ナル銀貨ノ鑄造ヲ爲スガ如キコトハ合衆國單獨ニテ俄ニ之ヲ斷行スルトハ認メラレナイ右ハ大統領ガ一

九三四年五月ノ議會敎書ニ於テ金銀兩者ヲ恒久的價値ノ尺度トシテ採用センガ爲メニハ少クトモ多數諸國ノ共同動作ヲ必要トスヘク假令米國ガ結局其ノ利益ノ爲メニ必要トスルガ如キ獨自ノ行動ヲ執ラザル可カラザル結果トナルベキモ右目的ヲ達スル爲メ世界的協定ニ對スル總ユル手段ヲ探究セザル可カラズトノ言明ニ徹スルモ相像ニ難クナイ

米國現政府ノ銀政策ハ要スルニ極端ナル通貨膨脹論ヲ抑ヘ「ルーズヴエルト」大統領ノ主眼トスル一九二六年ノ物價水準回復ヲ目標トスル通貨管理政策ニ關聯シ「アデクエイト、エンド、サウンド、カーレンシー」ヲ基調トシ之ニ通貨膨脹論者ノ要求ヲ加味セル政策ヲ實行セントスルモノデアッテ其ノ方針ハ一九三四年銀購買法ノ規定スル處デアリ、卽チ合衆國銀準備ガ金銀準備ノ四分ノ一、卽チ金銀準備ノ割合ガ三對一トナル迄其ノ銀準備ヲ增加スルコトヲ究極ノ目的トシテ政府ハ國ノ內外ニ於テ銀ヲ購入スルト共ニ右購入銀ノ代價（「コスト」）ニ相當スル額ノ銀證券ヲ發行スルニ在リ、而シテ一九三四年六月現存ノ大藏省保有銀ハ約八億九千二百萬弗。保有金ハ約七十七億五千五百萬弗ナリシガ故ニ右目的ヲ達センニハ尙約十六億九千三百萬弗卽貨幣價値ニ於テ約十三億一千二百萬「オンス」（一、三一二百萬）ノ銀ヲ取得セネバナラナカッタ、然ルニ「ハンディ、ハーマン」商會ノ調査ニ依レバ一九三四年及一九三五年度ニ於テ米國政府ノ取得セル銀ハ

前年度ニ於テ三億七百十萬「オンス」後年度ニ於テ五億四千三百八十萬「オンス」、合計八億五千九十萬（八五〇、九〇〇、〇〇〇）「オンス」デアッタガ（註六）一九三五年十二月末現在米國政府ノ貨幣準備額概算（單位百萬）ハ保有銀十五億三千五百萬「オンス」（一、五三五）、保有金百一億二千三百萬弗（一〇、一二三）デアッテ、卽チ右巨額ノ銀購入ニ拘ラズ金ノ流入夥シカッタガ爲メ法律ニ基ケバ尙十億七千五百萬「オンス」（一、〇七五）ノ銀ヲ取得スルヲ要スト云フ

右亞米利加ノ銀買上政策ノ影響ヲ受ケテ銀價ハ漸次昂騰シタ、一九三三年十二月ニハ十九片デアッタモノガ一九三五年六月ニハ三十一片高値ニ上シタ、然ルニ右米國ノ銀政策ハ銀貨國殊ニ支那ニ大影響ヲ與ヘ支那ハ遂ニ一九三五年十一月銀本位ヲ離脫シ他方米國政府モ遂ニ同月十日倫敦市場ヨリ手ヲ引キ其ノ海外銀買上ヲ中止シタ結果銀價ハ再ビ十九片臺ニ下落スルニ至ッタ

右米國政府銀買上中止ノ事情ニ關シテハ大藏省側ハ各方面ノ質問ニ對シ單ニ依然トシテ銀購買法ハ實行シ居レリト云フノミニテ何等ノ意見ヲ發表シナイガ一般ニハ米國ニハ依然金流入盛ンナレバ弗爲替調節ノ爲メニモ大藏省ハ銀政策ヲ再檢討スヘシト云ヒ或ハ世界最大ノ銀需要國タル支那ガ銀本位ヲ離脫シタ結果此ノ際一時形勢ヲ觀望スルモノナリト臆測シ果シテ現政府ガ今後モ尙法

律ニ基キ金三、銀一ノ準備比率ニ達スル迄或ハ銀價ガ一弗二十九仙ニ達スル迄銀購買ヲ繼續スルヤ否ヤニ付テ疑問ヲ抱クモノ少クナイ、而シテ米國新聞ハ大體ニ於テ銀購買法ガ惡法ナルコト銀購買法通過當時米國ハ約十三億「オンス」ノ銀ヲ買上グレバ足リタルニ其後金ノ流入著シキ結果既ニ巨額ノ銀ヲ購入シタルニ拘ラズ依然當初ト大差ナキ銀買上ヲ必要トスルノミナラズ同法實施ノ結果米國ハ何等利得スル處ナク却ッテ外國投機者ニ利益ヲ與ヘ、且ッ支那ヲシテ銀本位ヲ離脫セシメタリ云々ト論ジテ之ヲ非難スルニ一致シテキル

他方米國內產銀ハ同年四月二十四日大統領布告ニ依ル七七、五七仙ノ法定價格ニテ買上ヲ繼續セル處、議會ニ於ケル銀「ブロック」ノ一員タル上院議員「トーマス」ハ米國ノ銀購買政策ハ支那ノ國有銀ヲ買上ゲ支那ハ其ノ賣上高ヲ以テ爲替平衡資金ニ當ツヘキニ依リ其ノ結果ハ米國カ英國ノ爲メニ支那貨幣ノ磅ニ「リンク」スルヲ援助シ居ルト同樣ナルニ付此ノ際買上ノ中止ハ當然ナリト述ベ「ピットマン」ハ大統領ハ未ダ曾テ銀買上政策ノ變更ヲ考ヘタルコトナク右政策ヲ拋棄セシメントスル企ハ成功セザルベシト述ベ又上院議員「マカラン」ハ米國ハ國內ニ公開銀市場ヲ設定シテ米國ノ利益ニ從ヒ之ヲ管理スベカリシニ銀取引ニ對スル五〇「パーセント」ノ課稅ハ銀市場ヲ倫敦ニ驅逐シ、倫敦ハ東洋銀ノ中心市場トナリ、米國ハ却テ割增金ヲ支拂フニ至レリ、銀ヲ貨幣トシテ確立スルト共ニ右課稅ヲ廢止スルコトハ最重要ノ要素ナリト述ベタル旨報ゼラレタルカ（註七）將來議會ニ於テハ銀「ブロック」ノ銀價吊上運動ト相俟ッテ米國ノ銀政策ハ再ビ論議セラルルデアラウ、現政府ガ果シテ之ニ對シ如何ナル態度ニ出ツルカハ明カデナイガ議會ニ於ケル通貨膨脹論者ノ勢力ハ侮ルヘカラザルモノアリ殊ニ最近ハ大統領ノ拒否ヲ覆シテ二十數億弗ノ債券發行ヲ含ム退役軍人「ボーナス」法案ヲ通過スルニ至ル等「インフレーション」ヲ主張スル空氣濃厚デアルカラ現政府ノ存續スル限リ前記「ピットマン」ノ述ベタルカ如ク右米國ノ銀買上政策ノ拋棄ハ蓋シ成功シナイデアラウ

五、銀立法ノ理由

一九三三年農業調整法第三部「トマス」修正條項ニ依レバ米國ノ外國貿易ヲ改善シ、國內ニ於ケル通貨ノ「パリティ」ヲ調整シ經濟的緊急事態ニ對應スル信用ノ擴張ヲ必要トシ、或ハ國際協調ニ依リ各國通貨ノ安定ヲ計ル爲メ必要ト認メタル場合大統領ハ信用擴張ノ手段トシテ金弗ノ純分ヲ引下ゲ且ッ一定ノ比價ヲ以テ金銀貨ノ自由鑄造ヲ許可スルコトヲ得ベキ旨ヲ規定セルガ一九三三年十二月二十一日布告ニ於テ大統領ハ國內物價ノ騰貴及安定ニ資シ、銀使用國ニ於ケル國民ノ購買力ヲ增進セシメ、低落セル外國通貨ノ與フル不利益ニ對シ米國ノ外國貿易ヲ保護シ、且倫敦

國際銀決議ノ趣旨ヲ實行スルコトヲ必要ト認メテ米國內產銀買上政策ヲ實施セル旨ヲ聲明シ、亦一九三四年五月二十二日銀購買法制定ニ關スル敎書ニ於テ、一九三四年ノ金準備法ハ米國ノ金融及貨幣制度改善ノ一手段トシテ勸告セラレタルモノニテ「サウンド、エンド、アディクエイト」ノ貨幣制度ヲ構成スル基礎ヲ築イタ、然シ右ハ長足ノ前進ナルモ單ニ一步ニ過ギズ更ニ大ナル目的ノ一部トシテ明確トナレル事ハ一ハ事情ノ許ス限リ速カニ米國ノ貨幣制度ノ金屬的基礎ヲ擴張シ且ツ米國ノ貨幣ノ購買力及債務支拂力ヲ更ニ衡平ナル水準ノ上ニ安定セシムルコトデアリ他ノ一ハ米國ノ貨幣制度ヲ改善スル爲メ銀使用ヲ增加スベキ價値ヲ閑却スベカラザル事デアツテ右使用增加ノ或措置ハ米國單獨ノ行動ニ依リ之ヲ爲スコト適當トスベク他ノ措置ニ關シテハ國際協調ヲ求ムルコトヲ必要トスベキ旨ヲ言明シタ

以上ヲ綜合スレバ米國銀立法ノ理由トスル處ハ (一) 米國貿易ノ改善 (二) 國內物價騰貴 (三) 銀使用國購買力ノ增進 (四) 米國貨幣準備ヲ擴張シ弗ヲ衡平ナル水準ニ安定セシムル一措置トシテ銀準備ヲ增加スルコト等ニ要約シ得ルデアラウ

（註一） 共和黨ハ聲明書ニ於テ聯邦準備銀行ノ「オープン、マーケット、オペレーション」ニ依ル信用擴張ノ項ノミニハ贊意ヲ表セルモ三十億弗ノ合衆國紙幣發行ハ擔保ナキ紙幣ノ發行ニシテ又金純分切下ノ權限附與ハ憲法違反ナルノミナラズ「ゴールド、クローズ」ノ關係上國及人民間ノ契約ノ基礎ヲ破壞スルモノナリトシ更ニ「インフレーション」ノ弊害ヲ說キ共和黨トシテノ立場ヲ明カニシタ

（註二） 大統領布告當時市價ハ一九三四年四月八日布告ヲ以テ國內產銀ノ鑄造手數料ヲ五〇「パーセント」ヨリ四五「パーセント」ニ引下グベキ旨ヲ公告シ大藏長官ハ右買上價格ヲ一「オンス」ニ付 七一・一一仙トスベキ旨ヲ聲明シタ右決定ハ市價ノ騰貴ヲ理由ニ活動セル產銀諸州ノ勢力ニ影響セラレタル處少カラズトノ觀測行ハレタ。然ルニ同月二十四日政府ハ更ニ鑄造手數料ヲ四五%ヨリ四〇%ニ引下ゲ其ノ買入價格ヲ一「オンス」ニ付 七七・五七五仙ニ引上ゲタ、附錄第十八、大統領敎書參照

（註三） 附錄第十九、一九三四年銀購買法參照

（註四） 現在ノ標準銀弗 (Standard silver dollar) ハ品位 ・九〇〇重量四一二・五「グレイ

ン」ナルヲ以テ純銀三七一・二五「グレイン」ヲ包含ス從ツテ一「フアイン・オンス」ノ價値ハ $\frac{480}{371.25}$ =1.2929 卽一弗二十九仙トナル之ヲ銀ノ貨幣價値（Monetary value）ト稱ス又金弗ハ一九〇〇年ノ法律ニ依レバ品位・九〇〇、重量二五・八「グレイン」ナルヲ以テ純金二三・二二「グレイン」ヲ包含シタノデアツタガ一九三四年一月三十一日大統領ハ新ニ金弗ノ重量ヲ一五・二十一分ノ五「グレイン」ニ決定シタガ故ニ金弗ノ純金量ハ一三・七一四「グレイン」强トナル卽金一「オンス」ノ貨幣價値ハ $\frac{480}{13.714}$ =34.98 約三十四弗九十八仙トナル右ニ依レバ金銀法定比價ハ殆ボ一對二七トナル

（註五）附錄第十七、大統領布告參照

（註六）一九三五年十二月十二日米國大藏省發表ニ依レバ一九三三年十二月二十一日大統領布告以來一九三五年十二月六日迄ニ大藏省ノ取得セル銀ハ左表ノ通リ

合衆國造幣局受領銀額（單位千「フアイン、オンス」）

期間	一九三四年六月銀購買法ニ基クモノ	一九三四年八月大統領布告ニ基クモノ	合計
一九三四年一月一日ヨリ一九三五年十二月六日ニ至ル	五九一、八〇〇	一一三、〇三一	七六一、七七四

（註七）銀「ブロック」議員ハ當初「リースロス」ガ支那政府ヲ支援シテ銀國有ヲ斷行セシメタルガ故ニ銀ガ倫敦市場ニ溢レ爲メニ相場立タザルコトトナリタリトテ責ヲ英國側ニ歸セントシタル處、抑モ「リースロス」ガ支那財政建直シ援助ヲ口實トシテ支那ニ出向クニ至リシハ畢竟米國政府ノ銀政策ガ支那經濟界ヲ混亂セシメタルニ基因スルニアラズヤトノ反駁ニ遭ヒ遂ニ「リースロス」攻撃ヲ中止セルモ彼等ハ自己ノ銀政策辯護ノ爲メ他ニ責任者ヲ見出スコトニ苦心シ居タルガ偶々十二月二十一日ノ紐育「タイムス」掲載A、Pトシテ巨額ノ銀ガ支那ヨリ密輸セラレ日本ヨリ倫敦ニ向ケ積出サレタリト數字ヲ擧ゲテ示シ恰モ日本ニ銀市場攪亂ノ責任アルヤノ印象ヲ與ヘ居レリ。

第四章　支那最近ノ銀政策

第一款　銀價騰貴ニ對スル國民政府ノ對策

一、亞米利加政府ニ對スル抗議

亞米利加政府ノ銀買上政策實施以來銀價ハ騰貴シ左ナキダニ貿易不振ト物價下落トニ困憊セル支那ハ益々深刻ナル「デフレーション」ニ直面スルニ至リ且ツ未曾有ノ銀海外流出（註一）ハ金融梗塞、物價下落、貿易減退、關稅收入激減等同國財政經濟界ニ多大ノ惡影響ヲ與フルノ虞アリタルニ依リ國民政府ハ一九三四年九月米國政府ニ對シ米國ノ銀政策ガ支那ノ國內經濟ヲ阻害ストノ理由デ抗議ヲ提出スルニ至ツタ右ニ對シ米國政府ハ米國ノ銀政策ハ議會ノ命令ニ基クモノナリ尤モ右政策ノ實行ハ行政部ノ裁量ニ屬スルガ故ニ其ノ遂行ニ當リ支那ノ經濟財政ヲ擾亂スルガ如キハ出來得ル限リ之ヲ避ケ度ク今後ノ銀買上ノ時、場所及量ニ關シテハ右政策ノ一般目的ニ肯カザル範圍ニ於テ出來ル丈ケ支那政府ノ要望ニ副フ樣致スベシトノ趣旨ヲ回答シタ（註二）

二、國民政府ノ國內銀政策

國民政府ハ右對米抗議ヲ爲スト共ニ左ノ如キ國內對策ヲ採ツタ

(一)　一九三四年九月八日外國爲替管理令

外國爲替ノ賣買ハ左記場合ヲ除ク外追而通告スル迄之ヲ禁止ス

(イ)　合法且通常ノ商取引上ノ必要ニ基ク場合

(ロ)　一九三四年九月八日以前ニ締結セル契約ニ基ク場合

(ハ)　正當ナル理由ニ依ル旅行又ハ其ノ他ノ個人的要求ニ基ク場合

(二)　同年九月八日標金取引外貨決濟禁止令

本命令到着ノ日以後ハ金業交易所（金塊取引所）ニ於ケル一切ノ新規取引ノ決濟ニハ現物ヲ使用スベク外國爲替ノ使用ヲ禁止ス

然ルニ政府ハ其後右決濟ニハ外貨ノ代リニ海關金單位ヲ使用スルコトトシ且中央銀行ヲシテ其ノ基準相場ヲ決定セシムルコトトセリ右ハ現在支那政府ハ金ノ輸出ヲ禁止（一九三〇年五月十六日海關告示ヲ以テ實施）シ居ルガ故ニ中央銀行ハ自ラ支那ニ於ケル金銀比價ヲ決定スルノ權限ヲ有スルニ至リ支那政府ノ上海爲替市場ニ對スル支配力ヲ擴大シタルカ如キモ他方前記(一)ノ管理令ハ在支外國銀行ニ對シテハ治外法權ノ關係上之ガ强制ヲ期シ難ク而モ支那政府ハ外國銀行ノミナラズ外國人タル金業交易所ノ仲買人ニ對シテハ從來通リ自由ニ爲替賣買ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ緩和的命令ヲ附加公布スルニ至ツタカラ右爲替管理令ハ事實骨拔キノ形トナリ同管理令ノ勵行モ效果ヲ期待シ得ス銀ノ流出ハ依然止マナカツタ爲メ遂ニ支那政府ハ銀輸出稅ノ引上ヲ斷行シタ

(三)　同年十月十五日銀輸出稅及平衡稅

銀輸出稅ハ既述ノ如ク廢兩改元ニ伴ヒ國幣ヲ保護スル爲メ鑄造料ニ相當セル輸出稅ヲ課シ同年四月七日海關告示ヲ以テ廠條ヲ除ク他ノ銀塊（註三）ノ輸出ニ對シ從價二分四分ノ一ノ輸出稅ヲ課シテキタノミデ銀輸出ハ自由デアツタ爲メ一九三四年ニハ前記ノ如キ夥シキ銀ノ流出ヲ見ルニ至ツタ玆ニ於テ支那政府ハ同年十月十五日海關告示ヲ以テ同日ヨリ左ノ如ク銀輸出稅及平衡稅(Equalization Charge)ヲ賦課スルニ至ツタ

(イ)　銀元及廠條ニ對シ鑄造料タル從價二分四分ノ一ヲ控除セル從價一割ノ輸出稅卽チ七分七厘五毛（七「バーセント」四分ノ三）ヲ課ス

(ロ)　其他ノ銀ニ對シテハ一律從價一割ノ輸出稅ヲ課ス

(ハ)　倫敦銀爲替相場ノ理論的「パリティ」ト中央銀行公定相場トノ開キガ右輸出稅ヲ徵收スルモ尙不足アル場合ニハ其ノ不足額ニ相當スル平衡稅ヲ附加徵收ス

(ニ)　現行附加稅（約一割三分）ハ如何ナル種類ノ銀輸出ニ對シテモ附加徵收セラルベシ

尙右平衡稅率ハ上海中央銀行後ニハ外國爲替平衡委員會（外滙平市委員會）ガ毎日之ヲ決定發表スルコトトナツタ

右輸出稅ノ引上ト平衡稅ノ新設ハ實質上銀ノ輸出禁止ト異ラズ爲メニ上海銀價ト海外銀價トノ開キ一割以上トナリ銀元ハ銀ヲ離ルルト共ニ密輸出ヲ盛ナラシムルノ形勢ヲ誘致シタ、支那政府ハ曩ニ廢兩改元ヲ斷行シテ幣貨値價ヲ銀元ニ統一シ更ニ前記ノ如ク銀元ヲ海關金單位ト連繫セシムルニ至ツタガ之「ケメラー」ノ提議セル金爲替本位制實施ノ前提ト見ルモノアリ、而シテ右銀輸出平衡稅ノ設置ハ金本位制ノ採用、通貨膨脹政策ノ實施ト見做スモノアリタル處支那政府ハ十月十八日右ハ海外銀高ニ依ル銀流出ヲ防止シテ國內金融ノ安定ヲ計リ且ツ輸出不振ヲ挽回スル爲メ國內銀ト國外銀トノ連繫ヲ切斷セルモノニシテ銀本位制廢止ノ意嚮ナシト言明シタ

(四) 銀再輸出稅ノ減免

支那政府ハ一九三五年二月十九日附海關告示ヲ以テ銀塊及銀元ニシテ輸入セラレ其ノ再輸出カ絕對必要ナル場合海關ノ證明ヲ以テ財政部ニ申請スル時ハ其ノ輸出ニ對シテ從價二分二厘五毛ノ稅以外前記輸出稅及平衡稅ヲ免除セラルヘキ旨ヲ公布シタ

(五) 銀密輸出取締

支那政府ハ十月三十日以來海關告示ヲ以テ左ノ如ク公布シタ

(イ) 海外ニ向フ旅客ノ携帶銀元ハ一人ニ付五十元迄トシ（ロ）銀元ヲ箱入又ハ袋入ニテ沿岸諸港ニ輸送スル者ハ銀行ニ限リ且ツ財政部ノ護照ヲ要ス（ハ）財政部ノ護照アル場合ノ外滿洲各地向銀及銀元ノ輸出ヲ禁止ス但旅客ノ携帶銀元ハ五十元ニ制限シ（大連向銀及銀元積出ハ外國輸出ト同樣ノ取扱ヲ受ク）（ニ）支那沿岸ノミヲ航行スル旅客ハ一千元ヲ限リ携帶ヲ許シ（ホ）密輸出銀ハ沒收セラレ密輸出者ハ同額ノ罰金ヲ課セラレ且嚴罰ニ處セラル尙密輸摘發者ニ對シテハ報酬ヲ與フル旨ヲ規定シタ

(六) 一九三五年二月雜銀買上法令

裝飾銀、銀地金等ノ雜種銀ノ中重量千五百（一、五〇〇）瓦以下ノモノヲ政府ハ純銀二三・四九四四八瓦（銀元ノ純分ニ相當ス）ニ付キ銀一元ノ割合ヲ以テ中央銀行ヲシテ買上ゲシム

(七) 同年二月金融委員會ノ設置

財政部長ヲ委員長トシ一流銀行家ヲ網羅セル合計十八名ヨリ成リ其ノ目的トシテ（イ）現下ノ金融改善（ロ）爲替市場ノ安定（ハ）支那ノ國際貨借ノ改善、（ニ）國內商工業ノ改良（ホ）其他財政部ノ諮問ニ應ジ對策ヲ考案スルヲ主眼トシタ、右委員會ノ第一會合ニ於テ孔財政部長ハ支那ニ於テハ Cheap money ノ政策ハ極力之ヲ避ケ今後ノ對策トシテ金融機構ノ改善、兌換券制度ノ統制、產

業振興及國際貸借ノ改善ヲ促進スルコト必要ナル旨言明スル處アッタ（註四）

(八)　在支外國銀行ノ「モラル、サポート」

一九三五年四月米國政府ガ國内産銀買入價格ヲ引上ゲタル爲メ、倫敦銀相場ト支那爲替相場トノ差額增加シ更ニ平衡稅ヲ引上ゲザル限リ支那ヨリ銀流出ノ氣配見エタルヲ以テ國民政府ハ在上海外國銀行側ト銀流出阻止方ニ關シ協議スル處アッタ、外國銀行側ハ現在ノ平衡稅ヲ維持シ且ツ健全通貨政策ヲ採用スベキ旨ノ支那政府ノ言明ヲ信賴シテ目下ノ金融事態ノ繼續スル限リ無期限ニ銀積出シヲ差控フベク（在支支店ヲシテ實行可能ナル範圍ニ於テ之ニ協力セシム）且ツ其ノ顧客ヲシテ同樣銀積出ヲ思ヒ止ラシムル樣盡力スベキ旨ノ支那政府提議ヲ承認スルコトヲ約スルニ至ッタ（註五）

（註一）

一、上海在銀高（單位千弗）

年次	金額	前期末トノ比較
一九二七年	一六〇、三八四	(一)ハ減
一九二八年	一九七、六六八	三七、二八四
一九二九年	二七五、八九三	七八、二二五
一九三〇年	三二四、〇二七	四八、一三四
一九三一年	二九四、七七九	二九、二四八
一九三二年（六月末）	三三三、一五一	三八、三七二
一九三二年（十二月末）	三四八、〇九七	一四、九四六
一九三三年（六月末）	四四四、八六七	九七、七七〇
一九三三年（十二月末）	五三七、八五五	九二、九八八
一九三四年（六月末）	五八二、一九三	四四、三三八
一九三四年（十二月末）	三四〇、二七二	(一)二四一、九二一
一九三五年（三月末）	三三一、二四二	(一)九、〇三〇

二、上海在銀高內譯（單位千弗）

	一九三五年（三月末）	一九三四年（六月末）
邦人銀行	一一、六八〇	三六、四八五
外國銀行	三四、三三一	二〇五、七五四

中央銀行	一一九、六〇一
中國銀行	九六、〇二〇
交通銀行	四三、二〇〇
其他ノ支那銀行	八一、一〇二
合計	五八二、一六二

（註二）附錄第二十、米支往復文書參照

（註三）silver sycee, silver bars, ingots, slabs and silver in mass

（註四）

兌換券發行銀行表

銀行名	發行高（一九三五年一月現在單位千元）
中央銀行	八九、〇五七
上海中國銀行	一三一、五六三
上海交通銀行	五六、一一五
中國實業銀行	三三、六一六
上海鹽業、中南、大陸、金城四行準備庫	三〇、〇四三
中國通商銀行	二二、〇九三
浙江興業銀行	九、〇九五
四明銀行	一八、八〇六
中國墾業銀行	七、〇九五
上海中國農工銀行	六、五四一
其他ノ銀行	一二七、二八九
合計	四〇四、〇二四

（註五）上海爲替銀行協會ヨリ宋子文宛書翰

T. V. Soong, Esq.,
Shanghai.

April 18th, 1935.

Dear Mr. Soong,

With reference to the informal conversations which took place at your luncheon party on Sundy, I beg to advise that at a meeting of the Shanghai Foreign Exchange Bankers' Association held on Tuesday evening, the proposal that the Foreign Banks should refrain from shipping silver and do their utmost to discourage shipments by their clients, met with most favorable reception.

I was requested to inform you privately on this matter and to state that if our Association was approached officially and the attitude of Chinese Banks defined, our members would be happy to cooperate with them.

Yours sincerely,

(Signed) W. R. COCKBURN.

第二款　支那幣制改革

一、支那金融危機對策ニ關スル本邦銀行家ノ意見

昭和十年五月二十八日外務省調査部長主催ノ銀問題ニ關スル懇談會席上ニ於ケル有力銀行家側ノ意見ヲ綜合スルニ　(一)　米國ガ銀買上政策ヲ緩和セバ支那現下ノ窮狀ヲ切抜ケ得ベキモ然ラザレバ(二)　對支借款ニ依リ一時之ヲ救ヒ得ベキモ支那政府ニ「コンフィデンス」無キ限リ之ガ實現ハ困難ニシテ　(三)　銀本位ヲ廢止シ銀ヲ英國ノ磅ニ連結シテ形式上金爲替本位制ヲ採用スルガ如キ所謂「マネジド、カーレンシー」モ其ノ成否ハ支那政府ニ對スル「コンフィデンス」ノ回復ニ俟ツノ外ナシ而シテ支那政府ノ「コンフィデンス」回復ニハ貿易ノ奬勵、發券銀行ノ統一、健全通貨政策ノ維持等ヲ必須條件トストノ意見ニ大體一致シタ。

二、「リースロス」氏ノ對支借款案

一九三五年秋ニ至リ上海ノ金融ノ逼迫竝ニ通貨不安ハ益々深刻化シ同年十月ニ於テハ青島、天津等北支ニ於テハ銀ト紙幣トノ間ニ打歩ヲ生ジタト傳ヘラレ銀ノ密輸出、退藏及資本逃避ヲ助長シ遂ニハ金融恐慌ニ發展スベキ懸念ナシトセザルヤノ事態トナツタ玆ニ於テ英國政府ハ支那ノ金融危機ヲ救濟スベキ具體的立案ヲ援助センガ爲メ其ノ財政顧問「リースロス」氏ヲ支那ニ急派スルコトトナツタガ同氏ハ支那財政當局ト接觸ノ結果愈々一千萬磅對支借款ニ關スル具體案ヲ得テ本邦ノ協力ヲ求ムル處アツタ。

一九三五年三月三日付財政部令ニ依レバ

(一)　一九三五年十一月四日ヨリ政府銀行タル中央銀行、中國銀行、交通銀行ノ三銀行ノ發行スル銀行券ヲ以テ無制限法貨トス

(二)　通貨ノ目的トシテ銀弗若シクハ銀地金ノ使用ヲ禁ズ之ニ違反シテ押收セラレタル銀ハ總テ沒收セラルベシ不法ニ銀ヲ所持セルモノハ反逆罪ヲ以テ律セラルベシ

(三)　右三銀行以外ノ發券銀行ノ銀行券ニシテ從來財政部ノ特許ヲ得タルモノハ依然流通スベキモ其額ハ一九三五年十一月三日ノ流通額ヲ超過スベカラズ此等銀行ノ現在銀行券ハ財政部ノ所定期間内ニ中央銀行銀行券ニ交換セラレ次第ニ回收セラルベシ右現在銀行券（未發行及回收ノモノヲ含ム）ニ對スル總テノ準備ハ直チニ通貨準備局ニ引渡サルベシ印刷中ノ銀行券ハ受領後同樣右準備局ニ引渡サルベシ

(四)　通貨準備局ハ特別命令ヲ以テ創設セラレ法貨タル銀行券ノ發行及回收ヲ管理シ且現存銀行券ニ對スル準備ノ保管ヲ爲ス

(五)　十一月四日以後銀行、商會又ハ總テノ公私機關及個人ニシテ標準銀元、其他ノ銀弗、若クハ銀地金ヲ保有スルモノハ通貨準備局乃至其ノ代理銀行ニ引渡スベク、右引渡シ銀ニ對シテハ標準銀元ノ場合ニハ額面價値ト同額ノ法貨銀行券ヲ以テ又其他ノ銀弗若クハ銀地金ノ場合ニハ含有純銀ニ從ヒ法貨銀行券ヲ以テ引換ヘ交付セラルベシ

(六)　銀ノ呼價ヲ以テスル總ユル契約債務ハ額面ト同額ノ法貨銀行券ヲ以テ支拂ハルベシ

(七)　支那通貨ヲ現在ノ水準ニ維持セシムル爲メ政府三銀行ハ無制限ニ外國爲替ノ賣買ヲ爲スベシ

同日孔財政部長ノ聲明要旨ハ左ノ通リデアツタ

最近諸外國ノ金本位離脫及世界ノ銀價値ノ高騰ニ依リ支那ノ通貨ハ「オヴァヴァリユ」セラレタ、其ノ結果重大ナ「デフレーション」ガ起リ、失業增加シ、破產者激增シ、資本ノ海外逃避、政府財政收入ノ減少及ビ國際收支ノ逆調ヲ來シタ、政府ハ應急措置トシテ銀ノ輸出ニ對シ輸出稅ト平衡稅トヲ課シタガ右ハ一時的對策ニ過ギナイ政府ハ右狀勢ニ徵シ國內通貨準備ヲ保持シ通貨及銀行ノ改革ノ爲メ永續的對策トシテ最近ニ於ケル諸外國ノ前例ニ鑑ミ一九三五年十一月四日ヨリ施行スベキ次ノ如キ趣旨ヲ含ム命令ヲ發布スルニ決定シタ

(一)　中國中央準備銀行ハ一般商業上ノ業務ヲ行ハズ二ケ年後ニハ銀行券發行ヲ獨占スルモノト

512959

ス

(二) 中央銀行ハ今後中國中央準備銀行ニ改組サレ獨立ノ金融機關トナリ國家ノ通貨安定ヲ主タル目的トス

(三) 支那弗ノ爲替相場ノ現在ノ水準（註、相場二志二片半）ニ於テ安定スベキモノトス之ガ爲メ政府諸銀行ハ無制限ニ外國爲替ノ賣買ヲ爲ス

(四) 中央、中國、交通三銀行ノ發券ヲ法貨トシ、三銀行ノ準備金ヲ一定ノ統一的支配下ニ置キ他ノ發券銀行ノ紙幣ハ引續キ流通スルモ漸次中央銀行發券ニ引換ヘラルルモノトス

四、新幣制ト地方政權及香港政廳

廣東省政府ハ六日貨幣管理令ヲ布告シ七日ヨリ之ヲ實施シタガ右ハ國民政府令ト同趣旨ノモノニシテ (一) 廣東省銀行ノ毫銀券、大洋券及廣州市立銀行ノ遷票ヲ以テ無制限法貨トナシ (二) 省内ノ毫銀及大洋ハ總テ之ヲ政府ニ於テ回收シ、毫銀ハ二割增、大洋ハ四割四分增ノ割ニテ兌換ス（即チ毫銀一元ハ毫銀券一元二十仙、大洋一元ハ毫銀券一元四十四仙トス）大洋行使區域ニ於テハ大洋ノ額面ノ二割增ノ割ニテ大洋券ヲ以テ大洋ヲ回收ス (三) 總テノ銀ハ廣東省銀行ニ於テ品質ニ照ラシ價格ヲ定メテ之ヲ買上グ (四) 法貨ノ發行及準備ノ管理ノ爲メ政府及人民ニ依リ共同シテ發行

準備管理委員會ヲ組織スベキ旨ヲ公布シタ

北平市長代理宋哲元ハ七日天津市長程克ト會見協議ノ結果北平、天津兩市ノ現銀ハ暫ク現地ニ留メ置キ中央ニ送付セザル方針ニ決シタ趣デアルガ宋哲元ハ七日北平各銀行ニ對シ其ノ手持銀ハ各銀行ニ於テ保管シ中央ニ送付セザル命令ヲ發シ天津ニ於テモ程克ハ同地銀行ノ在銀ハ之ヲ其儘封存スベキコトヲ命ジ、同時ニ北平、天津ニハ準備保管分會ヲ設置シテ之ヲ保管スベキ旨財政部ニ電請セル結果財政府ハ之ヲ許可シ北平、天津ニ右分庫ヲ設置スルコトトナツタ因ニ在平津在銀高ハ天津支那銀行約三千萬、同外國銀行ハ推定八百萬、北平支那銀行ハ約二千萬元デアツタ

山東省政府主席韓復榘モ又本三日附各縣長宛命令ヲ以テ省内ノ銀行、銀號ノ現銀ヲ鎖封シ之ガ省外移出ヲ禁止セルガ、既ニ各銀行銀號ノ保管現銀約八百萬元ニ對シテハ省外運搬ハ勿論、其ノ如何ナル移動ヲモ停止方財政廳ニ訓令シ又民間退藏現銀（約一億乃至一億五千ト推定セラル）ノ搬出ニ付テモ之ガ監視並ニ取締方軍警機關ニ命令セリト云フ、尙靑島ニ於テモ中央、交通、中國ノ三銀行初メ支那銀行ハ現銀ヲ封印シ當分各自保管スルコトトナツタ（現銀保有高ハ銀行七百萬其ノ他百萬見當ノ由）ガ沈市長ハ幣制問題ニ關シテハ國民政府ノ命令ヲ遵奉スベキ意嚮ノ趣デアツタ

香港政府ハ九日付ヲ以テ同日以後銀貨及銀地金ノ輸出ヲ禁止スベキ旨ノ命令ヲ公布シタガ既ニ二週間以來香上銀行其他ノ兌換券發行銀行ハ他銀行ヨリノ大口兌換申込ミヲ拒絶シ居リ市中ニ於テモ兩三日來弗銀貨ハ急ニ姿ヲ消シ事實上兌換停止ノ狀態ニ在ツタ。而シテ十二月六日香港政府ハ(一)香港領內ニ於ケル銀貨、銀地金ノ回收及銀行券發行ノ基礎トシテ銀ノ代リニ政府發行ノ證券ヲ以テ之ニ充當スベキコト (二)爲替平衡資金トシテ三千萬弗ヲ設定スベキ趣旨ヲ含ム總督令ヲ公布スルニ至ツタ

五、外國銀行側ノ態度竝ニ新幣制實施ニ關スル支那側措置振リ

英國大使館ハ本新幣制ニ關スル財政部令布告後間モ無ク「チヤイナ、オーダー、イン、カウンシル」ニ基ク「キングス、レギユレーション」ヲ十一月四日「カドガン」大使ノ名ニ於テ公布セルガ右ニ依レバ (一)一九二五年「チヤイナ、オーダー、イン、カウンシル」ノ適用範圍內ニ在住スル英國人、商社及會社ガ單獨又ハ他ノ者（英國人ト否トヲ問ハズ）ト協同シテ債務ノ一部又ハ全部ヲ銀ニテ支拂フトキハ有罪ト認メ三箇月ヲ越エザル期間ノ禁錮又ハ懲役若クハ五十磅ヲ越エザル罪金若クハ兩者ヲ併課ス (二)本令ハ一九三五年銀支拂禁止令ト稱ストノ趣旨ヲ規定シ逸早ク支那側ノ新幣制支持ノ態度ヲ表明スルニ至ツタ

同月三日邦人銀行側ハ協議ノ結果日本ノ銀行トシテハ治外法權ノ關係上新法令ニ從フ必要ナキモ今後「ペーバー、ベーシス」ヲ以テ取引セザルニ於テハ營業ヲ休止スル外無キニ付此ノ點ハ事實上新法令ト同樣ノ取引ヲ爲スベキモ現在ノ保有銀ヲ一弗對一弗ノ紙幣ヲ以テ回收セラルベキコトハ事實財產ノ沒收トナルガ故ニ之ニ從フヲ得ズトノ意見ニ一致シ四日外國銀行側ト打合セタル處何レモ保有銀ノ强制買上ニハ反對ノ意嚮ナリシモ「ペーバー、ベーシス」ニテ取引スルコトハ異存ナカツタ爲メ之ト同一步調ヲ取ルコトトシ改メテ全般ノ協議ヲ行フコトトナツタ因ニ六日發表ノ上海各銀行在銀高ハ (一)銀弗及弗條（單位千弗）外國銀行、四〇、五三八（內日本側一〇、四九七）支那銀行、二三六、一八二 (二)兩銀（單位千兩）外國銀行、六〇支那銀行七九四七、テアツタガ支那所有銀ハ四日之ヲ封印シ、錢莊方面ノ銀ハ回收ヲ開始セラレタ

十一月七日、外國爲替銀行協會ハ幹事會ヲ開キ「ナショナル、シティー」ノ提議ニ依リ外國銀行トシテ新幣制ニハ協力スベク（卽チ法貨タル三銀行ノ發券ノ授受ヲ爲ス意味トス）但銀引渡ニハ今直チニ應ジ難キ旨ヲ財政部長宛書面ヲ以テ通告スルコトトナツタガ英國銀行ハ他ノ銀行ガ有利ノ待遇ヲ受クレバ之ニ均霑ストノ條件付ニテ保有銀ヲ「バー」ニテ引渡スコトニ決定セリト云フ、次デ十二月三日附ヲ以テ財政部長ヨリ外國銀行協會ニ對シ外國銀行ハ支那銀行同樣六〇「バーセ

ント」ノ現銀及四〇「パーセント」ノ「セキユリテイー」ヲ供託シテ右額ニ相當スル中央銀行券ヲ取得スルノ特典ヲ享受スベク右ニ依レバ供託銀ノ法定價値ノ六六「パーセント」三分ノ二ニ相當スル法貨ヲ二年間自由ニ使用スルヲ得ベキ結果トナルガ故外國銀行ハ之ヲ利用セラレ度キ旨ヲ申越シタ

越エテ十二月三十日外國銀行協會ハ各會員銀行ニ對シ回章ヲ以テ左ノ通リ申越シタ

卽チ協會ノ會員銀行中ノ或モノハ既ニ所有銀ヲ引渡シタガ其ノ「アレンジメント」ハ銀ヲ引渡シタ銀行ハ同額ノ法貨銀行券ヲ受領シ別ニ引渡シ銀額ノ六六「パーセント」三分ノ二ニ相當スル額ヲ中央銀行ニ預金シテ二個年間五分ノ利子ヲ貰フト共ニ中央銀行ヨリ右ト同額ヲ該銀行ニ二箇年間無利息ニテ預金スルコトシタ而シテ會員銀行ニシテ右ノ方法ニ依ル希望者ハ中央銀行總經理ト折衝セラレ度キ旨ヲ同銀行ノ總經理ヨリ依賴セラレタ旨ヲ通知シテ來タガ右ニ關シ翌三十一日付回章ヲ以テ孔中央銀行總經理ヨリ同銀行協會長宛書翰ヲ送附シタガ之ニ依レバ中央銀行ハ外國銀行ニ對シ引渡シ銀額ト同額ノ銀行券又ハ預金「クレデツト」ヲ與ヘ且ツ「セキリテイ」ヲ供託スル代リニ銀ヲ引渡セル銀行ハ同時ニ右引渡セル銀ノ三分ノ二ニ相當スル額（卽チ六〇對四〇「パーセント」ノ「ベーシス」ニ於テ）預金ヲ中央銀行ニ二年間爲スコトトシ、相互的ニ中央銀行ハ右銀行ニ同額ノ預金ヲ爲スベク各預金ニ對スル利息率ノ差ハ五「パーセント」丈ケ右引渡銀行側ニ有利トスベシ右ノ結果引渡シ銀額ニ對シ一年間ハ三「パーセント」三分ノ一、二年間ニ於テハ六「パーセント」二分ノ一ニ相當スル率ダケノ利益ヲ右引渡シ銀行ニ與フルコトトナルベキ旨ヲ申越シタ

上海外國銀行ハ大體前記提議ノ「ライン」ニテ其ノ保有銀ヲ處分スルコトニ意見傾イタ模樣デアツタ

十二月四日張公權ハ孔財政部長ノ意嚮ヲ體シ上海商務官ニ對シ左ノ通リ語ツタ

(一) 幣制改革當時カラ在外資金獲得ノ爲メ銀賣却ノ必要ヲ認メテキタガ最近準備委員會ヨリモ其ノ必要ナルコトヲ申請シ來ツタ爲メ銀賣却ヲ決意シタノデアルガ近ク日、英、米、佛各國銀行側ニ申入ルル筈ニシテ右ハ單ナル「ビズネス、トランスアクシヨン」ニ過ギヌ

(二) 上海ニ於テ封印ヲ了シタ在銀高及各銀行發券高ノ詳細ハ未ダ判明セズ判明ノ上ニテ準備率ヲ定メ過剩銀ヲ賣却スルコトトナルベシ

右ニ關シ十二月十二日孔財政部長ガ南京總領事ニ說明シタ處ニ依レバ

(一) 貿易決濟ノ爲メ外貨ヲ買求ムル者多ク中央銀行ニ於テ之ヲ準備シ置クコト便利ナルガ故圓ヲ

在外資金トシテ買入レ大體日支間貿易ノ決濟ニ充當スベキ筈ナリ

(二) 英、米、佛等ニモ同樣在外資金ヲ置ク筈デアルガ其ノ額ハ貿易ノ狀況ニ依ル爲メ一定セズ右ハ夫々ノ國トノ貿易決濟ニ利用スルモノナリ

(三) 右外貨ハ銀ト同樣準備金ヲ構成スルモノ故右措置ハ現幣制ヲ變更スルモノニ非ルハ勿論右ノ爲メ爲替相場モ動クコトナキ次第ナリ

(四) 現在ノ準備率ハ銀價騰貴ノ爲メ割高トナリ居リ、(五億元ノ紙幣ニ對シ三億元ノ銀ヲ保有シ居リ、銀價ガ一「オンス」ニ付、二十九片ト騰貴セル爲メ一弗銀貨ハ二志トナリ今全部兌換スルコトモ出來ル現狀ナレバ外國借款ヲ要セザル次第ナリト打明ケタ)準備ノ內容ハ主トシテ銀ナルカ右外貨及外國ニ對スル「クレジット」モ含ミ、時ニ依リ其ノ構成部分ノ比例ヲ異ニスベキモ銀價ノ暴落無キ限リ準備率ヲ六割以下ニ引下クル必要モ無ク又斯ル場合ハ豫想シ難シ

(五) 準備委員會ハ旣ニ奥地ヨリノ銀回收ニ相當成功シ居リ、例ヘバ廣東ニテハ新制實施以來四千萬元ヲ集メ居ルニ見テ明カナリ、紙幣ハ目下ノ處ハ中央銀行ノモノ極メテ少ク多クハ中國、交通銀行ガ夫々地方ニ於テ發行シ居ルモノナルカ例ヘバ天津ニ於ケル準備委員會ガ北支地方ヨリ集メタ銀ヲ全部保留シテモ或ハ同地方ニ於ケル紙幣ノ準備トシテハ足ラズ、逆ニ中央ヨリ補充ノ要アリ北支ヨリノ現銀輸送ハ今ノ處期待セズ

(六) 新幣制ハ益々安定シ行ク傾向アリ之カ維持ノ爲メニハ恐慌無キ限リ外國借款ヲ必要トセズトノ確信ヲ有スルニ至レリ

(七) 尙右ノ外實ハ米國ノ銀政策變更等ノ爲メ銀ノ値下リアルベキヲ豫想シ國家ノ爲メ高値ノ內ニ外貨ト爲シ置キ値下リノ際買戻シ差額ヲ利得シ度シトノ思惑モアリシナリ

ト述ベタル趣デアルガ十二月二十八日更ニ同總領事ニ對シ銀賣却ハ英國側トハ未ダ相談中ナルモ米國側トハ最近相當額ノ賣約成立セリト述ベ旣ニ積出シタルハ「チエーズ」一千萬、「シテイー」一千二百萬合計二千二百萬元ナリト云フ

尙米國ノ銀買入政策緩和ニ對スル支那政府ノ對策ニ關シ十二月十二日孔財政部長ハ南京總領事ニ對シ對米交涉ハ依然繼續シ居タルモ右米國ノ態度ハ其ノ結果ナリトハ思ハレズ米國內部ノ都合ニ依ルモノト思考ス支那トシテハ事實右ニ依リ銀ノ値下リアルモ一弗對一志二片半ノ爲替相場ヲ適宜調節シ行ケバ新幣制ニハ影響ナカルベク當分形勢ヲ見送ルノ外無シト述ベタ

六、新幣制ニ關スル新聞論調

新幣制實施直後ニ於ケル支那漢字新聞紙ノ論調ヲ綜合スルニ今般ノ改革ハ支那ノ金融市場ヲ安定

セシメ國内產業ノ發達ト對外貿易ノ進況、農村復興ヲ招來スルモ他面物價ノ騰貴ト下層階級ノ生活難ヲ齎ス虞アリ之カ實施ニハ當局ニ於テ準備率ヲ確定シ低カラサル樣ニシ準備金ヲ嚴重ニ管理スルト共ニ之ヲ公表シ、法貨ノ發行ハ成ルベク速カニ之ヲ中央ニ統一スルノ要アリトシ大體之ニ贊成スルニ一致セル如キモ、上海中華日報ハ爲替ノ安定ニハ巨額ノ準備金ヲ必要トスルヲ以テ前途樂觀ヲ許サスト爲シ又天津大公報モ外國爲替調節ニ要スル在外正貨ノ準備ヲ如何ニシテ爲スヘキヤ又其ノ實力アリヤ疑アリト論ジタ

又五日ノ上海「ノース、チャイナ、デイリー、ニウス」ハ今回ノ改革ハ信用ノ恢復從ツテ貿易ノ振興ヲ保障スベキ安定ヲ求メ、銀價ノ人爲的昂騰前五箇年ノ平均爲替相場ニ弗ヲ安定セシメ、中央銀行ガ中央準備銀行トシテ其ノ安定ヲ維持セントスルモノデアルガ中央銀行ニ獨立ヲ附與シ且專門的指導ヲ與フルコト必要ナリト論ジ、又同日ノ上海「タイムス」ハ支那政府ハ法貨ヲ現在ノ對外爲替相場ノ水準ニ安定セシムルコトヲ言明シテ居ルガ右ハ磅又ハ米弗若クハ圓ヲ對象トスルヤ興味アル問題ナリト論ジタ

十一月七日ノ倫敦「タイムス」支那幣制改革ニ對シ極メテ同情的論調ヲ以テ新制度ガ國際聯盟財政委員會ノ勸告シタ原理ニ則リ又英國銀行ノ慣行トモ合致シテ居ルノデ此ノ點英國實業界ノ歡迎スル處デアル、在支英國銀行ガ幣制改革ノ實施ハ特ニ當初ニ於テ幾多ノ難關ヲ避ケ難キコトヲ熟知シ乍ラ新制度ノ成功ヲ期シ南京政府當局ト協力ヲ決意シタノハ當然デアルト論ジタ

米國ニ於テハ支那幣制改革ノ電報報道ニ對シ多大ノ反響ヲ呼ビ起シ財界ハ支那ガ如何ナル方法ニテ爲替安定ヲ計ルヤ、之ヲ如何ナル外貨ニ「リンク」セシムベキヤニ關シ種々臆測ヲ爲セルガ大體支那ノ對外爲替ガ現在ノ三十仙内外ニ落着クベキコトニ付テハ現在ノ圓相場モ考慮シ間違無カルベシト見ルニ一致シ一般輿論ハ(一)支那ハ爲替安定ノ爲多額ノ銀ヲ賣リ出スコト無キヤ斯ル場合米國ハ銀購入ヲ繼續スベキヤ(二)支那ノ銀本位離脫ノ結果米國保有ノ銀價下落シ米國ハ結局銀政策ヲ拋棄スルノ余儀ナキニ至ルコトナキヤ(三)香港弗ハ上海弗ト如何ナル關係ヲ保持スベキヤ(四)客年墨西哥政府ガ銀ノ一弗二十九仙迄ノ騰貴ヲ見越シテ米國政府ト協議ノ上平價切下ヲ行ヒタルガ支那モ平價切下ヲ爲スニアラズヤ等ノ諸點ヲ注目シ新聞紙ハ支那ガ今回ノ擧ニ出デタルハ全ク米國ノ銀政策ノ結果ナリトテ其ノ短見ヲ非難スルモノ多カツタ

七、結　論

敍上ノ如ク支那ノ通貨ハ金屬的基礎ヲ離レ（實際上ハ平衡稅ノ設置ト共ニ銀ヲ離レタ）通貨管理ニ依ル强制通貨タルニ至ツタノデアルガ將來支那ガ再ビ銀本位ニ復歸スルヤ將又金本位制乃至複

本位制ヲ採用スルヤハ暫ラク別問題トシ新幣制ヲ維持シ爲替動搖ヲ防止センガ爲ニハ少クトモ相當ノ爲替運用資金ヲ要シ、又紙幣ノ發行ヲ統一シ、余リ低カラザル準備ヲ保管スルヲ要スルノデアル、現在支那ハ流通紙幣ヲ五億トシ之ニ對シ三億ノ銀準備卽チ六割ノ準備率ヲ保有シテキルノデアルガ（註一）一元ヲ銀地金トシテ〇・七五六「オンス」、現在ノ市價一「オンス」ニ付二十片トシテ地金價格ハ一五・一二片トナリ通貨ヲ十四片半ニ安定スルトシテ前記三億元ニ對スル地金ト紙幣トノ差額ハ約二百萬磅トナル、卽チ支那政府ガ銀國有ニ依リ三億元ノ現銀ヲ集メ現在ノ準備率ヲ保有スルトシテ紙幣ト地金トノ開キニ依ル剩余銀ノ賣却ニ依リ約二百萬磅ノ利得ヲ爲スベク、又假リニ準備ヲ四割ニ引下グレバ一億元ノ剩余銀ノ賣却ニヨリ六百三十萬磅之ニ二億元ニ對スル差額ヲ加算セズ約七百六十萬磅ノ資金ヲ獲得シ得ベク、之ヲ爲替資金トセバ「リースロス」ノ意見ノ如ク借款無クトモ當分ハ新幣制ヲ維持シ得ルデアラウ、然シ右ハ銀價ヲ二十片トシテノ計算デアリ且銀準備率ヲ引下グルコトヲ條件トスルモノデアルカラ銀貨ガ下落スルカ或ハ銀準備率ヲ現在ノ儘保有スルモノトセバ結局借款ニ依ルノデナケレバ之ヲ維持スルコトハ困難デアラウ卽チ右幣制ノ維持ハ一方ニ於テ米國政府ノ銀買上政策ノ抛棄ニ依ツテ影響ヲ受クルト共ニ他方支那側政府ノ財政政策ニ對スル信用恢復ニ俟タネバナラヌ。更ニ支那ノ國際貸借ヲ見ルニ一九三三年度ニ於テ約七億三千三百萬元ノ入超、又一九三四年度ニ於テハ四億九千四百萬元ノ入超トナツテ前年度ヨリハ二億三千九百萬元ノ減少トナツテキルノデアルガ國際支拂ヲ償フベキ華僑ノ送金ハ前年度ニ於テハ二億元、他ノ統計ニ依レバ四億元ト云ハレ（一九二九年ニハ二億八千萬元一九三〇年ニハ三億一千六百萬元）後年度ニ於テハ二億五千萬トナツテ減少ノ傾向ニ在リ、他面金銀流出ハ前年度ニ於テハ二億三百萬、後年度ニ於テハ三億九千萬元ニ上リ一億八千八百萬元ノ增加トナツテ居ルト問時ニ巨額ノ資本逃避ヲ見タノデアツテ（註二）斯カル國際收支ノ變調ハ益々支那ノ信用ヲ害スルモノデアルカラ貿易ノ振興、國內產業ノ增進ニ依ツテ之ヲ調節セネバナラヌ要之銀價ノ高騰ト貿易ノ逆調トハ今般ノ支那經濟危機ノ二大原因トナツタノデアルガ之ガ救濟策トシテハ第一ニ健全通貨政策ヲ以テ平價ノ切下乃至準備ノ無法ナル引下等ニヨリ急激ナル通貨膨脹ヲ畫スルコト無ク先ヅ支那政府ニ對スル信用ヲ得テ徐々ニ借款ヲ以テ通貨ノ安定ヲ計ルト共ニ第二國內產業ノ發展貿易ノ振興ニ依リ國際貸借ノ改善ニ努力シナケレバナラヌノデ、右ニ付キ利害關係ノ最モ密接ナル日本トノ提携ニ依ツテ種々ノ經濟的施設ニ關シ其ノ援助及協力ヲ求ムルヲ緊急トス（註三）

（註一）一九三一年度兌換銀行券條例ニ依レバ國民政府ヨリ銀行券發行ノ特許ヲ得タル銀

行ハ其ノ發行銀行券ニ對シ六〇「パーセント」ノ正貨及四〇「パーセント」ノ「セキュリティー」ヲ以テ完全ナル準備ヲ保有スルヲ要スト爲シタ、然ルニ新幣制ニ依ル發行準備管理委員會規則ニ依レバ紙幣發行銀行ノ現金準備及保管準備ヲ毎月一回檢査シ其ノ內容ヲ公告スルト共ニ財政部ニ報告セシメ、尙現金準備六割ハ金銀或ハ外國爲替ヲ以テ之ニ充ツベキ旨ヲ規定シタ

（註二）附錄第十三　支那國際收支表參照

（註三）其後ノ情報ニ依レバ本年五月十七日財政部長ハ左記要旨ノ聲明ヲシタ

(一)　政府ハ引續キ金、外貨及銀ヲ以テ紙幣發行ニ對スル現金準備ニ充テ右準備率ハ從來通リ六割トナスモ右ノ中銀準備ハ紙幣發行總額ノ二割五分ヲ限度トス（從來ハ銀三割、金及外貨三割）

(二)　五角及一元ノ硬貨ヲ發行ス

(三)　法貨ノ地位ヲ强化スル爲金及外貨ヲ增加スルニ必要ナル準備ヲ了セリ

(四)　右ノ規定ニ依リ何國ノ貨幣ニモ「リンク」セラレザル獨立ノ地位ヲ保持シ以テ通貨ノ安定ニ依リ國民生活ノ發展ヲ期ス

(五)　從來銀器製造ニハ純分三〇%以上ノ銀ノ使用ヲ禁止セルガ今後右制限ヲ撤廢シ在來ノ商習慣ニ依ルコトトス

尙右ニ關聯シ孔財政部長ハ談話ノ形式ヲ以テ平價切下ノ謠言ハ事實ニアラズ支那ハ客年十一月以來銀ヲ離脫シ金及外國爲替ヲ以テ其ノ價値ヲ定メ居ルモノニシテ硬貨ハ補助貨ナレバ其金屬價値トハ關係ナシト語ツタ、因ニ右硬貨ノ純分ハ三割乃至五割ト云フガ如ク低下スル計畫ナリト傳フ

前記(三)ニ關シ右財政部長ノ聲明ハ米支協定ノ結果ナリト傳ヘラレルガ五月十五日ノ「ジャーナル・オブ・コムマース」紙ノ報道ニ依レバ(イ)米國ハ一「オンス」五十「セント」ニテ七千萬「オンス」ノ銀ヲ購入スベク(ロ)右代金ハ金及「クレヂット」ニテ米國內ニテ支拂フベキ趣旨ノ米支協定成立セリト

右聲明ハ新幣制ノ補强的對策デ上海邦人銀行家ハ大體好感ヲ以テ迎ヘテキルト報ゼラレ十八日上海市況モ對英一志二片八分ノ三、對米二十九弗四分ノ三、對日百二圓四分ノ一ト不變乍ラ强含ミデアッタ

右ハ前述ノ如ク新借款ニ依ラズ單ニ銀準備率ヲ引上ゲ準備銀ヲ金及外貨ニ代ヘタル一

時的補強策ニ過ギズシテ恒久的ニ新幣制ヲ確立スル爲メニハ支那政府ニ對スル信用恢復ヲ緊急トスルハ明カデアル

附錄第一　金銀比價表

備考、金銀各一「オンス」ノ價値比率（銀一ニ對スル金ノ價値）ヲ示ス

一、中世後期歐洲ニ於ケル金銀比價表（一三〇〇―一五〇〇）

年次	伊太利			佛蘭西	英吉利	獨逸	西班牙	バーガンデー
	フロレンス	ヴェニス	ミラン					
一二五二年	一〇・七五							
一二五七年								
一二八四年		一〇・八四						
一二九六年	一一・一〇				九・二九			
一三〇三年								
一三〇五年	一〇・八八							
一三二四年	一三・九九							
一三三八年								
一三四四年								
一三四五年	一一・〇四							
一三四六年				一一・一一	一一・五七	一一・三三		一二・一〇

年次	伊太利 フロレンス	ヴェニス	ミラン	佛蘭西	英吉利	獨逸	西班牙 バーガンデー
一三四七年	一〇・九一						
一三四八年							
一三五〇年							
一三五三年		一四・四四	一〇・五九				
一三六一年							
一三七五年	一〇・七七						
一三七九年		一三・一七					
一三八六年							
一三九一年							
一三九九年		一一・六九					
一四〇〇年				一二・〇〇	一一・一五（以下一四一二年ニ至ル迄同率）		
一四〇二年	一〇・五八						
一四〇六年				一〇・七四			

年次	伊太利 フロレンス	ヴェニス	ミラン	佛蘭西	英吉利	獨逸	西班牙 バーガンデー
一四一一年						一二・四〇（リューベック）	
一四一二年							
一四一七年		一二・五六					
一四二一年						一一・一六（ライン各州）	
一四二二年	一〇・一六						
一四二七年							
一四二九年		一一・〇四				一〇・七六（ライン各州）	
一四三二年							
一四三五年							
一四四一年							
一四四三年		一二・一〇					
一四四七年							
一四五〇年			一〇・九六				
一四五五年						一〇・六六（ライン各州）	
一四五六年							
一四六〇年	九三三						

二、亞米利加發見後ニ於ケル金銀比價表（一五〇〇―一九三二）

年次	伊太利			佛蘭西	英吉利	獨逸	西班牙	デンマーク
	スフロレンス	ヴェニス	ミラン					
一五〇〇年								
一五〇六年								
一四九七年								
一四九五年								
一四八八年								
一四八六年								
一四八五年								
一四八〇年	一〇・八三							
一四七五年								
一四七四年		一〇・九七						
一四七二年		一一・一三						
一四七一年	一〇・五八							
一四六四年	一一・四二				一一・一五		九・八二	
一四六二年	九・三七							

年次	金銀比價平均率
一五〇〇―〇六年	一一・三
一五〇七―〇〇年	一一四・一
一五〇一―八〇年	一一五・〇
一五八一―五〇年	一一五・七
一五五一―七五年	一一五・五
一五七六―八〇年	一一七・九
一五八一―八五年	一一八・六
一五八六―九〇年	一二一・一
一五九一―九五年	二六・四
一五九六―一〇年	三三・四
一六一一―一五年	三六・一
一六一六―二〇年	三五・三
一六二一―二五年	三六・八
一六二六―三〇年	三二・五
一六三一―三五年	三一・二
一六三六―四〇年	三四・七
一六四一―四五年	三六・五

年次	金銀生産率
一五〇〇―〇六年	一三・〇
一五〇七―〇〇年	一二・七
一五〇一―八〇年	九・六
一五八一―五〇年	九・四
一五五一―七五年	一〇・七
一五七六―八〇年	一三・三
一五八一―八五年	二〇・四
一五八六―九〇年	一七・六
一五九一―九五年	一三・三
一五九六―一〇年	一七・六
一六一一―一五年	二八・〇
一六一六―二〇年	二九・九
一六二一―二五年	四四・一
一六二六―三〇年	三二・五

一九二八年
一九二九年
一九三〇年
一九三一年
一九三二年

三、十八世紀ノ支那ニ於ケル金銀比價表

年次		比價率
一三七五年		一〇
一七〇〇年		一〇
一七四〇年		一二・五
一七五〇年		一五
一七七五年		一六・一五
一七八〇年		一三
一七八二年		一五・五

三五・三	—
三八・八	—
五三・七	—
七一・二	—
七三・三	—

附錄第二　銀貨變動表

一、銀貨變動年表

備考、單位英國標準銀（〇・九二五）一「オンス」ニ付片トス平均價格欄ノ下欄ハ一「ファイン、オンス」ニ付米國金貨建換算價格（單位弗）ヲ示ス

年次	最高	最低	平均價格
一八三三年	五九、八分ノ七	五八、四分ノ三	五九、一六分ノ九　一・二九七弗
一八三四―一八三九年	六〇、四分ノ三	五九	—
一八四〇―一八四九年	六〇、四分ノ三	五八、八分ノ七	—
一八五〇―一八五九年	六二、四分ノ三	五九、八分ノ七	—
一八六〇―一八六九年	六二、八分ノ三	六〇	—
一八七〇―一八七四年	六〇、四分ノ三	五七、四分ノ一	—
一八七〇年	六〇、四分ノ三	六〇、四分ノ一	六〇、一六分ノ九　一・三二八
一八七四年	五九、二分ノ一	五七、四分ノ一	五八、一六分ノ五　一・二七八八
一八七五―一八七九年	五八、二分ノ一	四六、四分ノ三	—
一八七六年	五八、二分ノ一	四六、四分ノ三	五三、八分ノ一　一・一六四一
一八八〇―一八八四年	五二、八分ノ七	四九、二分ノ一	—
一八八一年	五二、八分ノ七	五〇、八分ノ七	五一、八分ノ五　一・一三二三

年次	最高	最低	平均價	價
一八八四年	五一、八分ノ三	四九、二分ノ一	五〇、一六分ノ一一	一・一一〇七
一八八五—一八八九年	五〇	四一、八分ノ五	—	—
一八八六年	四七	四二	四五、八分ノ三	〇・九九四七
一八八八年	四四、一六分ノ九	四一、八分ノ五	四二、八分ノ七	〇・九三九七
一八九〇—一八九四年	五四、八分ノ五	二七	—	—
一八九〇年	五四、八分ノ五	四三、八分ノ五	四七、四分ノ三	一・〇四六三
一八九二年	四三、四分ノ三	三七、八分ノ七	三九、四分ノ三	〇・八七一五
一八九四年	三一、四分ノ三	二七	二八、一六分ノ一五	〇・六三四八
一八九五—一八九九年	三一、一六分ノ一五	二三、八分ノ五	—	—
一八九七年	二九、一六分ノ一三	二三、八分ノ五	二七、一六分ノ九	〇・六〇四四
一九〇〇—一九〇四年	三〇、四分ノ一	二一、一六分ノ一一	—	—
一九〇二年	二六、一六分ノ一一	二一、一六分ノ一一	二四、一六分ノ一	〇・五二七九五
一九〇四年	二八、一六分ノ九	二四、一六分ノ七	二六、八分ノ三	〇・五七八七六
一九〇五—一九〇九年	三三、八分ノ一	二二	—	—
一九〇六年	三三、八分ノ一	二九	三〇、八分ノ七	〇・六七六八九
一九〇八年	二七	二二	二四、八分ノ三	〇・五三四九〇
一九一〇年	二六、四分ノ一	二三、一六分ノ三	二四、八分ノ五	〇・五四〇七七一
一九一一年	二六、八分ノ一	二三、一六分ノ二	二四、一六分ノ九	〇・五三三〇四

一九一二年	二九、一六分ノ一一	二五、八分ノ一	二八、三分ノ一	〇・六〇八三五
一九一三年	二九、八分ノ三	二六、一六分ノ一	二七、一六分ノ九	〇・五九七九一
一九一四年	二七、四分ノ三	二二、八分ノ一	二五、一六分ノ五	〇・五四八一一
一九一五年	二七、四分ノ一	二二、一六分ノ五	二三、一六分ノ一一	〇・四九六八一
一九一六年	三七、八分ノ一	二六、一六分ノ一一	三一、一六分ノ五	〇・六五六六一
一九一七年	五五	三五、一六分ノ一一	四〇、八分ノ七	〇・八一四一七
一九一八年	四九、二分ノ一	四二、二分ノ一	四七、一六分ノ九	〇・九六七七一
一九一九年	七九、八分ノ一	四七、四分ノ三	五七、一六分ノ一	一・一一一二二
一九二〇年	八九、二分ノ一	三八、八分ノ七	六一、二分ノ一	一・〇〇九〇〇
一九二一年	四三、八分ノ三	三〇、八分ノ五	三六、八分ノ七	〇・六二六二五
一九二二年	三七、八分ノ五	三〇、八分ノ三	三四、一六分ノ七	〇・六七五二八
一九二三年	三三、一六分ノ一一	三〇	三一、一六分ノ一五	〇・六四八七三
一九二四年	三六	三一、二分ノ一	三四	〇・六六七八〇
一九二五年	三三、一六分ノ七	三一、一六分ノ一	三二、八分ノ一	〇・六九〇六五
一九二六年	三一、一六分ノ一三	二四、八分ノ一	二八、一六分ノ一一	〇・六二一二五
一九二七年	二八	二四、四分ノ三	二六、三二分ノ二一	〇・五六五六二
一九二八年	二八、八分ノ七	二六、一六分ノ一	二六、四分ノ三	〇・五八四三〇
一九二九年	二六、一六分ノ七	二一、一六分ノ五	二四、三二分ノ一五	〇・五三六三一
一九三〇年	二一、八分ノ五	一四、一六分ノ七	一七、三二分ノ二一	〇・三八七二四

年次	最高	最低	平均価格
一九三一年	二一、一六分ノ九	一四、三二分ノ一九	〇・二九〇一三
一九三二年	二〇、一六分ノ七	一七、八分ノ七	〇・二八二〇四
一九三三年	二〇、二分ノ一	一八、一六分ノ三	〇・三四七二七

二、一九三三年以降倫敦紐育銀塊相場表

備考　月末ニ於ケル相場ヲ示ス、單位ハ「オンス」ニ付キ倫敦（標準銀）ハ片、紐育（「ファイン、オンス」）ハ仙トス

年月	倫敦	紐育
一九三三年一月	一七、〇六	二五、八八
一九三三年三月	一七、三八	二七、二五
一九三三年六月	一八、六三	三五、七五
一九三三年九月	一八、四四	三九、六三
一九三三年十二月	一九、〇六	四四、〇〇
一九三四年一月	一九、五〇	四五、五〇
一九三四年三月	一九、九四	四六、二五
一九三四年六月	二一、一三	四九、七五
一九三五年十二月	二二、五〇	四四、七五
一九三六年一月	一九、六九	

年月	倫敦	紐育
一九三四年九月	二二、四四	五〇、〇〇
一九三四年十二月	二四、六三	五四、七五
一九三五年一月	二四、四四	五三、八八
一九三五年三月	二八、五〇	六一、七五
一九三五年六月	三一、二五	六九、七五
一九三五年九月	二九、三一	六五、三八
一九三五年十月	二九、三一	六五、三八
一九三五年十一月	二九、一九	六五、三八
一九三六年二月	一九、四分ノ三	四四、七五

附錄第三　世界銀産額年表

備考　單位千「ファイン・オンス」

年代	産額	年代	産額
一四九三―一六〇〇年	七四六、九三二	一八七九年	七八、八七六
一六〇一―一七〇〇年	一、二七一、九二二	一八八〇年	七七、九〇三
一七〇一―一八〇〇年	一、八三二、七六九	一八八一年	八四、四八八
一八〇一―一八一〇年	二八六、六一五	一八八二年	八八、二七四
一八一一―一八二〇年	一七三、三七九	一八八三年	八九、九五六
一八二一―一八三〇年	一五三、五五四	一八八四年	八二、三〇八
一八三一―一八四〇年	一九七、三四九	一八八五年	九一、九九八
一八四一―一八五〇年	二五三、三六五	一八八六年	九五、四八五
一八五一―一八五五年	一五四、九八八	一八八七年	九七、一四九
一八五六―一八六〇年	一四五、五八三	一八八八年	一〇〇、〇三一
一八六一―一八六五年	一七八、八六三	一八八九年	一二六、五六四
一八六六―一八七〇年	二二一、七八六	一八九〇年	一三四、四二九
一八七一―一八七五年	三三四、二六四	一八九一年	一三八、二八三
一八七六年	六六、九三二	一八九二年	一五四、三七七
一八七七年	七四、一七五	一八九三年	一六六、五九四
一八七八年	七八、二九一	一八九四年	一六四、八二九

年代	產額
一八九五年	一六七、七四五
一八九六年	一五七、三二一
一八九七年	一六〇、七六五
一八九八年	一六九、五三七
一八九九年	一六八、八〇六
一九〇〇年	一七三、六八九
一九〇一年	一七三、一〇一
一九〇二年	一六二、九三六
一九〇三年	一六七、八一四
一九〇四年	一六四、二七四
一九〇五年	一七二、三九三
一九〇六年	一六五、九九八
一九〇七年	一八四、七八四
一九〇八年	二〇四、一〇四
一九〇九年	二一三、三九二
一九一〇年	二二一、四二八
一九一一年	二二七、一二九
一九一二年	二二五、八九九
一九一三年	二二七、五二〇
一九一四年	一七七、二四七
一九一五年	一八九、四五四

年代	產額
一九一六年	一七四、六三二
一九一七年	一七九、八九〇
一九一八年	二〇三、四二八
一九一九年	一七九、九三二
一九二〇年	一七三、三四五
一九二一年	一七一、五八一
一九二二年	二〇九、八二九
一九二三年	二四六、二七六
一九二四年	二三九、六八〇
一九二五年	二四五、二八〇
一九二六年	二五三、八〇六
一九二七年	二五一、三九七
一九二八年	二五七、九二五
一九二九年	二六〇、九七〇
一九三〇年	二四八、七〇八
一九三一年	一九五、九二〇
一九三二年	一六四、七五七
一九三三年	一六三、〇〇〇
一九三四年	一八一、二〇〇
一九三五年	二〇六、五〇〇

附錄第四　世界主要銀產國國別額年表

備考、單位千「フアイン、オンス」トス、左括弧內ノ數字ハ世界產額ニ對スル比率「パーセント」ヲ示ス

國名	一四九三—一六〇〇年	一六〇一—一七〇〇年	一七〇一—一八〇〇年
北米合衆國	—	—	—
加奈陀	—	—	—
メキシコ	九〇、四一〇（一一・二〇）	三〇六、六五〇（二四・一〇）	一、〇四四、五一〇（五七・〇〇）
南米	四五三、八二〇（六〇・七六）	八〇〇、五七〇（六二・九四）	五九八、〇四〇（三二・〇七）
世界合計	七四六、九三二（一〇〇・〇〇）	一、二七一、九二二	一、八三二、七六九

國名	一八〇一—一八五〇年	一八五一—一八六〇年	一八六一—一八七〇年
北米合衆國	四二六（〇・〇四）	五〇三（〇・一七）	七七、九二四（一九・四五）
加奈陀	—	—	一七〇（〇・〇四）
メキシコ	六〇五、〇五〇（五六・八五）	一四六、九二〇（四八・八八）	一五九、七八〇（三九・八七）
南米	三〇四、六八〇（二八・六三）	八七、四七九（二九・一〇）	八三、七一六（二〇・九〇）
世界合計	一、〇六四、二六一	三〇〇、五七一	四〇〇、六四九

國名			
北米合衆國	一九七一年	一九七二年	一九七三年
加奈陀	一九七四	一九七五	一九七六
メキシコ	一九七七	一九七八	一九七九
南米	一九八〇	一九八一	一九八二
世界合計	一九八三	一九八四	一九八五

國名			
北米合衆國	一九八六年	一九八七年	一九八八年
加奈陀	一九八九	一九九〇	一九九一
メキシコ	一九九二	一九九三	一九九四
南米	一九九五	一九九六	一九九七
世界合計	一九九八	一九九九	二〇〇〇年

國名			
北米合衆國	二〇〇一年	二〇〇二年	二〇〇三年
加奈陀	二〇〇四	二〇〇五	二〇〇六
メキシコ	二〇〇七	二〇〇八	二〇〇九
南米	二〇一〇	二〇一一	二〇一二
世界合計	二〇一三	二〇一四	二〇一五年

國名			
北米合衆國	二〇一六年	二〇一七年	二〇一八年
加奈陀	二〇一九	二〇二〇	二〇二一
メキシコ	二〇二二	二〇二三	二〇二四
南米	二〇二五	二〇二六	二〇二七
世界合計	二〇二八	二〇二九	二〇三〇年

國名			
北米合衆國	一九七一年	一九七二年	一九七三年
加奈陀	一九七四	一九七五	一九七六
メキシコ	一九七七	一九七八	一九七九
南米	一九八〇	一九八一	一九八二
世界合計	一九八三	一九八四	一九八五

國名			
北米合衆國	一九八六年	一九八七年	一九八八年
加奈陀	一九八九	一九九〇	一九九一
メキシコ	一九九二	一九九三	一九九四
南米	一九九五	一九九六	一九九七
世界合計	一九九八	一九九九	二〇〇〇年

國名			
北米合衆國	二〇〇一年	二〇〇二年	二〇〇三年
加奈陀	二〇〇四	二〇〇五	二〇〇六
メキシコ	二〇〇七	二〇〇八	二〇〇九
南米	二〇一〇	二〇一一	二〇一二
世界合計	二〇一三	二〇一四	二〇一五年

國名			
北米合衆國	二〇一六年	二〇一七年	二〇一八年
加奈陀	二〇一九	二〇二〇	二〇二一
メキシコ	二〇二二	二〇二三	二〇二四
南米	二〇二五	二〇二六	二〇二七
世界合計	二〇二八	二〇二九	二〇三〇年

附錄第五　世界銀生產額各地域別表（一四九二―一九二七）

備考　單位千「ファインオンス」、比率ハ世界生產額ニ對スル各地域別生產額ノ百分率ヲ示ス
期間ハ年數ヲ示ス

年代	期間	世界生產額	北米	南米	歐洲	亞細亞	アフリカ	大洋洲	其他
一四九二―一六〇〇年	一〇八	七四六、九三二	二パーセント・一〇	六〇・七六	三三・七九	三・三五	一	一	一
一六〇一―一七〇〇年	一〇〇	一、三七一、九三二	三四・一一	六二・九四	七・〇五	五・九〇	一	一	一
一七〇一―一八〇〇年	一〇〇	一、八三三、七六九	五七・〇〇	三三・六三	一〇・三二	〇・〇五	一	一	一
一八〇一―一八五〇年	五〇	一、〇六四、三六一	五六・八九	二八・六三	一四・四三	〇・〇五	一		一
一八五一―一九〇〇年	五〇	四、〇三四、一九〇	六五・六〇	一七・一六	一三・三〇	〇・九七	〇・〇六	三・九一	
一九〇一―一九二五年	二五	四、九〇一、三四七	七四・九七	八・四八	六・三六	三・四九	〇・六二	六・三六	〇・〇〇
一九二六―一九二七年	二	五〇五、一〇三	七四・七三	一一・三五	四・五四	五・二〇	〇・五一	三・六七	一

附錄第六　銀及他金屬ノ生産增加率比較表

一、銀ト他ノ金屬トノ世界産額增加率比較表

備考　比率(「パーセント」)ハ直前ノ十ケ年ニ對スル同種金屬ノ比較增減率ヲ示ス(－)ハ減トス

年代	銀		金		銅		鉛		亞鉛	
一八〇一―一八二〇年	三九・五	(－)	三四・八	(－)	三六・六	(－)	三四・八	(－)	一四二・六	
一八二一―一八三〇年	一一・四	(－)	一二・八		四五・一		一二・八		五九五・一	
一八三一―一八四〇年	二八・五		四〇・二		三三・三		四〇・二		五三・五	
一八四一―一八五〇年	二八・四		一六〇・二		三五・五		一六〇・二		一四三・四	
一八五一―一八六〇年	一八・六		二七七・二		五三・七		二七七・二		一一二・八	
一八六一―一八七〇年	三三・三		五一・四	(－)	四六・一	(－)	五・四		六六・二	
一八七一―一八八〇年	七七・三		二三・九	(－)	三九・八	(－)	七・四		五五・八	
一八八一―一八九〇年	四〇・九		七四・八	(－)	四〇・一	(－)	七・四		六五・三	
一八九一―一九〇〇年	六二・一		六六・七		五〇・五		九四・〇		三九・七	
一九〇一―一九一〇年	一二・八		八三・八		三七・五		八〇・九		五七・六	
一九一一―一九二〇年	七・〇		五九・八		一一・六		一二・三		三〇・八	
平均增加率	二三・五		五二・八		四六・七		五七・五		一二三・九	

二、金銀平均年産額價格表

備考　一八九〇年迄ハ單位磅、以後ハ單位千馬克トス

年次	金平均年産額	全産額ニ對スル金産額ノ割合	同銀産額ノ割合	銀平均年産額	全産額ニ對スル金産額ノ割合	同銀産額ノ割合
一四九三―一五二〇年	八〇〇、〇〇〇磅	五七・〇	四三・〇	六〇〇、〇〇〇磅	五七・〇	四三・〇
一五二一―一五四五年	一、〇〇〇、〇〇〇	四七・〇	五三・〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四七・〇	五三・〇
一五四五―一五六〇年	一、二〇〇、〇〇〇	二三・六	七六・四	三、八五〇、〇〇〇	二三・六	七六・四
一五六〇―一五八〇年	八五五、〇〇〇	一七・二	七九・二	三、六四〇、〇〇〇	二〇・八	七九・二
一五八一―一六〇〇年	一、〇三〇、〇〇〇	一七・二	八二・八	四、九四五、〇〇〇	一七・二	八二・八
一六〇一―一六二〇年	一、一九〇、〇〇〇	一九・八	八〇・二	四、八二〇、〇〇〇	一九・八	八〇・二
一六二一―一六四〇年	一、一五七、八五〇	二二・八	七七・二	三、九一六、三〇〇	二二・八	七七・二
一六四一―一六六〇年	一、二二三、四〇〇	二五・八	七四・二	三、五一六、五〇〇	二五・八	七四・二
一六六一―一六八〇年	一、二九一、七五〇	二九・二	七〇・七	三、一三四、一五〇	二九・二	七〇・七
一六八一―一七〇〇年	一、五〇一、七〇〇	三一・一	六七・九	三、一七九、六五〇	三一・一	六七・九
一七〇一―一七二〇年	一、七八八、四〇〇	三五・五	六四・五	三、二五三、七五〇	三五・五	六四・五
一七二一―一七四〇年	二、六六一、六五〇	四〇・〇	六〇・〇	三、九八八、六〇〇	四〇・〇	六〇・〇
一七四一―一七六〇年	三、四三三、一〇〇	四〇・五	五九・五	五、〇三八、二〇〇	四〇・五	五九・五
一七六一―一七八〇年	二、八八八、三五〇	三一・八	六八・二	六、二〇一、五五〇	三一・八	六八・二
一七八一―一八〇〇年	二、四八一、七〇〇	二三・四	七六・六	八、一三一、三〇〇	二三・四	七六・六

一八〇一―一八一〇年	二、四八〇、〇〇〇	八、〇〇二、六五〇	二三・七
一八一一―一八二〇年	一、五九六、一〇〇	四、九六六、九五〇	二四・七
一八二一―一八三〇年	一、九八三、一五〇	四、〇七五、九五〇	三二・四
一八三一―一八四〇年	二、三八〇、三〇〇	五、二七八、六〇〇	三四・五
一八四一―一八五〇年	七、六三八、八〇〇	六、八六七、六五〇	五二・一
一八五一―一八五五年	二七、八一五、四〇〇	八、〇一九、三五〇	七七、六
一八五六―一八六〇年	二八、一四九、九五〇	八、二三五、九五〇	七七・四
一八六一―一八六五年	二五、八一六、三〇〇	九、九六五、四〇〇	七二・一
一八六六―一八七〇年	二七、二五六、九五〇	一一、九八四、八〇〇	六九・四
一八七一―一八七五年	二四、二五〇、〇〇〇	一七、二五〇、〇〇〇	五八・五
一八七六―一八八〇年	二四、〇六〇、〇〇〇	一九、一〇〇、〇〇〇	五五・九
一八八一―一八八五年	二一、六三〇、〇〇〇	二一、〇四〇、〇〇〇	五〇・七
一八八六―一八九〇年	二三、二八二、〇〇〇	二三、八九四、〇〇〇	四九・三
一八九一―一八九五年	六八四、〇〇〇千萬兌	五五四、二〇〇千萬兌	五五・二
一八九六―一九〇〇年	一、〇八二、二〇〇	五三二、八〇〇	六七・一
一九〇一―一九〇五年	一、三二九、七〇〇	四〇二、八〇〇	七六・七
一九〇六―一九一〇年	一、七〇三、七〇〇	四一八、五〇〇	八〇・三
一九一一―一九一五年	一、八一三、一〇〇	四七〇、三〇〇	七九・四

附錄第七　世界銀保有高概算表

備考　一九三四年末現在單位千「フアイン、オンス」トス實際ノ計數ハ之ヨリ巨額ナモノト想像セラル
一九三四年五月米國下院ニ於ケル銀購買法案ノ「ヒヤリングス」ニ於テハ世界保有銀總額ハ九十四億
乃至百億「オンス」（銀貨、銀塊、銀器ヲ含ム）見當ト推算ス

一、印　度		
政府所有銀貨	九七八、〇〇〇、〇〇〇	「ルピー」
流通銀貨	二、四二二、〇〇〇、〇〇〇	同
計	三、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	同
同上重量	一、一七〇、〇〇〇	千「オンス」
私藏銀	三、三〇〇、〇〇〇	同
合　計	四、四七〇、〇〇〇	同
二、支　那		
在上海支那銀行保有銀	二八〇、三二五、〇〇〇	元
同　外國銀行保有銀	五四、六七二、〇〇〇	同

計	三三四、九九七、〇〇〇	同
同上重量	二五三、〇六二	千「オンス」
奥地在銀	一、二五〇、〇〇〇	同
合計	一、五〇三、〇六二	同
三、米國		
政府保有銀*	九九一、二〇〇	千「オンス」
流通銀貨	二一七、〇〇〇	同
市場銀塊	三〇、〇〇〇	同
合計	一、二三八、二〇〇	同
四、其ノ他		
西班牙保有銀	一五〇、〇〇〇	千「オンス」
其ノ他ノ諸國保有銀	二、三〇〇、〇〇〇	同
倫敦市場銀塊	四五、〇〇〇	同
新產銀年額	一八一、二〇〇	同

合計	二、六二六、二〇〇	同
世界銀保有高總計	九、八三七、四六二	同

* 一九三五年十二月三十一日現在米國政府保有銀ハ十五億三千五百萬「オンス」ト推算ス

附錄第八　北米合衆國銀消費額最近年表

備考　單位「ファイン、オンス」トス

年次	新原料	舊原料	總計
一九二三年	二八、三五五、一七一	八、四六九、八〇六	三六、八二四、九七七
一九二四年	二四、六六四、二三六	八、九三〇、五八〇	三三、五九四、八一六
一九二五年	二九、九二九、一六三	九、八九七、四一六	三九、八二六、五七九
一九二六年	二九、四〇七、六〇一	一〇、〇〇〇、七九二	三九、四〇八、三九三
一九二七年	二八、四九三、二九〇	一〇、一五五、四二七	三八、六四八、七一七
一九二八年	二四、九三一、二八三	一〇、〇一六、三八〇	三五、五四七、六六三
一九二九年	三〇、九七七、五五九	一一、三八一、五二三	四二、三五九、〇八二
一九三〇年	二六、八七四、三七八	九、四六八、八二九	三六、三四三、二〇七
一九三一年	二四、三三五、八三八	九、三四六、二八一	三三、六八二、一一九
一九三二年	一四、四六一、〇一一	九、七九六、九五六	二四、二五七、九六七

附錄第九　支那及印度ニ於ケル銀ノ純輸出入額年表

一、支那ニ於ケル銀ノ純輸出入年表

備考、鑄貨、條銀及馬蹄銀ノ輸出入「パヲンス」ヲ示ス　(一)ハ純輸出額トス　單位千海關兩トス　但一九三一年度ハ千銀元トス

年別	純輸出入額
一九〇〇年	一五、四四五
一九〇一年	(一)六、〇九八
一九〇二年	(一)一三、八四五
一九〇三年	(一)六、〇四五
一九〇四年	(一)一三、六一〇
一九〇五年	(一)七、一九六
一九〇六年	(一)一八、六七八
一九〇七年	(一)三一、二〇八
一九〇八年	(一)一二、二六七
一九〇九年	六、八四一
一九一〇年	二一、七九五
一九一一年	三八、三〇六
一九一二年	一九、二四九
一九一三年	三五、九六八
一九一四年	(一)一三、六二三
一九一五年	(一)一八、三八二
一九一六年	(一)二八、六七八
一九一七年	(一)二〇、九八三
一九一八年	二三、四九五
一九一九年	五三、一二五
一九二〇年	九二、六三九
一九二一年	三二、四三一

年	別	純輸出入額
一九一二年	(一)	三五九,二一三
一九一三年		四五四,一〇八
一九一四年		三五四,三四一
一九一五年		二一三,九一二
一九一六年		一三九,一一二
一九一七年		一一八,三六
一九一八年		一一三,一六
一九一九年		一一八,八二一
一九二〇年		一一三,一一四
一九二一年		一一八,一一三
一九二二年		一一九,一一三
一九二三年		一一九,一一三
一九二四年	(一)	一一八,一二三
一九二五年		一一九,一一三
一九二六年		一一九,一一三
一九二七年		一一九,一一三
一九二八年		一一九,一一三
一九二九年		一一九,一一三
一九三〇年		一一九,一一三
一九三一年		一一九,一一三
一九三二年		一一九,一一三
一九三三年		一一九,一一三
一九三四年		一一九,一一三
一九三五年		一一九,一一三
一九三六年		一一九,一一三
一九三七年		一一九,一一三
一九三八年		一一九,一一三
一九三九年		一一九,一一三
一九四〇年		一一九,一一三
一九四一年		一一九,一一三
一九四二年		一一九,一一三
一九四三年		一一九,一一三
一九四四年		一一九,一一三
一九四五年		一一九,一一三
一九四六年		一一九,一一三
一九四七年		一一九,一一三
一九四八年		一一九,一一三
一九四九年		一一九,一一三
一九五〇年		一一九,一一三
一九五一年		一一九,一一三
一九五二年		一一九,一一三
一九五三年		一一九,一一三
一九五四年		一一九,一一三
一九五五年		一一九,一一三
一九五六年		一一九,一一三
一九五七年		一一九,一一三
一九五八年		一一九,一一三
一九五九年		一一九,一一三
一九六〇年		一一九,一一三
一九六一年		一一九,一一三
一九六二年		一一九,一一三
一九六三年		一一九,一一三
一九六四年		一一九,一一三
一九六五年		一一九,一一三
一九六六年		一一九,一一三
一九六七年		一一九,一一三
一九六八年		一一九,一一三
一九六九年		一一九,一一三
一九七〇年		一一九,一一三
一九七一年		一一九,一一三
一九七二年		一一九,一一三
一九七三年		一一九,一一三
一九七四年		一一九,一一三
一九七五年		一一九,一一三
一九七六年		一一九,一一三
一九七七年		一一九,一一三
一九七八年		一一九,一一三
一九七九年		一一九,一一三
一九八〇年		一一九,一一三
一九八一年		一一九,一一三
一九八二年		一一九,一一三
一九八三年		一一九,一一三
一九八四年		一一九,一一三
一九八五年		一一九,一一三
一九八六年		一一九,一一三
一九八七年		一一九,一一三
一九八八年		一一九,一一三
一九八九年		一一九,一一三
一九九〇年		一一九,一一三
一九九一年		一一九,一一三
一九九二年		一一九,一一三
一九九三年		一一九,一一三
一九九四年		一一九,一一三
一九九五年		一一九,一一三
一九九六年		一一九,一一三
一九九七年		一一九,一一三
一九九八年		一一九,一一三
一九九九年		一一九,一一三
二〇〇〇年		一一九,一一三
二〇〇一年		一一九,一一三
二〇〇二年		一一九,一一三
二〇〇三年		一一九,一一三
二〇〇四年		一一九,一一三
二〇〇五年		一一九,一一三
二〇〇六年		一一九,一一三
二〇〇七年		一一九,一一三
二〇〇八年		一一九,一一三
二〇〇九年		一一九,一一三
二〇一〇年		一一九,一一三
二〇一一年		一一九,一一三
二〇一二年		一一九,一一三
二〇一三年		一一九,一一三
二〇一四年		一一九,一一三
二〇一五年		一一九,一一三
二〇一六年		一一九,一一三
二〇一七年		一一九,一一三
二〇一八年		一一九,一一三
二〇一九年		一一九,一一三
二〇二〇年		一一九,一一三
二〇二一年		一一九,一一三
二〇二二年		一一九,一一三
二〇二三年		一一九,一一三
二〇二四年		一一九,一一三
二〇二五年		一一九,一一三
二〇二六年		一一九,一一三
二〇二七年		一一九,一一三
二〇二八年		一一九,一一三
二〇二九年		一一九,一一三
二〇三〇年		一一九,一一三
二〇三一年		一一九,一一三
二〇三二年		一一九,一一三
二〇三三年		一一九,一一三
二〇三四年		一一九,一一三
二〇三五年		一一九,一一三
二〇三六年		一一九,一一三
二〇三七年		一一九,一一三
二〇三八年		一一九,一一三
二〇三九年		一一九,一一三
二〇四〇年		一一九,一一三
二〇四一年		一一九,一一三
二〇四二年		一一九,一一三
二〇四三年		一一九,一一三
二〇四四年		一一九,一一三
二〇四五年		一一九,一一三
二〇四六年		一一九,一一三
二〇四七年		一一九,一一三
二〇四八年		一一九,一一三
二〇四九年		一一九,一一三
二〇五〇年		一一九,一一三
二〇五一年		一一九,一一三
二〇五二年		一一九,一一三
二〇五三年		一一九,一一三
二〇五四年		一一九,一一三
二〇五五年		一一九,一一三
二〇五六年		一一九,一一三
二〇五七年		一一九,一一三
二〇五八年		一一九,一一三
二〇五九年		一一九,一一三
二〇六〇年		一一九,一一三
二〇六一年		一一九,一一三
二〇六二年		一一九,一一三
二〇六三年		一一九,一一三
二〇六四年		一一九,一一三
二〇六五年		一一九,一一三
二〇六六年		一一九,一一三
二〇六七年		一一九,一一三
二〇六八年		一一九,一一三
二〇六九年		一一九,一一三
二〇七〇年		一一九,一一三
二〇七一年		一一九,一一三
二〇七二年		一一九,一一三
二〇七三年		一一九,一一三
二〇七四年		一一九,一一三
二〇七五年		一一九,一一三
二〇七六年		一一九,一一三
二〇七七年		一一九,一一三
二〇七八年		一一九,一一三
二〇七九年		一一九,一一三
二〇八〇年		一一九,一一三
二〇八一年		一一九,一一三
二〇八二年		一一九,一一三
二〇八三年		一一九,一一三
二〇八四年		一一九,一一三
二〇八五年		一一九,一一三
二〇八六年		一一九,一一三
二〇八七年		一一九,一一三
二〇八八年		一一九,一一三
二〇八九年		一一九,一一三
二〇九〇年		一一九,一一三
二〇九一年		一一九,一一三
二〇九二年		一一九,一一三
二〇九三年		一一九,一一三
二〇九四年		一一九,一一三
二〇九五年		一一九,一一三
二〇九六年		一一九,一一三
二〇九七年		一一九,一一三
二〇九八年		一一九,一一三
二〇九九年		一一九,一一三
三〇〇〇年		一一九,一一三
三〇〇一年		一一九,一一三
三〇〇二年		一一九,一一三
三〇〇三年		一一九,一一三
三〇〇四年		一一九,一一三
三〇〇五年		一一九,一一三
三〇〇六年		一一九,一一三
三〇〇七年		一一九,一一三
三〇〇八年		一一九,一一三
三〇〇九年		一一九,一一三
三〇一〇年		一一九,一一三
三〇一一年		一一九,一一三
三〇一二年		一一九,一一三
三〇一三年		一一九,一一三
三〇一四年		一一九,一一三
三〇一五年		一一九,一一三
三〇一六年		一一九,一一三
三〇一七年		一一九,一一三
三〇一八年		一一九,一一三
三〇一九年		一一九,一一三
三〇二〇年		一一九,一一三
三〇二一年		一一九,一一三
三〇二二年		一一九,一一三
三〇二三年		一一九,一一三
三〇二四年		一一九,一一三
三〇二五年		一一九,一一三
三〇二六年		一一九,一一三
三〇二七年		一一九,一一三
三〇二八年		一一九,一一三
三〇二九年		一一九,一一三
三〇三〇年		一一九,一一三
三〇三一年		一一九,一一三
三〇三二年		一一九,一一三
三〇三三年		一一九,一一三
三〇三四年		一一九,一一三
三〇三五年		一一九,一一三
三〇三六年		一一九,一一三
三〇三七年		一一九,一一三
三〇三八年		一一九,一一三
三〇三九年		一一九,一一三
三〇四〇年		一一九,一一三
三〇四一年		一一九,一一三
三〇四二年		一一九,一一三
三〇四三年		一一九,一一三
三〇四四年		一一九,一一三
三〇四五年		一一九,一一三
三〇四六年		一一九,一一三
三〇四七年		一一九,一一三
三〇四八年		一一九,一一三
三〇四九年		一一九,一一三
三〇五〇年		一一九,一一三
三〇五一年		一一九,一一三
三〇五二年		一一九,一一三
三〇五三年		一一九,一一三
三〇五四年		一一九,一一三
三〇五五年		一一九,一一三
三〇五六年		一一九,一一三
三〇五七年		一一九,一一三
三〇五八年		一一九,一一三
三〇五九年		一一九,一一三
三〇六〇年		一一九,一一三
三〇六一年		一一九,一一三
三〇六二年		一一九,一一三
三〇六三年		一一九,一一三
三〇六四年		一一九,一一三
三〇六五年		一一九,一一三
三〇六六年		一一九,一一三
三〇六七年		一一九,一一三
三〇六八年		一一九,一一三
三〇六九年		一一九,一一三
三〇七〇年		一一九,一一三
三〇七一年		一一九,一一三
三〇七二年		一一九,一一三
三〇七三年		一一九,一一三
三〇七四年		一一九,一一三
三〇七五年		一一九,一一三
三〇七六年		一一九,一一三
三〇七七年		一一九,一一三
三〇七八年		一一九,一一三
三〇七九年		一一九,一一三
三〇八〇年		一一九,一一三
三〇八一年		一一九,一一三
三〇八二年		一一九,一一三
三〇八三年		一一九,一一三
三〇八四年		一一九,一一三
三〇八五年		一一九,一一三
三〇八六年		一一九,一一三
三〇八七年		一一九,一一三
三〇八八年		一一九,一一三
三〇八九年		一一九,一一三
三〇九〇年		一一九,一一三
三〇九一年		一一九,一一三
三〇九二年		一一九,一一三
三〇九三年		一一九,一一三
三〇九四年		一一九,一一三
三〇九五年		一一九,一一三
三〇九六年		一一九,一一三
三〇九七年		一一九,一一三
三〇九八年		一一九,一一三
三〇九九年		一一九,一一三
四〇〇〇年		一一九,一一三
四〇〇一年		一一九,一一三
四〇〇二年		一一九,一一三
四〇〇三年		一一九,一一三
四〇〇四年		一一九,一一三
四〇〇五年		一一九,一一三
四〇〇六年		一一九,一一三
四〇〇七年		一一九,一一三
四〇〇八年		一一九,一一三
四〇〇九年		一一九,一一三
四〇一〇年		一一九,一一三
四〇一一年		一一九,一一三
四〇一二年		一一九,一一三
四〇一三年		一一九,一一三
四〇一四年		一一九,一一三
四〇一五年		一一九,一一三
四〇一六年		一一九,一一三
四〇一七年		一一九,一一三
四〇一八年		一一九,一一三
四〇一九年		一一九,一一三
四〇二〇年		一一九,一一三
四〇二一年		一一九,一一三
四〇二二年		一一九,一一三
四〇二三年		一一九,一一三
四〇二四年		一一九,一一三
四〇二五年		一一九,一一三
四〇二六年		一一九,一一三
四〇二七年		一一九,一一三
四〇二八年		一一九,一一三
四〇二九年		一一九,一一三
四〇三〇年		一一九,一一三
四〇三一年		一一九,一一三
四〇三二年		一一九,一一三
四〇三三年		一一九,一一三
四〇三四年		一一九,一一三
四〇三五年		一一九,一一三
四〇三六年		一一九,一一三
四〇三七年		一一九,一一三
四〇三八年		一一九,一一三
四〇三九年		一一九,一一三
四〇四〇年		一一九,一一三
四〇四一年		一一九,一一三
四〇四二年		一一九,一一三
四〇四三年		一一九,一一三
四〇四四年		一一九,一一三
四〇四五年		一一九,一一三
四〇四六年		一一九,一一三
四〇四七年		一一九,一一三
四〇四八年		一一九,一一三
四〇四九年		一一九,一一三
四〇五〇年		一一九,一一三
四〇五一年		一一九,一一三
四〇五二年		一一九,一一三
四〇五三年		一一九,一一三
四〇五四年		一一九,一一三
四〇五五年		一一九,一一三
四〇五六年		一一九,一一三
四〇五七年		一一九,一一三
四〇五八年		一一九,一一三
四〇五九年		一一九,一一三
四〇六〇年		一一九,一一三
四〇六一年		一一九,一一三
四〇六二年		一一九,一一三
四〇六三年		一一九,一一三
四〇六四年		一一九,一一三
四〇六五年		一一九,一一三
四〇六六年		一一九,一一三
四〇六七年		一一九,一一三
四〇六八年		一一九,一一三
四〇六九年		一一九,一一三
四〇七〇年		一一九,一一三
四〇七一年		一一九,一一三
四〇七二年		一一九,一一三
四〇七三年		一一九,一一三
四〇七四年		一一九,一一三
四〇七五年		一一九,一一三
四〇七六年		一一九,一一三
四〇七七年		一一九,一一三
四〇七八年		一一九,一一三
四〇七九年		一一九,一一三
四〇八〇年		一一九,一一三
四〇八一年		一一九,一一三
四〇八二年		一一九,一一三
四〇八三年		一一九,一一三
四〇八四年		一一九,一一三
四〇八五年		一一九,一一三
四〇八六年		一一九,一一三
四〇八七年		一一九,一一三
四〇八八年		一一九,一一三
四〇八九年		一一九,一一三
四〇九〇年		一一九,一一三
四〇九一年		一一九,一一三
四〇九二年		一一九,一一三
四〇九三年		一一九,一一三
四〇九四年		一一九,一一三
四〇九五年		一一九,一一三
四〇九六年		一一九,一一三
四〇九七年		一一九,一一三
四〇九八年		一一九,一一三
四〇九九年		一一九,一一三
四一〇〇年		一一九,一一三
四一〇一年		一一九,一一三
四一〇二年		一一九,一一三
四一〇三年		一一九,一一三
四一〇四年		一一九,一一三
四一〇五年		一一九,一一三
四一〇六年		一一九,一一三
四一〇七年		一一九,一一三
四一〇八年		一一九,一一三
四一〇九年		一一九,一一三
四一一〇年		一一九,一一三
四一一一年		一一九,一一三
四一一二年		一一九,一一三
四一一三年		一一九,一一三
四一一四年		一一九,一一三
四一一五年		一一九,一一三
四一一六年		一一九,一一三
四一一七年		一一九,一一三
四一一八年		一一九,一一三
四一一九年		一一九,一一三
四一二〇年		一一九,一一三
四一二一年		一一九,一一三
四一二二年		一一九,一一三
四一二三年		一一九,一一三
四一二四年		一一九,一一三
四一二五年		一一九,一一三
四一二六年		一一九,一一三
四一二七年		一一九,一一三
四一二八年		一一九,一一三
四一二九年		一一九,一一三
四一三〇年		一一九,一一三
四一三一年		一一九,一一三
四一三二年		一一九,一一三
四一三三年		一一九,一一三
四一三四年		一一九,一一三
四一三五年		一一九,一一三
四一三六年		一一九,一一三
四一三七年		一一九,一一三
四一三八年		一一九,一一三
四一三九年		一一九,一一三
四一四〇年		一一九,一一三
四一四一年		一一九,一一三
四一四二年		一一九,一一三
四一四三年		一一九,一一三
四一四四年		一一九,一一三
四一四五年		一一九,一一三
四一四六年		一一九,一一三
四一四七年		一一九,一一三
四一四八年		一一九,一一三
四一四九年		一一九,一一三
四一五〇年		一一九,一一三
四一五一年		一一九,一一三
四一五二年		一一九,一一三
四一五三年		一一九,一一三
四一五四年		一一九,一一三
四一五五年		一一九,一一三
四一五六年		一一九,一一三
四一五七年		一一九,一一三
四一五八年		一一九,一一三
四一五九年		一一九,一一三
四一六〇年		一一九,一一三
四一六一年		一一九,一一三
四一六二年		一一九,一一三
四一六三年		一一九,一一三
四一六四年		一一九,一一三
四一六五年		一一九,一一三
四一六六年		一一九,一一三
四一六七年		一一九,一一三
四一六八年		一一九,一一三
四一六九年		一一九,一一三
四一七〇年		一一九,一一三
四一七一年		一一九,一一三
四一七二年		一一九,一一三
四一七三年		一一九,一一三
四一七四年		一一九,一一三
四一七五年		一一九,一一三
四一七六年		一一九,一一三
四一七七年		一一九,一一三
四一七八年		一一九,一一三
四一七九年		一一九,一一三
四一八〇年		一一九,一一三
四一八一年		一一九,一一三
四一八二年		一一九,一一三
四一八三年		一一九,一一三
四一八四年		一一九,一一三
四一八五年		一一九,一一三
四一八六年		一一九,一一三
四一八七年		一一九,一一三
四一八八年		一一九,一一三
四一八九年		一一九,一一三
四一九〇年		一一九,一一三
四一九一年		一一九,一一三
四一九二年		一一九,一一三
四一九三年		一一九,一一三
四一九四年		一一九,一一三
四一九五年		一一九,一一三
四一九六年		一一九,一一三
四一九七年		一一九,一一三
四一九八年		一一九,一一三
四一九九年		一一九,一一三
四二〇〇年		一一九,一一三
四二〇一年		一一九,一一三
四二〇二年		一一九,一一三
四二〇三年		一一九,一一三
四二〇四年		一一九,一一三
四二〇五年		一一九,一一三
四二〇六年		一一九,一一三
四二〇七年		一一九,一一三
四二〇八年		一一九,一一三
四二〇九年		一一九,一一三
四二一〇年		一一九,一一三
四二一一年		一一九,一一三
四二一二年		一一九,一一三
四二一三年		一一九,一一三
四二一四年		一一九,一一三
四二一五年		一一九,一一三
四二一六年		一一九,一一三
四二一七年		一一九,一一三
四二一八年		一一九,一一三
四二一九年		一一九,一一三
四二二〇年		一一九,一一三
四二二一年		一一九,一一三
四二二二年		一一九,一一三
四二二三年		一一九,一一三
四二二四年		一一九,一一三
四二二五年		一一九,一一三
四二二六年		一一九,一一三
四二二七年		一一九,一一三
四二二八年		一一九,一一三
四二二九年		一一九,一一三
四二三〇年		一一九,一一三
四二三一年		一一九,一一三
四二三二年		一一九,一一三
四二三三年		一一九,一一三
四二三四年		一一九,一一三
四二三五年		一一九,一一三
四二三六年		一一九,一一三
四二三七年		一一九,一一三
四二三八年		一一九,一一三
四二三九年		一一九,一一三
四二四〇年		一一九,一一三
四二四一年		一一九,一一三
四二四二年		一一九,一一三
四二四三年		一一九,一一三
四二四四年		一一九,一一三
四二四五年		一一九,一一三
四二四六年		一一九,一一三
四二四七年		一一九,一一三
四二四八年		一一九,一一三
四二四九年		一一九,一一三
四二五〇年		一一九,一一三
四二五一年		一一九,一一三
四二五二年		一一九,一一三
四二五三年		一一九,一一三
四二五四年		一一九,一一三
四二五五年		一一九,一一三
四二五六年		一一九,一一三
四二五七年		一一九,一一三
四二五八年		一一九,一一三
四二五九年		一一九,一一三
四二六〇年		一一九,一一三
四二六一年		一一九,一一三
四二六二年		一一九,一一三
四二六三年		一一九,一一三
四二六四年		一一九,一一三
四二六五年		一一九,一一三
四二六六年		一一九,一一三
四二六七年		一一九,一一三
四二六八年		一一九,一一三
四二六九年		一一九,一一三
四二七〇年		一一九,一一三
四二七一年		一一九,一一三
四二七二年		一一九,一一三
四二七三年		一一九,一一三
四二七四年		一一九,一一三
四二七五年		一一九,一一三
四二七六年		一一九,一一三
四二七七年		一一九,一一三
四二七八年		一一九,一一三
四二七九年		一一九,一一三
四二八〇年		一一九,一一三
四二八一年		一一九,一一三
四二八二年		一一九,一一三
四二八三年		一一九,一一三
四二八四年		一一九,一一三
四二八五年		一一九,一一三
四二八六年		一一九,一一三
四二八七年		一一九,一一三
四二八八年		一一九,一一三
四二八九年		一一九,一一三
四二九〇年		一一九,一一三
四二九一年		一一九,一一三
四二九二年		一一九,一一三
四二九三年		一一九,一一三
四二九四年		一一九,一一三
四二九五年		一一九,一一三
四二九六年		一一九,一一三
四二九七年		一一九,一一三
四二九八年		一一九,一一三
四二九九年		一一九,一一三
四三〇〇年		一一九,一一三
四三〇一年		一一九,一一三
四三〇二年		一一九,一一三
四三〇三年		一一九,一一三
四三〇四年		一一九,一一三
四三〇五年		一一九,一一三
四三〇六年		一一九,一一三
四三〇七年		一一九,一一三
四三〇八年		一一九,一一三
四三〇九年		一一九,一一三
四三一〇年		一一九,一一三
四三一一年		一一九,一一三
四三一二年		一一九,一一三
四三一三年		一一九,一一三
四三一四年		一一九,一一三
四三一五年		一一九,一一三
四三一六年		一一九,一一三
四三一七年		一一九,一一三
四三一八年		一一九,一一三
四三一九年		一一九,一一三
四三二〇年		一一九,一一三
四三二一年		一一九,一一三
四三二二年		一一九,一一三
四三二三年		一一九,一一三
四三二四年		一一九,一一三
四三二五年		一一九,一一三
四三二六年		一一九,一一三
四三二七年		一一九,一一三
四三二八年		一一九,一一三
四三二九年		一一九,一一三
四三三〇年		一一九,一一三
四三三一年		一一九,一一三
四三三二年		一一九,一一三
四三三三年		一一九,一一三
四三三四年		一一九,一一三
四三三五年		一一九,一一三
四三三六年		一一九,一一三
四三三七年		一一九,一一三
四三三八年		一一九,一一三
四三三九年		一一九,一一三
四三四〇年		一一九,一一三
四三四一年		一一九,一一三
四三四二年		一一九,一一三
四三四三年		一一九,一一三
四三四四年		一一九,一一三
四三四五年		一一九,一一三
四三四六年		一一九,一一三
四三四七年		一一九,一一三
四三四八年		一一九,一一三
四三四九年		一一九,一一三
四三五〇年		一一九,一一三
四三五一年		一一九,一一三
四三五二年		一一九,一一三
四三五三年		一一九,一一三
四三五四年		一一九,一一三
四三五五年		一一九,一一三
四三五六年		一一九,一一三
四三五七年		一一九,一一三
四三五八年		一一九,一一三
四三五九年		一一九,一一三
四三六〇年		一一九,一一三
四三六一年		一一九,一一三
四三六二年		一一九,一一三
四三六三年		一一九,一一三
四三六四年		一一九,一一三
四三六五年		一一九,一一三
四三六六年		一一九,一一三
四三六七年		一一九,一一三
四三六八年		一一九,一一三
四三六九年		一一九,一一三
四三七〇年		一一九,一一三
四三七一年		一一九,一一三
四三七二年		一一九,一一三
四三七三年		一一九,一一三
四三七四年		一一九,一一三
四三七五年		一一九,一一三
四三七六年		一一九,一一三
四三七七年		一一九,一一三
四三七八年		一一九,一一三
四三七九年		一一九,一一三
四三八〇年		一一九,一一三
四三八一年		一一九,一一三
四三八二年		一一九,一一三
四三八三年		一一九,一一三
四三八四年		一一九,一一三
四三八五年		一一九,一一三
四三八六年		一一九,一一三
四三八七年		一一九,一一三
四三八八年		一一九,一一三
四三八九年		一一九,一一三
四三九〇年		一一九,一一三
四三九一年		一一九,一一三
四三九二年		一一九,一一三
四三九三年		一一九,一一三
四三九四年		一一九,一一三
四三九五年		一一九,一一三
四三九六年		一一九,一一三
四三九七年		一一九,一一三
四三九八年		一一九,一一三
四三九九年		一一九,一一三
四四〇〇年		一一九,一一三
四四〇一年		一一九,一一三
四四〇二年		一一九,一一三
四四〇三年		一一九,一一三
四四〇四年		一一九,一一三
四四〇五年		一一九,一一三
四四〇六年		一一九,一一三
四四〇七年		一一九,一一三
四四〇八年		一一九,一一三
四四〇九年		一一九,一一三
四四一〇年		一一九,一一三
四四一一年		一一九,一一三
四四一二年		一一九,一一三
四四一三年		一一九,一一三
四四一四年		一一九,一一三
四四一五年		一一九,一一三
四四一六年		一一九,一一三
四四一七年		一一九,一一三
四四一八年		一一九,一一三
四四一九年		一一九,一一三
四四二〇年		一一九,一一三
四四二一年		一一九,一一三
四四二二年		一一九,一一三
四四二三年		一一九,一一三
四四二四年		一一九,一一三
四四二五年		一一九,一一三
四四二六年		一一九,一一三
四四二七年		一一九,一一三
四四二八年		一一九,一一三
四四二九年		一一九,一一三
四四三〇年		一一九,一一三
四四三一年		一一九,一一三
四四三二年		一一九,一一三
四四三三年		一一九,一一三
四四三四年		一一九,一一三
四四三五年		一一九,一一三
四四三六年		一一九,一一三
四四三七年		一一九,一一三
四四三八年		一一九,一一三
四四三九年		一一九,一一三
四四四〇年		一一九,一一三
四四四一年		一一九,一一三
四四四二年		一一九,一一三
四四四三年		一一九,一一三
四四四四年		一一九,一一三
四四四五年		一一九,一一三
四四四六年		一一九,一一三
四四四七年		一一九,一一三
四四四八年		一一九,一一三
四四四九年		一一九,一一三

附錄第十　世界銀需給高最近年表

備考　單位百萬「フブイン」、オンス」、一九三五年度ハ推定額ヲ示ス、支那輸出ノ部ニハ密輸出ヲ含ム、
鑄貨用ノ部ニハ獨逸、香港、露西亞、和蘭、波蘭、玖馬、白耳義、土耳古、「ユーゴースラビア」、墨
西哥及北米合衆國ニ於ケル鑄貨用ヲ示ス但シ墨西哥及北米合衆國ハ一九三四年度以後ハ政府買入ノ部
中ニ鑄貨用ヲ含ム
△印ハ大部分紐育投機業者ノ保有銀トス

一、供給高

年代	新生産高	印度政府賣却	蘇聯邦賣却	支那輸出	其他諸國廢貨賣却	其他	合計
一九二七年	二五一・四	九・二	—	—	九・二	—	二六九・八
一九二八年	二五七・九	二三・五	—	—	三七・五	—	三一七・九
一九二九年	二六一・〇	三五・〇	—	—	三二・〇	—	三三八・〇
一九三〇年	二四八・七	二九・五	—	—	四二・〇	—	三三〇・二
一九三一年	一九六・〇	三五・〇	—	—	三三・五	—	二六四・五
一九三二年	一六四・八	二四・〇	—	—	二二・六	—	二一一・四
一九三三年	一六三・〇	四七・一	—	—	四五・八	—	二六八・一
一九三四年	一八一・二	三〇・〇	二五・〇	二〇〇・〇	—	—	四三六・二
一九三五年	二〇六・五	三五・〇	一九・〇	一九〇・〇	一一・四	一六〇・六	六二二・五

二、需要高

年代	印度消費	支那消費	獨逸消費	鑄貨用	美術工業用	米國政府買入	其他政府買入	其他	需要合計
一九二七年	九〇・〇	八五・〇	—	二三・二	四〇・〇	—	—	三一・四	二六九・六
一九二八年	八九・〇	一二四・〇	—	二四・四	五九・五	—	—	七・五	三〇四・四
一九二九年	八一・八	一三六・七	—	三七・〇	六三・五	—	—	八・九	三二七・九
一九三〇年	九四・五	一二三・〇	—	二八・一	五三・五	—	—	一九・二	三一八・三
一九三一年	五七・〇	五九・〇	二八・二	二一・一	五六・五	—	—	四〇・五	二六二・三
一九三二年	一二・〇	四〇・〇	二三・八	四七・七	四六・〇	—	—	三八・七	二〇七・二
一九三三年	一〇・〇	—	一四・五	五二・二	四八・〇	—	—	△一四八・三	二七三・〇
一九三四年	一五・〇	—	一二・四	二一・〇	三八・〇	三〇七・一	一〇・六	二一・八	四二九・九
一九三五年	五・〇	—	一二・〇	一七・六	三三・五	五四三・八	一〇・六	—	六二二・五

附錄第十一　支那外國貿易表

一、貿易總額年表（支那海關發表）

備考　單位海關兩

一九三〇年二月以後支那ハ輸入稅ニ對シ海關金單位ヲ採用シタガ玆ニハ便宜ノ爲メ海關兩デ發表セリ、

一九三三年以後ハ單位元トス。一海關兩ハ一・五五八元トス

一九三二年八月以降ハ滿洲國ヲ含マズ

年次	輸入	輸出	合計
一九一九年	六四六、九九二、六八一	六三〇、八〇九、四一一	一、二七七、八〇七、〇九二
一九二〇年	七六二、二五〇、二三〇	五四一、六三一、三〇〇	一、三〇三、八八一、五三〇
一九二一年	九〇六、一二二、四三九	六〇一、二五五、五三七	一、五〇七、三七七、九七六
一九二二年	九四五、〇四九、六五〇	六五四、八九一、九三三	一、五九九、九四二、五八三
一九二三年	九二三、四〇二、八八七	七五二、九一七、四一六	一、六七六、三二〇、三〇三
一九二四年	一、〇一八、二一〇、六七七	七七一、七八四、四六八	一、七八九、九九五、一四五
一九二五年	九四七、八六四、九四四	七七六、三五二、九三七	一、七二四、二一七、八八一
一九二六年	一、一二四、二二一、二五三	八六四、二九四、七七一	一、九八八、五一六、〇二四
一九二七年	一、〇二二、九三一、六二四	九一八、六一九、六六二	一、九三一、五五一、二八六
一九二八年	一、一九五、九六九、二七一	九九一、三五四、九八八	二、一八七、三二四、二五九
一九二九年	一、二六五、七七八、八二一	一、〇一五、六八七、三一八	二、二八一、四六六、一三九
一九三〇年	一、三〇九、七五五、七四二	八九四、八四三、五九四	二、二〇四、五九九、三三六
一九三一年	一、四三三、四八九、一九四	九〇九、四七五、五二五	二、三四二、九六四、七一九
一九三二年	一、〇四九、二四六、六六一	四九二、六四一、四二一	一、五四一、八八八、〇八二
一九三三年	一、三四五、五六七、一八八	六一一、八二七、九九〇	一、九五七、三九五、一七八
一九三四年	一、〇二九、六六五、二二四	五三五、二一四、二七九	一、五六四、八七九、五〇三

二、支那主要國別貿易年表

備考　單位千海關兩

一九三三年以後ハ千元トス

「パーセンテイジ」ハ貿易總額ニ對スル百分率ヲ示ス

一九三二年八月以降ハ滿洲國ヲ含マズ

(一)　日本（臺灣ヲ含ムモ朝鮮、關東州ヲ含マズ）

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	三二三、一四二	二五六、四三八	五七九、五八〇	二五・四〇
一九三〇年	三二三、一六五	二一六、五五五	五四三、七二〇	二四・六六
一九三一年	二九〇、三八七	二六四、九五六	五五五、三四三	二三・九三

一九三二年	一四八、四三一	一〇七、四八四	二五五、九一五	一七・〇七
一九三三年	一三二、三四九	九五、八〇六	二二八、一五五	一一・六五
一九三四年	一二六、八八六	八一、二三二	二〇八、一一八	一三・二二

(二) 米國

備考、比律賓ヲ含マズ下欄ハ米國ノ對支貿易總額ノ米國總貿易額ニ對スル百分率ヲ示ス

年次	輸入	輸出	合計	百分比	米國總貿易額百分比
一九二九年	二三〇、八四四	一三七、八三六	三六八、六八〇	一六・一六	三・一五
一九三〇年	二三二、四〇六	一三一、八八〇	三六四、二八六	一六・五二	二・七七
一九三一年	三二一、三四二	一二〇、二〇五	四四一、五六四	一八・八五	三・六五
一九三二年	二六九、一七六	五九、九九三	三二九、一六九	二一・一六	三・一三
一九三三年	二九七、四六八	一一三、一四六	四一〇、六一四	二〇・九七	二・八七
一九三四年	二七一、七三二	九四、四三五	三六六、一六七	二二・六二	二・九七

(三) 英國

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	一一九、一四九	七四、三三四	一九三、四八三	八・四八
一九三〇年	一〇八、二五八	六二、六六九	一七〇、九二七	七・七五
一九三一年	一一九、三四四	六四、五二六	一八三、八七〇	七・八八
一九三二年	一一九、一九二	三七、五八四	一五六、七七六	一〇・〇七
一九三三年	一五四、〇四一	四八、七六五	二〇二、八〇六	一〇・三六
一九三四年	一二四、六四七	四九、八〇六	一七三、四五三	一一・〇一

(四) 香港

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	二一四、四八一	一七三、五八一	三八八、〇六二	一七・〇一
一九三〇年	二一八、三七〇	一五八、〇一八	三七六、三八八	一七・〇七
一九三一年	二一八、一七〇	一四八、三一二	三六六、四八二	一五・八一
一九三二年	六〇、四七四	七五、六六五	一三六、一三九	八・七五
一九三三年	四八、二八七	一二〇、九五四	一六九、二四一	八・六四
一九三四年	二九、六三九	一〇一、〇〇一	一三〇、六四〇	八・二九

(五) 獨逸

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	六七、〇七六	二二、四五八	八九、五三四	三・九二
一九三〇年	六九、一〇五	二三、三六一	九二、四六四	四・一九
一九三一年	八三、五一四	二三、一三八	一〇六、六五二	四・五五
一九三二年	七一、九一四	二九、八三三	一〇一、七四七	六・五四

一九三三年	一〇八、〇一六	二〇、九七五	一二八、八一一	六・五八
一九三四年	九三、三八九	一九、一五九	一一三、五四八	七・二一

(六) 蘭領印度

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	五五、九九八	一二、四五九	六八、四五七	三・〇〇
一九三〇年	四八、三六〇	一一、七〇七	六〇、〇六七	二・七三
一九三一年	五四、七九〇	一二、九八七	六七、七七七	二・八九
一九三二年	五八、八六九	五、四九〇	六四、三五九	四・一四
一九三三年	七九、四七六	七、二九一	八七、八六七	四・四九
一九三四年	六三、四二七	七、〇五二	七〇、四七九	四・四八

(七) 印度

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	五四、四七九	一七、八一五	七二、二九四	三・一七
一九三〇年	一三九、一六八	一六、九五三	一四九、一二一	六・七六
一九三一年	八四、九八九	一八、一一八	一〇三、一〇七	四・四一
一九三二年	六五、一七〇	二〇、九七七	八六、一四七	五・五四
一九三三年	三四、八二五	二四、四八〇	五九、三〇五	三・〇二
一九三四年	四三、二七六	二二、一六一	六五、四三七	四・一八

(八) 佛領印度支那

年次	輸入	輸出	合計	百分比
一九二九年	一四、五二二	五、七五四	二〇、二七六	—
一九三〇年	二八、一八二	三、八八二	三二、〇六四	—
一九三一年	一一、四八三	二、三九四	一三、八七七	—
一九三二年	五二、三八〇	二、五一二	五四、八九二	三・五三
一九三三年	七五、五二六	三、九九三	七九、五一九	四・〇五
一九三四年	四一、六〇六	四、七六〇	四六、三六六	二・九四

附錄第十二　支那及米國ニ於ケル銀價並ニ物價表

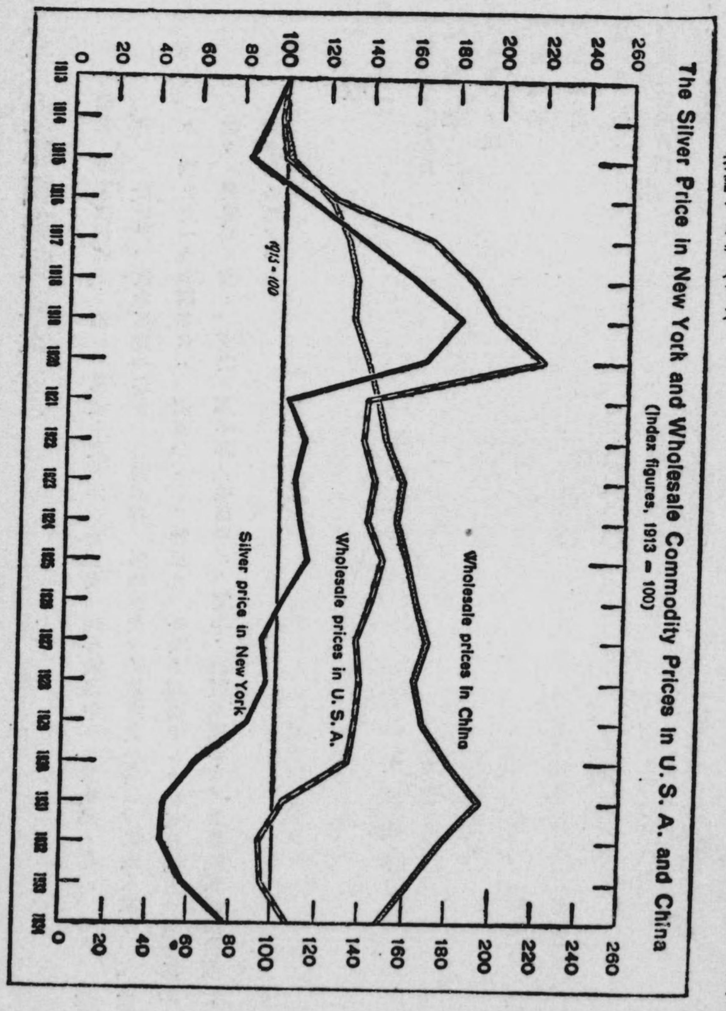
一、上海卸賣物價指數表

備考、國定稅則委員會編、基準年度一九二六年トス
商品ノ種類ハ食料品（五三）、紡織品及材料（三八）、金屬（一二）、燃料（一三）、建築材料（一一）、化學品（一〇）、雜品（一八）、合計百五十五種類ノ平均指數ヲ示ス

年次	指數	年次	指數
一九二五年	九九・三	一九三三年	一〇三・八
一九二六年	一〇〇・〇	一九三四年	—
一九二七年	一〇四・四	一月	九七・二
一九二八年	一〇一・七	二月	九八・〇
一九二九年	一〇四・五	三月	九六・六
一九三〇年	一一四・八	四月	九四・六
一九三一年	一二六・七	五月	九四・九
一九三二年	一一二・四	六月	九五・七

二、北米合衆國及支那ニ於ケル銀價並ニ物價變動表

備考、國濟決濟銀行（Bank for International Settlements）第五次年報（一九三四年—一九三五年）中ヨリ掲記セルモノトス



附錄第十三　支那國際收支表

備考　中國銀行調査ニ據ル、單位千元トス。金、銀、地金輸出中ニハ密輸出ヲ含ム、外人　在支經費中ニハ旅行費、敎會經費慈善金、公館經費、軍隊經費、船舶經費ヲ含ム。密輸入額ハ一九三三年度ハ一割トシ一九三四年度ハ一割五分トシテ計算ス。外商ノ利潤中ニハ在支外國人ノ送金活動「フイルム」賃借料ヲ含ム、支出ノ部不詳ノ項目中ニハ資本ノ逃避及支那人ノ外國株式商品投機ニ依ル損失ヲ含ムモノトス

(一)　收　入

	一九三三年	一九三四年
一、商品輸出	六一一、八〇〇	五三五、二〇〇
二、輸出申告價トノ差	六一、二〇〇	八〇、三〇〇
三、金地金輸出	一八九、四〇〇	一一一、五〇〇（密輸六〇、〇〇〇）
四、銀地金輸出	一四、四〇〇	二七九、九〇〇（密輸二〇、〇〇〇）
五、華僑送金	二〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
六、外人投資及信用貸附	三〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇
七、外人ノ在支經費	二一五、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
八、支那人所有外國證券收益	五、〇〇〇	—
九、不　詳	二八二、四〇〇	一九三四年
合　計	一、六〇九、二〇〇	一、五一六、九〇〇

(二)　支　出

	一九三三年	一九三四年
一、商品輸入	一、三四五、六〇〇	一、〇二九、七〇〇
二、密輸入	一三四、六〇〇	一五四、五〇〇
三、外債償還	九三、〇〇〇	一一二、六〇〇
四、在外公館經費及留學費	六、〇〇〇	六、〇〇〇
五、外商ノ利潤	三〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
六、不　詳	—	一九四、一〇〇
合　計	一、六〇九、二〇〇	一、五一六、九〇〇

附錄第十四　中華民國銀本位幣鑄造條例

銀本位幣鑄造條例

（民國二十二年三月八日公布、實施）

第一條　銀本位幣ノ鑄造ハ專ラ中央造幣廠ニ於テノミ之ヲ爲ス

第二條　銀本位幣ノ單位ヲ元ト稱ス其ノ總重量ハ二六・六九七一「グラム」トシ銀八八、銅一二ノ割合トス、卽チ純銀二三・四九三四四八「グラム」ヲ含ム

第三條　銀本位幣ノ型式ハ財政部ニ於テ之ヲ考案シ國民政府命令ヲ以テ之ヲ公布ス

第四條　銀本位幣一元ヲ百分トシ一分ヲ十厘トス

第五條　銀本位幣每元ノ重量ト法定重量トノ公差ハ一萬分ノ三ヲ超ユルヲ得ズ

第六條　銀本位幣每一千元合計ノ重量ト法定重量トノ公差ハ一萬分ノ三ヲ超ユルヲ得ズ

第七條　銀本位幣每元ノ銀純分トノ公差ハ千分ノ三ヲ超ユルヲ得ズ

第八條　凡テノ公私貸借及ビ一切ノ取引ニハ銀本位幣ヲ用ヒテ授受ス、其ノ額ニ制限ナシ

第九條　舊一元銀貨ニシテ原定重量及ビ純分ヲ有スルモノハ一定期限內銀本位幣ト同樣行使スルコトヲ得

前項ノ期限ハ財政部命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　銀本位幣ニシテ行使久シキニ亙ルモノハ之ヲ中央造幣廠ニ提出シテ同額ノ新幣ト交換スルコトヲ得、但シ其ノ重量純分ハ本條例第二條、第五條、第六條、第七條ノ規定ト等シキコトヲ要ス

第十一條　凡テ鑄幣用ノ銀類又ハ舊銀貨ヲ以テ中央造幣廠ニ對シ銀本位幣ニ改鑄ヲ請求セントスル者ハ左記各項ノ規定ニ據ルベシ

（一）品位九九九位ノ銀類ニ對シテハ每元純銀二三・四九三四四八「グラム」ヲ納入スル外ニ鑄造費一元ノ百分ノ二・二五ヲ納入スベシ

（二）舊銀貨ニシテ原定重量及ビ純分アルモノハ無鑄造料ヲ以テ同額ノ銀本位幣ト引換フベシ

（三）品位九九九位未滿ノ銀類及ビ原定重量及ビ純分ナキ舊銀貨ニ對シテハ其ノ含有スル純分ニ依リ換算シ鑄造費一元ノ百分ノ二・二五ヲ納入スベシ

前項ノ銀類及ビ銀貨ニシテ純分複雜ノモノハ鑄造費ノ外ニ相當ノ精煉費ヲ徵收スルコトヲ得

第十二條　中央造幣廠ハ廠條ヲ鑄造スルコトヲ得、之ヲ分チテ甲乙ノ二種トナス、甲種ハ重量二三四九四三・四八「グラム」、品位千分ノ九九九トシ、乙種ハ重量二六六九七・一「グラム」、銀八八銅一二ニシテ銀本位幣一千圓ニ相當シ其旨廠條表面ニ標記ス、乙種廠條ノ重量品位ノ公差ハ悉ク本條例第六條、第七條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　凡テ銀類ヲ以テ中央造幣廠ニ對シ廠條ノ鑄造ヲ請求セント欲スル者ハ左記各項ノ規定ニ據ルベシ

（一）品位九九九位ノ銀類ニ對シテハ鑄造費百分ノ二・二五ヲ納入スベシ

（二）品位九九九位未滿ノ銀類ニ對シテハ其ノ精煉シテ得ラルル純分ニ按ジ計算シ一廠條毎ニ鑄造費百分ノ二・二五ヲ徵スル外相當ノ精煉費ヲ課スルコトヲ得

第十四條　中央造幣廠廠條ヲ以テ中央造幣廠ニ對シ銀本位幣ニ交換ヲ請求スル者ハ其ノ重量及ビ純分ガ原狀ト合致スルモノニ對シテハ中央造幣廠ハ每廠條ニ標記ノ數ヲ按照シ右數ヲ以テ銀本位幣ト交換ス、然ラザルモノハ其ノ含有純分ニ照シテ交換ス

第十五條　本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附錄第十五、一九三三年國際銀決議

Bt it resolved to recommend to all the Governments parties to this Conference:

(a) That an agreement be sought between the chief silver producing countries and those countries which are the largest holders or users of silver with a view to mitigating fluctuations in the price of silver; and that the other nations not parties to this agreement should refrain from measures which could appreciably affect the silver market.

(b) That they shall refrain from new legislative measures which would involve further debasement of their silver coinage below a fineness of 800/1000.

(c) That they shall substitute silver coins for low value paper currency in so far as the budgetary and local conditions of each country will permit.

(d) That all of the provisions of this Resolution are subject to the following exceptions and limitations;

The requirements of such provisions shall lapse on April 1st, 1934, if the agreement recommended in paragraph (a) does not come into force by that date, and in no case shall extend beyond January 1st, 1938;

Governments may take any action relative to their silver coinage that they may deem necessary to prevent the flight or destruction of their silver coinage by reason of a rise in the bullion price of the silver content of their coin above the nominal or parity value of such silver coin.

附錄第十六、一九三三年八ヶ國銀協定

MEMORANDUM OF HEADS OF AGREEMENT ENTERED INTO BY THE DELEGATES OF INDIA, CHINA AND SPAIN AS HOLDERS OF LARGE STOCKS OR USERS OF SILVER, AND OF AUSTRALIA, CANADA, THE UNITED STATES, MEXICO, AND PERU AS PRINCIPAL PRODUCERS OF SILVER, AT THE MONETARY AND ECONOMIC CONFERENCE HELD IN LONDON, JULY 1935.

Preamble (omitted)

1.a. That the Government of India shall not dispose by sale of more than one hundred and forty million fine ounces of silver during a period of four years, commencing with January 1st, 1934. The disposals during each calendar year of the said four year period shall be based on an average of thirty-five million fine ounces per year, it being understood, however, that, if in any year, the Government of India shall not dispose of thirty-five million fine ounces, the difference between the amount actually disposed of and thirty-five million fine ounces may be added as additional

disposals in subsequent years. Provided further that the maximum amount disposed of in any year shall be limited to fifty million fine ounces.

b. Notwithstanding anything previously stated in this Article, it is understood that if the Government of India should after the date of this agreement sell silver to any Government for the purpose of transfer to the United States Government in payment of war debts such silver be excluded from the scope of this agreement.

c. Provided, however, that when the total of the disposals referred to in Paragraph "a" above plus sales referred to in Paragraph "b" above by the Government of India under this agreement shall amount to one hundred and seventy-five million of fine ounces, the obligations of the parties hereto shall cease.

2. That the Governments of Australia, Canada, the United States, Mexico and Peru, during the existence of this agreement, shall not sell any silver, and shall also in the aggregate purchase, or otherwise arrange for withdrawing from the market, thirty-five million fine ounces of silver from the mine production of such countries in each calendar year for a period of four years commencing with the calendar year 1934. The said Governments undertake to settle by agreement the share in the said thirty-five million fine ounces which each of them shall purchase or cause to be withdrawn.

3. That the silver purchased or withdrawn in accordance with Article 2 above shall be used for currency purposes (either for coinage or for currency reserves), or be otherwise retained from sale during said period of four years.

4. That the Government of China shall not sell silver resulting from demonetized coins for a period of four calendar years commencing January 1st, 1934.

5. That the Government of Spain shall not dispose by sale or more than twenty million fine ounces of silver during a period of four years commencing with January 1, 1934. The disposals during each calendar year of the said four-year period shall be based on an average of five million fine ounces per year; it being understood, however, that if in any year the Government of Spain shall not dispose of five million fine ounces, the difference between the amount actually disposed of and five million fine ounces may be added as additional disposals in subsequent years; provided further that the maximum amount disposed of in any year shall be limited to seven million fine ounces.

6. That the Governments concerned will exchange all such information as may be necessary with regard to the measures to fulfill the provisions of the memorandum of agreement.

7. That it is understood, that subject to the provisions of Article 8, the under-

takings of each party to the present memorandum of agreement are conditional upon the fulfilment of the undertakings of every other party thereto.

8. That this memorandum of agreement is subject to ratification by the Governments concerned. The instruments of ratification shall be deposited not later than the 1st April 1934, with the Government of the United States. It shall come into force as soon as the ratifications of all the Governments concerned are received provided that all the ratifications are received before the 1st April, 1934. A notice by any Government that the affirmative action necessary to carry out the purposes of this Agreement has been taken will be accepted as an instrument of ratification. Nevertheless, if one or more of the Governments enumerated in Article 2 fail to ratify by the 1st April, 1934, the agreement shall come into force at that date if the other Governments mentioned in Article 2 which have ratified notify the other Governments which ratify that they are prepared to purchase, or cause to be withdrawn, in the aggregate the amount of silver mentioned in Article 2. The Governments of the United States is requested to take such steps as may be necessary for the purpose of the conclusion of this agreement.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned have signed the present memorandum of agreement.

Done at London this 22nd day of July, 1933, in a single copy which shall be deposited in the archives of the Government of the United States.

附錄第十七、一九三四年八月大統領布告

BY THE PRESIDENT OF THE UNITED STATES OF AMERICA
A PROCLAMATION.

WHEREAS, by Paragraph (2) of Section 43, Title III, of the Act of Congress, approved May 12, 1933 (Public No. 10), as amended by the Gold Reserve Act of 1934, the President is authorized "By proclamation to fix the weight of the gold dollar in grains nine tenths fine and also to fix the weight of the silver dollar in grains nine tenths fine at a definite fixed ratio in relation to the gold dollar at such amounts as he finds necessary from his investigation to stabilize domestic prices or to protect the foreign commerce against the adverse effect of depreciated foreign currencies, and to provide for the unlimited coinage of such gold and silver at the ratio so fixed,——"; and "The President, in addition to the authority to provide for the unlimited coinage of silver at the ratio so fixed, under such terms and conditions as he may prescribe, is further authorized to cause to be issued and delivered to the tenderer of silver for coinage, silver certificates in lieu of the standard silver dollars to which the tenderer would be entitled and in an amount in dollars equal to the number of coined standard silver dollars that the tenderer of such silver for coinage would receive in standard silver dollars"; and "The President is further authorized to issue silver certificates in such denominations as he may prescribe against any silver bullion, silver, or standard silver dollars in the Treasury not then held for redemption of any outstanding silver certificates, and to coin standard silver dollars or subsidiary currency for the redemption of such silver certificates"; and

WHEREAS, the Silver Purchase Act of 1934, approved June 19, 1934, provides in Sections 2, 5, and 7, in part, as follows:

"Sec. 2. It is hereby declared to be the policy of the United States that the proportion of silver to gold in the monetary stocks of the United States should be increased, with the ultimate objective of having and maintaining, one fourth of the monetary value of such stocks in silver."

"Sec. 5. The Secretary of the Treasury is authorized and directed to issue silver certificates in such denominations as he may from time to time prescribe in a face amount not less than the cost of all silver purchased under the authority of section 3, and such certificates shall be placed in actual circulation. There shall be maintained in the Treasury as security for all silver certificates heretofore or hereafter issued and at the time outstanding an amount of silver in

bullion and standard silver dollars of a monetary value equal to the face amount of such silver certificates. All silver certificates heretofore or hereafter issued shall be legal tender for all debts, public and private, public charges, taxes, duties, and dues, and shall be redeembale on demand at the Treasury of the United States in standard silver dollars; and the Secretary of the Treasury is authorized to coin standard silver dollars for such redemption."

"Sec. 7. Whenever in the judgment of the President such action is necessary to effectuate the policy of this Act, he may by Executive order require the delivery to the United States mints of any or all silver by whomever owned or possessed. The silver so delivered shall be coined into standard silver dollars or otherwise added to the monetary stocks of the United States as the President may determine; and there shall be returned therefor in standard silver dollars, or any other coin or currency of the United States, the monetary value of the silver so delivered less such deductions for seigniorage, brassage, coinage, and other mint charges as the Secretary of the Treasury with the approval of the President shall have determined: *Provided,* That in no case shall the value of the amount returned therefor be less than the fair value at the time of such order of the silver required to be delivered as such value is determined by the market price over a reasonable period terminating at the time of such order. ——"

NOW, THEREFORE, finding it necessary, in my judgment, to effectuate the policy of the Silver Purchase Act of 1934, to assist in increasing and stabilizing domestic prices, to protect our foreign commerce against the adverse effect of depreciated foreign currencies, and to promote the objectives of the Proclamation of the 21st day of December, nineteen hundred and thirty-three, relating to the coinage of silver; by virtue of the power in me vested by the Acts of Congress above cited, and other legislation designated for national recovery, and by virtue of all other authority in me vested;

I, FRANKLIN D. ROOSEVELT, PRESIDENT of the UNITED STATES of AMERICA, do proclaim and direct that each United States mint shall receive for coinage or for addition to the monetary stocks of the United States, as hereinafter determined, any silver which such mint, subject to regulations prescribed hereunder by the Secretary of the Treasury, is satisfied was situated on the effective date hereof in the continental United States, including the Territory of Alaska.

The silver so delivered shall be added to the monetary stocks of the United States and shall be coined from time to time into standard silver dollars in such amounts as are required to carry out the provisions of this Proclamation and to pro-

vide for the redemption of silver certificates; and there shall be returned therefor in standard silver dollars, silver certificates, or any other coin or currency of the United States, the monetary value of the silver so delivered (that is, $1.2929 a fine troy ounce), less a deduction of 61 8/25 per cent thereof for seigniorage, brassage, coinage, and other mint charges, such deduction having been determined by the Secretary of the Treasury with my approval.

The provisions hereof are supplemental to the provisions of the Proclamation of the 21st of December, nineteen hundred and thirty-three, and the United States coinage mints shall continue to receive for coinage in accordance with the provisions of such Proclamation silver which such mint, subject to regulations prescribed thereunder by the Secretary of the Treasury, is satisfied has been mined subsequently to the date of such Proclamation, from natural deposits in the United States or any place subject to the jurisdiction thereof; *provided, however,* that the Director of the Mint shall, at the option of the tenderer of silver, deliver silver certificates in lieu of the standard silver dollars to which the tenderer of such silver for coinage would be entitled and in an amount in dollars equal to the coined standard silver dollars that the tenderer of such silver for coinage would receive in standard silver dollars.

The Secretary of the Treasury is authorized to prescribe regulations to carry out the purposes of this Proclamation.

Notice is hereby given that I reserve the right by virtue of the authority vested in me to revoke or modify this Proclamation as the interest of the United States may seem to require.

This Proclamation shall bear the date of, and becomes effective on, the day on which the Secretary or Acting Secretary of State countersigns the same, affixes thereto the Seal of the United States, and deposits this Proclamation so countersigned and sealed in the Office of the Secretary of State, as a part of the archives of the Nation.

IN WITNESS WHEREOF I have hereunto set my hand.

FRANKLIN D. ROOSEVELT

By the President; and countersigned and
sealed with the Seal of the United States,
by direction of the President, this 9th day
of August , in the year of our Lord nineteen
hundred and thirty-four, and of the Independence of
the United States of America the one hundred and thirty-ninth

CORDELL HULL
Secretary of State

附錄第十八、一九三四年五月大統領教書

MESSAGE FROM THE PRESIDENT OF THE UNITED STATES RECOMMENDING ENACTMENT OF LEGISLATION DECLARING IT TO BE THE POLICY OF THE UNITED STATES TO INCREASE THE AMOUNT OF SILVER IN OUR MONETARY STOCKS WITH THE ULTIMATE OBJECTIVE OF HAVING AND MAINTAINING ONE-FOURTH OF THEIR MONETARY VALUE IN SILVER AND THREE-FOURTHS IN GOLD.

To the Congress of the United States:

On January 11, 1934, I recommended to the Congress legislation which was promptly enacted under the title, "The Gold Reserve Act of 1934." This act vested in the United States Government the custody and control of our stocks of gold as a reserve for our paper currency and as a medium of settling international balances. It set up a stabilization fund for the control of foreign exchange in the interests of our people, and certain amendments were added to facilitate the acquisition of silver.

As stated in my message to the Congress, this legislation was recommended as a step in improving our financial and monetary system. Its enactment has laid a foundation on which we are organizing a currency system that will be both sound and adequate. It is a long step forward, but only a step.

As a part of the larger objective, some things have been clear. One is that we should move forward as rapidly as conditions permit in broadening the metallic base of our monetary system and in stabilizing the purchasing and debt-paying power of our money on a more equitable level. Another is that we should not neglect the value of an increased use of silver in improving our monetary system. Since 1929 that has been obvious.

Some measures for making a greater use of silver in the public interest are appropriate for independent action by us. On others, international cooperation should be sought.

Of the former class is that of increasing the proportion of silver in the abundant metallic reserves back of our paper currency. This policy was initiated by the proclamation of December 21, 1933, bringing our current domestic production of silver into the Treasury, as well as placing this Nation among the first to carry out the agreement on silver which we sought and secured at the London Conference. We have since acquired other silver in the interest of stabilization of foreign exchange

and the development of a broader metallic base for our currency. We seek to remedy a maladjustment of our currency.

In further aid of this policy, it would be helpful to have legislation broadening the authority for the further acquisition and monetary use of silver.

I, therefore, recommend legislation at the present session declaring it to be the policy of the United States to increase the amount of silver in our monetary stocks with the ultimate objective of having and maintaining one-fourth of their monetary value in silver and three-fourths in gold.

The Executive authority should be authorized and directed to make the purchases of silver necessary to attain this ultimate objective.

The authority to purchase present accumulations of silver in this country should be limited to purchases at not in excess of 50 cents per ounce.

The Executive authority should be enabled, should circumstances require, to take over present surpluses of silver in this country not required for industrial uses on payment of just compensation, and to regulate imports, exports, and other dealings in monetary silver.

There should be a tax of at least 50 percent on the profits accruing from dealing in silver.

We can proceed with this program of increasing our store of silver for use as a part of the metallic reserves for our paper currency without seriously disturbing adjustments in world trade. However, because of the great world supply of silver and its use in varying forms by the world's population, concerted action by all nations, or at least a large group of nations, is necessary if a permanent measure of value, including both gold and silver, is eventually to be made a world standard. To arrive at that point, we must seek every possibility for world agreement although it may turn out that this Nation will ultimately have to take such independent action on this phase of the matter as its interests require.

The success of the London Conference in consummating an international agreement on silver, which has now been ratified by all the governments concerned, makes such further agreement worth seeking. The ebb and flow of values in almost all parts of the world have created many points of pressure for readjustments of internal and international standards. At no time since the efforts of this Nation to secure international agreement on silver began in 1878 have conditions been more favorable for making progress along this line.

Accordingly, I have begun to confer with some of our neighbors in regard to the use of both silver and gold, preferably on a coordinated basis, as a standard of

monetary value. Such an agreement would constitute an important step forward toward a monetary unit of value more equitable and stable in its purchasing and debt-paying power.

FRANKLIN D. ROOSEVELT.

The White House, *May 22, 1934.*

附錄第十九、一九三四年銀購買法

SILVER PURCHASE ACT OF 1934.

Be it enacted by the Senate and House of Representatives of the United States of America in Congress assembled, That the short title of this Act shall be the "Silver Purchase Act of 1934."

SEC. 2. It is hereby declared to be the policy of the United States that the proportion of silver to gold in the monetary stocks of the United States should be increased, with the ultimate objective of having and maintaining, one-fourth of the monetary value of such stocks in silver.

SEC. 3. The Secretary of the Treasury is authorized and directed to purchase silver, at home or abroad, for present or future delivery with any direct obligations, coin, or currency of the United States, authorized by law, or with any funds in the Treasury not otherwise appropriated, at such rates, at such times, and upon such terms and conditions as he may deem reasonable and most advantageous to the public interest: *Provided,* That no purchases of silver shall be made hereunder (a) at a price in excess of the monetary value thereof or (b) whenever and so long as

the monetary value of the stocks of silver is equal to or greater than 25 per centum of the monetary value of the stocks of gold and silver: *And provided further,* That no purchases of silver, situated in the continental United States on May 1, 1934, shall be made hereunder at a price in excess of 50 cents a fine ounce.

SEC. 4. Whenever and so long as the market price of silver exceeds its monetary value or the monetary value of the stocks of silver is greater than 25 per centum of the monetary value of the stocks of gold and silver, the Secretary of the Treasury may, with the approval of the President and subject to the provisions of section 5, sell any silver acquired under the authority of this Act, at home or abroad, for present or future delivery, at such rates, at such times, and upon such terms and conditions as he may deem reasonable and most advantageous to the public interest.

SEC. 5. The Secretary of the Treasury is authorized and directed to issue silver certificates in such denominations as he may from time to time prescribe in a face amount not less than the cost of all silver purchased under the authority of section 3. There shall be maintained in the Treasury as security for all silver certificates heretofore or hereafter issued and at the time outstanding an amount of silver in bullion and standard silver dollars of a monetary value equal to the face amount of such silver certificates. All silver certificates heretofore or hereafter issued shall be

legal tender for all debts, public and private, public charges, taxes, duties, and dues, and shall be redeemable on demand at the Treasury of the United States in standard silver dollars; and the Secretary of the Treasury is authorized to coin standard silver dollars for such redemption.

SEC. 6. Whenever in his judgment such action is necessary to effectuate the policy of this Act, the Secretary of the Treasury is authorized, with the approval of the President, to investigate, regulate, or prohibit, by means of licences or otherwise, the acquisition, importation, exportation, or transportation of silver and of contracts and other arrangements made with respect thereto; and to require the filling of reports deemed by him reasonably necessary in connection therewith. Whoever willfully violates the provisions of any license, order, rule, or regulation issued pursuant to the authorization contained in this section shall, upon conviction, be fined not more than $10,000 or, if a natural person, may be imprisoned for not more than ten years, or both; and any officer, director, or agent of any corporation who knowingly participates in such violation may be punished by a like fine, imprisonment, or both.

SEC. 7. Whenever in the judgment of the President such action is necessary to regulate the value of the money of the United States, he may by Executive order require the delivery to the United States mints of any or all silver by whomever

owned or possessed. The silver so delivered shall be coined into standard silver dollars or otherwise added to the monetary stocks of the United States as the President may determine; and there shall be returned therefor in standard silver dollars, or any other coin or currency of the United States, the monetary value of the silver so delivered less such deductions for seigniorage, brassage, coinage, and other mint charges as the Secretary of the Treasury with the approval of the President shall have determined: *Provided,* That in no case shall the value of the amount returned therefor be less than the fair value at the time of such order of the silver required to be delivered as such value is determined by the market prive over a reasonable period terminating at the time of such order. The Secretary of the Treasury shall pay all necessary costs of the transportation of such silver and standard silver dollars, coin, or currency, including the cost of insurance, protection, and such other incidental costs as may be reasonably necessary. Any silver withheld in violation of any Executive order issued under this section or of any regulations issued pursuant thereto shall be forfeited to the United States, and may be seized and condemned by like proceedings as those provided by law for the forfeiture, seizure, and condemnation of property imported into the United States contrary to law; and, in addition, any person failing to comply with the provisions of any such Executive order or regulation shall be subject to a penalty equal to twice the monetary value of the silver in respect of which such failure occurred.

SEC. 8. Schedule A of title VIII of the Revenue Act of 1926, as amended (relating to stamp taxes), is amended by adding at the end thereof a new subdivision to read as follows:

"10. SILVER, AND SO FORTH, SALES AND TRANSFERS.—On all transfers of any interest in silver bullion, if the price for which such interest is or is to be transferred exceeds the total of the cost thereof and allowed expenses, 50 per centum of the amount of such excess. On every such transfer there shall be made and delivered by the transferor to the transferee a memorandum to which there shall be affixed lawful stamps in value equal to the tax thereon. Every such memorandum shall show the date thereof, the names and addresses of the transferor and transferee, the interest in silver bullion to which it refers, the price for which such interest is or is to be transferred and the cost thereof and the allowed expenses. Any person liable for payment of tax under this subdivision (or any one who acts in the matter as agent or broker for any such person) who is a party to any such transfer, or who in pursuance of any such transfer delivers any silver bullion or interest therein, without a memorandum stating truly and completely the information herein required, or

who delivers any such memorandum without having the proper stamps affixed thereto, with intent to evade the foregoing provisions, shall be deemed guilty of a misdemeanor, and upon conviction thereof shall pay a fine of not exceeding $1,000 or be imprisoned not more than six months, or both. Stamps affixed under this subdivision shall be canceled (in lieu of the manner provided in section 804) by such officers and in such manner as regulations under this subdivision shall prescribe. Such officers shall cancel such stamps only if it appears that the proper tax is being paid, and when stamps with respect to any transfer are so canceled, the transferor and not the transferee shall be liable for any additional tax found due or penalty with respect to such transfer. The provisions of this subdivision shall extend to all transfers in the United States of any interest in silver bullion, and to all such transfers outside the United States if either party thereto is a resident of the United States or is a citizen of the United States who has been a resident thereof within three months before the date of the transfer, or if such silver bullion or interest therein is situated in the United States; and shall extend to transfers to the United States Government (the tax in such cases to be payable by the transferor), but shall not extend to transfers of silver bullion by deposit or delivery at a United States mint under proclamation by the President or in compliance with any Executive order issued pursuant to section 7 of the Silver Purchase Act of 1934. The tax under this subdivision on transfers enumerated in subdivision 4 shall be in addition to the tax under such subdivision. This subdivision shall apply (1) with respect to all transfers of any interest in silver bullion after the enactment of the Silver Purchase Act of 1934, and (2) with respect to all transfers of any interest in silver bullion on or after May 15, 1934, and prior to the enactment of the Silver Purchase Act of 1934, except that in such cases it shall be paid by the transferor in such manner, and at such time as the Commissioner, with the approval of the Secretary of the Treasury, may by regulations prescribe, and the requirement of a memorandum of such transfer shall not apply.

" As used in this subdivision—

" The term ' cost ' means the cost of the interest in silver bullion to the transferor, except that (a) in case of silver bullion produced from materials containing silver which has not previously entered into industrial, commercial, or monetary use, the cost to a transferor who is the producer shall be deemed to be the market price at the time of production determined in accordance with regulations issued hereunder; (b) in the case of an interest in silver bullion acquired by the transferor otherwise than for valuable consideration, the cost shall be deemed to be the cost thereof to the

last previous transferor by whom it was acquired for a valuable consideration; and (c) in the case of any interest in silver bullion acquired by the transferor (after April 15, 1934, and before the tax under this subdivision takes effect) in a wash sale, the cost shall be deemed to be the cost to him of the interest transferred by him in such wash sale, but with proper adjustment, in accordance with regulations under this subdivision, when such interests are in silver bullion for delivery at different times.

"The term 'transfer' means a sale, agreement of sale, agreement to sell, memorandum of sale or delivery of, or transfer, whether made by assignment in blank or by any delivery, or by any paper or agreement or memorandum or any other evidence of transfer or sale; or means to make a transfer as so defined.

"The term 'interest in silver bullion' means any title or claim to, or interest in, any silver bullion or contract therefor.

"The term 'allowed expenses' means usual and necessary expenses actually incurred in holding, refining, or transporting the interest in silver bullion as to which an interest is transferred (including storage, insurance, and transportation charges but not including interest, taxes, or charges in the nature of overhead), determined in accordance with regulations issued hereunder.

"The term 'memorandum' means a bill, memorandum, agreement, or other evidence of a transfer.

"The term 'wash sale' means a transaction involving the transfer of an interest in silver bullion and, within thirty days before or after such transfer, the acquisition by the same person of an interest in silver bullion. Only so much of the interest so acquired as does not exceed the interest so transferred, and only so much of the interest so transferred as does not exceed the interest so acquired, shall be deemed to be included in the wash sale.

"The term 'silver bullion' means silver which has been melted, smelted, or refined and is in such state or condition that its value depends primarily upon the silver content and not upon its form."

SEC. 9. The Secretary of the Treasury is hereby authorized to issue, with the approval of the President, such rules and regulations as the Secretary of the Treasury may deem necessary or proper to carry out the purposes of this Act, or of any order issued hereunder.

SEC. 10. As used in this Act—

The term "person" means an individual, partnership, association, or corporation;